
女性の“働くこと”についての調査

調査結果報告書

平成 2 8 年 3 月

千 葉 市

千葉市男女共同参画センター

目 次

I	調査概要	1
1	調査目的	1
2	調査方法	1
3	回収結果	1
4	報告書を読む際の注意事項	2
5	比較を行った調査の概要	2
6	標本誤差	3
7	調査の構成	4
8	回答者の属性	5
	(1) 年代	5
	(2) 就労形態	6
	(3) 通勤時間（有償労働者のみ）	8
	(4) 結婚の有無	9
	(5) 家族形態	11
	(6) 子ども（末子）の成長段階	13
II	調査結果	15
1	女性の就労意識	15
	(1) 仕事をする目的や意味	15
	(2) 仕事を選ぶ際に重視すること、したいこと	18
	(3) 望ましい就労形態	23
	(4) 望ましい就労形態を選んだ理由	28
2	就労していない方（無償労働者）の現状	32
	(1) 就労経験の有無	32
	(2) 前職の就労形態	33
	(3) 離職理由	34
	(4) 今後仕事に就く意思	36
3	就労している方（有償労働者）の現状	39
	(1) 勤続年数	39
	(2) 現在の仕事の満足度	42
	(3) 現在の仕事に「満足している」理由	45
	(4) 現在の仕事に「満足していない」理由	49
	(5) 管理職への登用希望	52
	(6) 管理職への登用を「望まない」理由	56
	(7) 仕事・転職にまつわる不安や障害	58
	(8) 現在の仕事の継続意向	64
	(9) 仕事を変えたい理由	66

4	女性が仕事をする上で必要なこと	67
(1)	女性が働き続けるために必要なこと	67
(2)	出産等で離職した女性が、再び社会で活躍する仕方	69
(3)	女性の昇進・昇格の障害となるもの	72
(4)	女性の活躍推進の取組みに関する情報のうち、特に必要な情報.....	74
	<自由意見>	77
III	調査結果のまとめ	89
1	女性の就労意識	89
2	就労していない方（無償労働者）の現状.....	90
3	就労している方（有償労働者）の現状	90
4	女性が仕事をする上で必要なこと	92
5	今後に向けて	93
	<調査票>	94

I 調査概要

1 調査目的

本調査は、女性の“働くこと”に対する意識や働き方の実態、働き続けるために必要なことなどについて把握し、男女共同参画社会の実現のための具体的な施策に活かすことを目的とする。

2 調査方法

- | | |
|----------|-----------------------------------|
| (1) 調査区域 | 千葉市全域 |
| (2) 調査対象 | 千葉市在住の満 20 歳以上 60 歳未満の女性 3,000 人 |
| (3) 抽出方法 | 住民基本台帳より無作為抽出 |
| (4) 調査方法 | 往復郵送法 |
| (5) 調査期間 | 平成 27 年 7 月 14 日～平成 27 年 7 月 31 日 |

3 回収結果

- | | |
|-----------|---------|
| (1) 配布数 | 3,000 件 |
| (2) 回収数 | 1,113 件 |
| (3) 回収率 | 37.1% |
| (4) 有効回答数 | 1,110 件 |
| (5) 有効回答率 | 37.0% |

4 報告書を読む際の注意事項

- (1) アンケート集計は、各設問の単純集計と平成 20 年度に行った「女性の“働くこと”についての調査」などとの比較、並びに、年代と各設問とのクロス集計を行った。
- (2) 調査結果の数値は原則として回答率 (%) を表記し、小数点以下第 2 位を四捨五入し、小数点以下第 1 位までを表記する。このため、単数回答の合計が 100.0% とならない場合 (例 : 99.9%、100.1%) がある。また、一人の回答者が 2 つ以上の回答をしてもよい質問 (複数回答) では、回答率が 100.0% を上回ることがある。
- (3) 年代別、結婚の有無別、子どもの成長段階別等にクロス集計を行う場合、それぞれ無回答の方がいたため、合計が全体と一致しない。
- (4) 本文やグラフ・数表上の選択肢の表記は、場合により語句を簡略化する。
- (5) 本文やグラフ・数表上で次の略称を使用する。 n : 回答者の数
- (6) 就労形態別の分析では、「経営者・事業者」の 8 件、「自由業」の 7 件、「内職・在宅ワーク」の 9 件、「その他」の 12 件は回答者が少ないため、文中での割合の指摘をしていない。
- (7) 表については、回答割合の高い項目について以下の通り、網掛け等で表記を行う。

最も高い割合 (網掛け白抜き)
2 番目に高い割合 (網掛け黒字)

0.0
0.0

5 比較を行った調査の概要

本調査の分析にあたり、比較した調査は次のとおりである。

- (1) 『女性の“働くこと”についての調査』 (平成 20 年度実施)
 - ① 調査企画 千葉市女性センター (現 千葉市男女共同参画センター)
 - ② 調査区域 千葉市全域
 - ③ 調査対象 千葉市在住の満 20 歳以上 60 歳未満の女性 3,000 人
 - ④ 抽出方法 住民基本台帳により無作為抽出
 - ⑤ 調査方法 往復郵送法 (礼状を兼ねた督促状 1 回送付を含む)
 - ⑥ 調査期間 平成 20 年 12 月 11 日～平成 20 年 12 月 27 日
 - ⑦ 配布数 3,000 件
 - ⑧ 有効回答数 1,484 件
 - ⑨ 有効回答率 49.5%

なお、本報告書では、以降「前回調査」と表記。

6 標本誤差

今回の無作為抽出法による調査の場合は、ここで出された数値 (%) をそのまま 20 歳以上 60 歳未満の千葉市在住の女性の回答として単純に置き換えると、多少の誤差が生じる。統計学的には、次式で標本誤差を計算して、20 歳以上 60 歳未満の千葉市在住の女性の回答を推測する。(信頼度 95%)

標本誤差の算定式

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

N = 母集団数 (243,325 人)

(20 歳以上 60 歳未満の千葉市在住の女性・平成 27 年 3 月 31 日現在)

n = 有効回答数 (1,110 件)

P = 回答の比率

今回の意識調査 (n=1,110) における回答比率別標本誤差率

回答比率	標本誤差率
10%または 90%	±1.8%
20%または 80%	±2.4%
30%または 70%	±2.7%
40%または 60%	±2.9%
50%	±3.0%

7 調査の構成

本調査では、全体集計のほか、各フェイス別の集計、クロス集計を行った。また、本調査の構成は以下の通りである。



- **無償労働者**＝現在、家庭内での家事・育児、ボランティアなど無償の労働だけを行っている方。
- **有償労働者**＝現在、労働によって収入を得ている方。仕事に就いているが、現在は休職中の方も含む。
 ※学生や主婦などの方も労働によって収入を得ていれば「仕事に就いている方（有償労働者）」に含まれる。

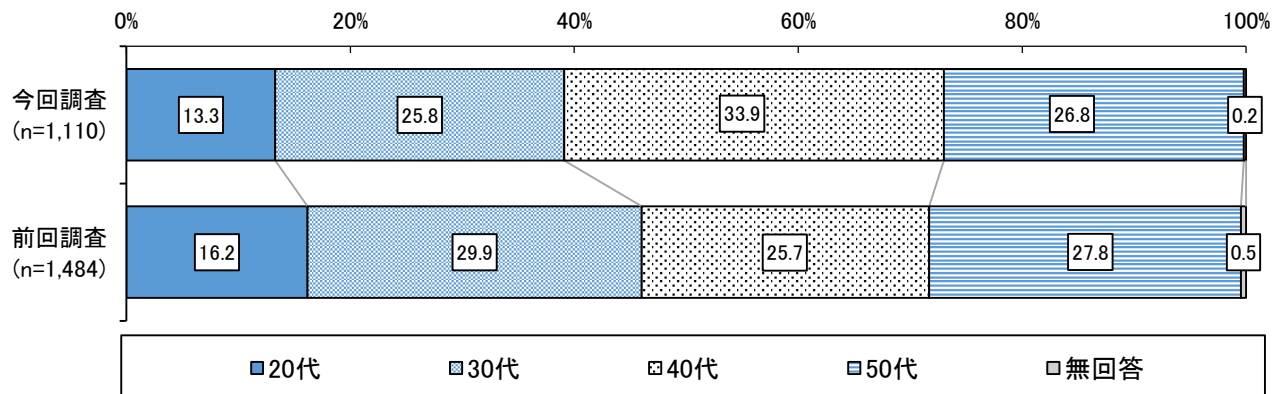
8 回答者の属性

(1) 年代

図表F1-1 年代(全体、n=1,110)

年齢	今回 回答数(件)	前回 回答数(件)
24歳以下	62	99
25～29歳	86	141
30～34歳	131	200
35～39歳	155	243
40～44歳	192	204
45～49歳	184	177
50～54歳	166	174
55歳以上	132	239
無回答	2	7

図表F1-2 年代(前回調査との比較)

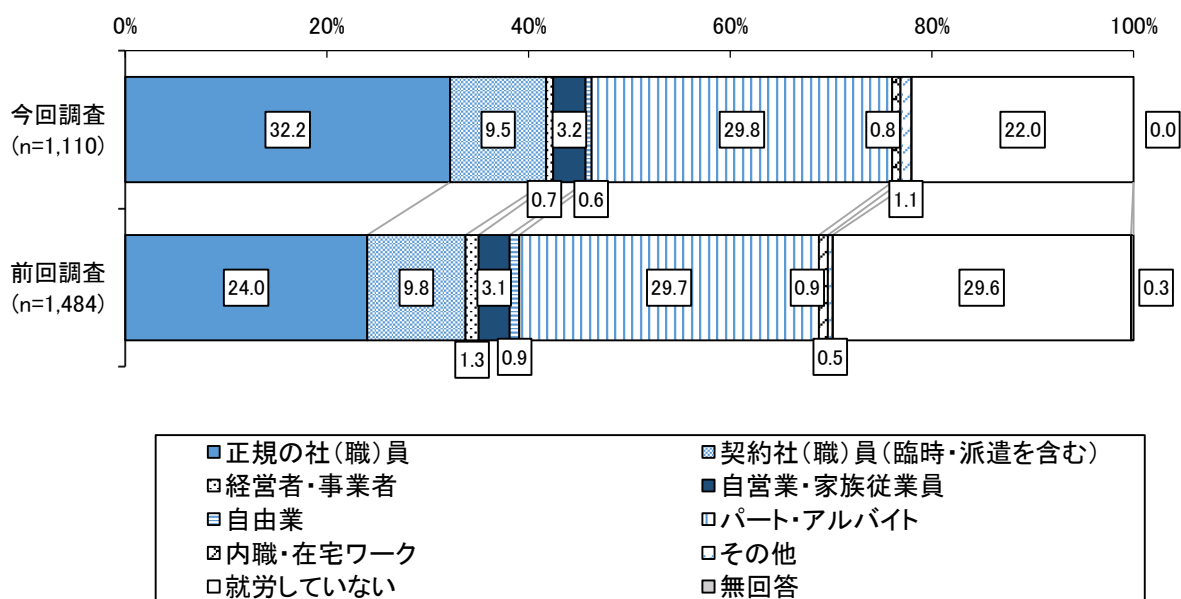


(2) 就労形態

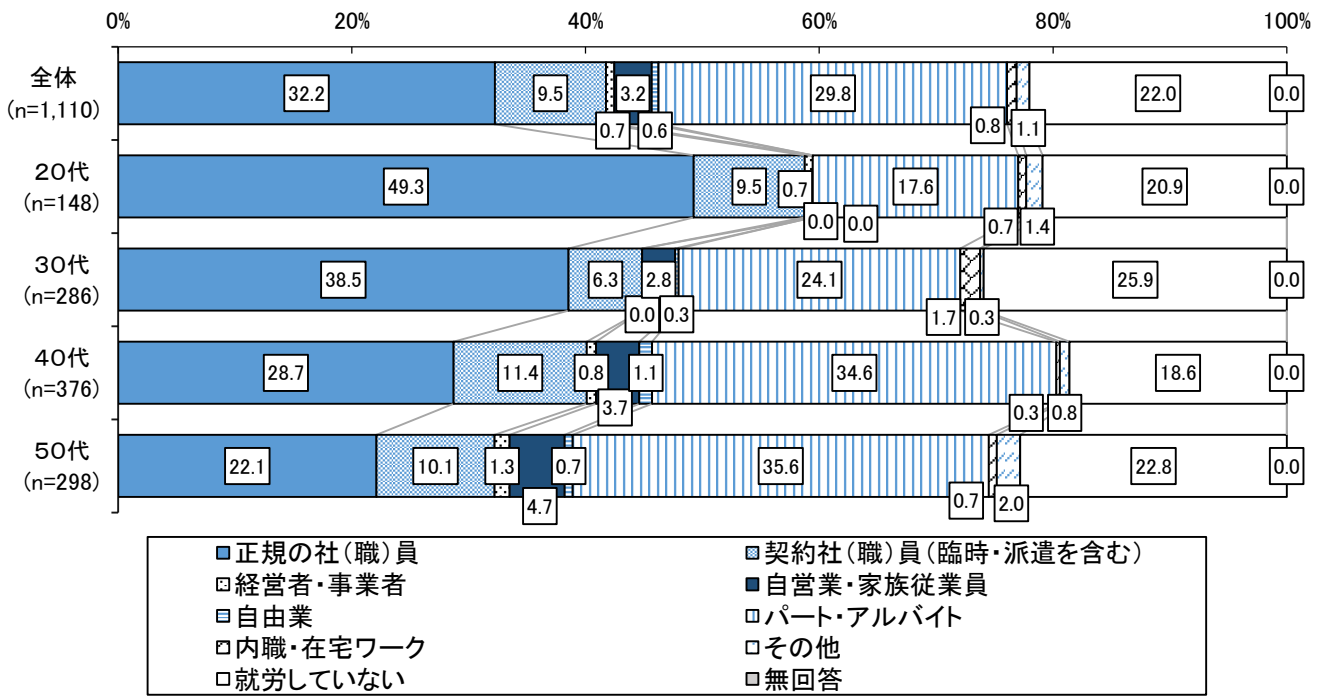
図表F2-1 就労形態(全体、n=1,110)

年齢	今回 回答数(件)	前回 回答数(件)
正規の社(職)員	357	356
契約社(職)員 (臨時・派遣を含む)	106	145
経営者・事業者	8	19
自営業・家族従業員	36	46
自由業	7	14
パート・アルバイト	331	441
内職・在宅ワーク	9	13
その他	12	7
就労していない	244	439
無回答	0	4

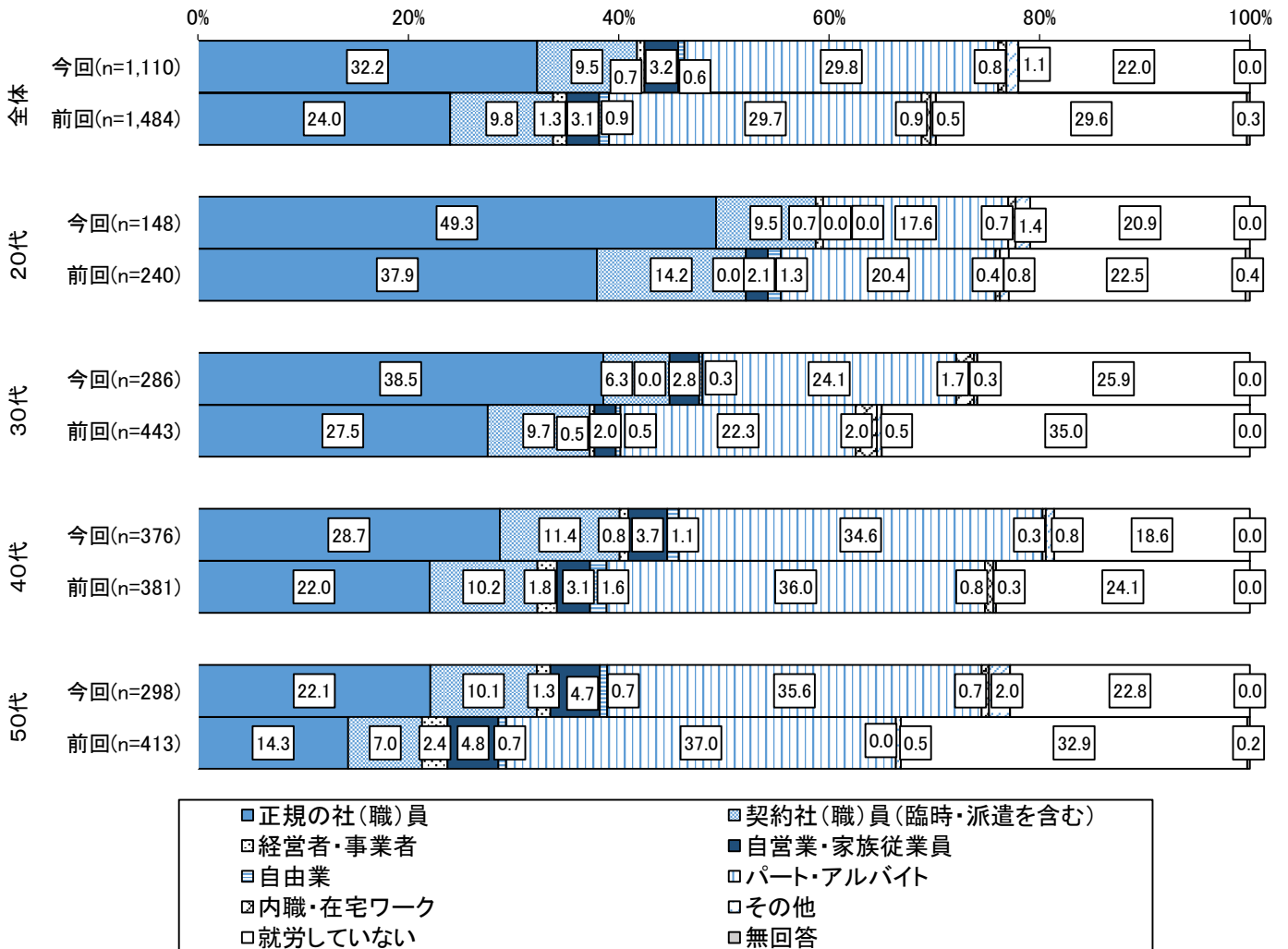
図表F2-2 就労形態(前回調査との比較)



図表F2-3 就労形態(年代別)

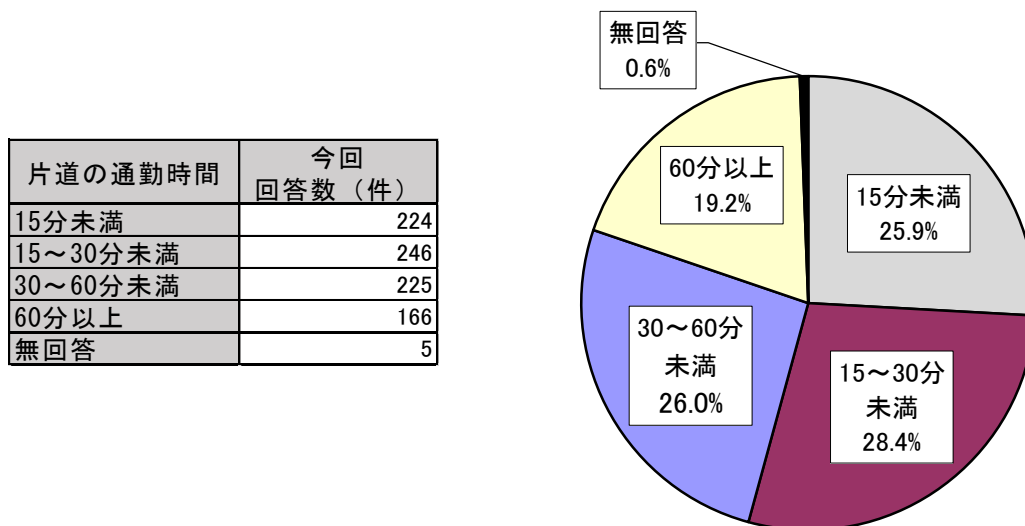


図表F2-4 就労形態(年代別・前回調査との比較)



(3) 通勤時間（有償労働者のみ）

図表F3-1 通勤時間(全体、n=866)



図表F3-2 通勤時間(年代別)

		（％）				
		15分未満	15～30分未満	30～60分未満	60分以上	無回答
全体	(n=866)	25.9	28.4	26.0	19.2	0.6
20代	(n=117)	20.5	25.6	29.9	23.1	0.9
30代	(n=212)	18.4	27.4	28.3	25.5	0.5
40代	(n=306)	32.0	28.1	24.8	15.0	-
50代	(n=230)	27.4	30.9	23.5	17.0	1.3

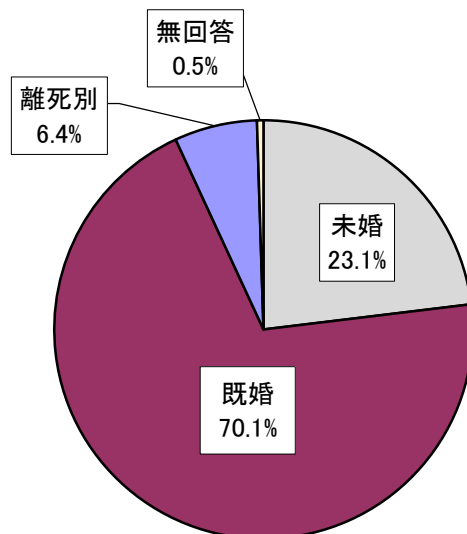
図表F3-3 通勤時間(就労形態別)

		(%)				
		15分未満	15分～30分未満	30分～60分未満	60分以上	無回答
全体	(n=866)	25.9	28.4	26.0	19.2	0.6
正規の社(職)員	(n=357)	12.9	27.5	28.9	30.5	0.3
契約社(職)員 (臨時・派遣を含む)	(n=106)	13.2	30.2	32.1	24.5	-
経営者・事業者	(n=8)	100.0	-	-	-	-
自営業・家族従業員	(n=36)	63.9	13.9	13.9	2.8	5.6
自由業	(n=7)	57.1	14.3	14.3	14.3	-
パート・アルバイト	(n=331)	36.6	32.9	23.6	6.9	-
内職・在宅ワーク	(n=9)	66.7	11.1	-	11.1	11.1
その他	(n=12)	16.7	-	33.3	41.7	8.3

(4) 結婚の有無

図表F4-1 結婚の有無(全体、n=1,110)

結婚の有無	回答数(件)
未婚	256
既婚	778
離死別	71
無回答	5



図表F4-2 結婚の有無(年代別)

(%)

		未 婚	既 婚	離 死 別	無 回 答
全体	(n=1,110)	23.1	70.1	6.4	0.5
20代	(n=148)	70.3	29.1	0.7	-
30代	(n=286)	22.0	74.1	3.8	-
40代	(n=376)	15.4	77.4	6.6	0.5
50代	(n=298)	10.4	77.5	11.1	1.0

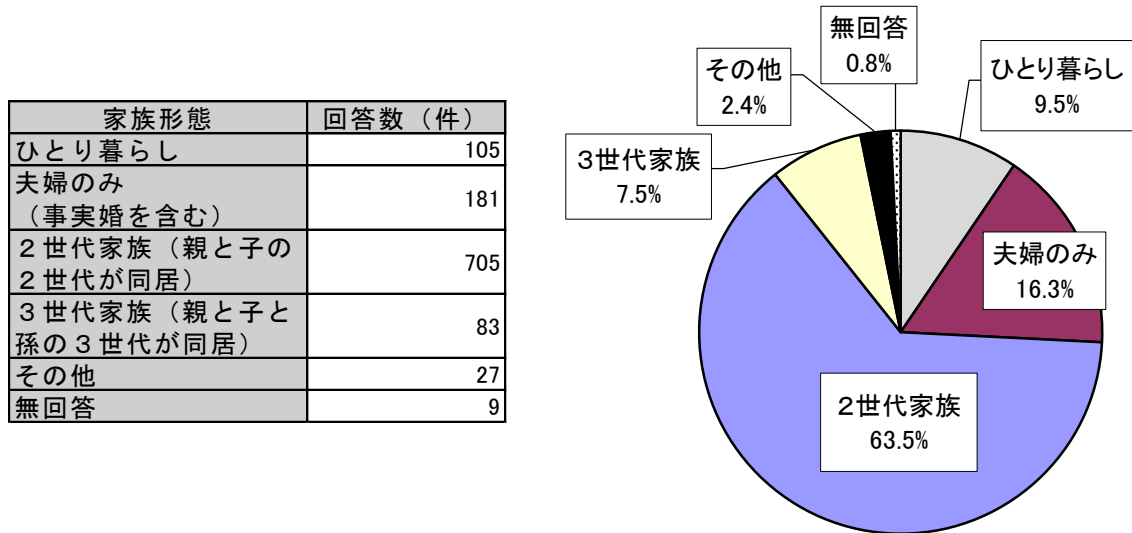
図表F4-3 結婚の有無(就労形態別)

(%)

		未 婚	既 婚	離 死 別	無 回 答
全体	(n=1,110)	23.1	70.1	6.4	0.5
正規の社(職)員	(n=357)	37.3	54.3	8.4	-
契約社(職)員 (臨時・派遣を含む)	(n=106)	34.9	50.9	14.2	-
経営者・事業者	(n=8)	12.5	87.5	-	-
自営業・家族従業員	(n=36)	16.7	77.8	5.6	-
自由業	(n=7)	-	85.7	14.3	-
パート・アルバイト	(n=331)	14.8	80.7	4.5	-
内職・在宅ワーク	(n=9)	-	88.9	-	11.1
その他	(n=12)	8.3	75.0	16.7	-
就労していない	(n=244)	11.9	84.0	2.5	1.6

(5) 家族形態

図表F5-1 家族形態(全体、n=1,110)



図表F5-2 家族形態(年代別)

		(%)					
		ひとり暮らし	夫婦のみ (事実婚を含む)	2世代家族 (親と子の2世代が同居)	3世代家族 (親と子と孫の3世代が同居)	その他	無回答
全体	(n=1,110)	9.5	16.3	63.5	7.5	2.4	0.8
20代	(n=148)	21.6	8.1	52.0	12.2	5.4	0.7
30代	(n=286)	9.8	18.2	65.7	4.2	1.0	1.0
40代	(n=376)	5.1	12.8	71.3	7.7	2.7	0.5
50代	(n=298)	8.7	23.2	57.0	8.1	2.0	1.0

図表F5-3 家族形態(就労形態別)

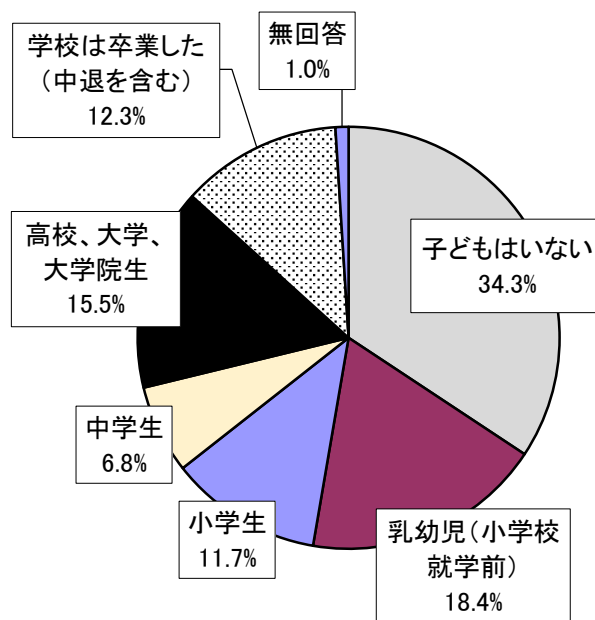
(%)

		ひとり暮らし	夫婦のみ (事実婚を含む)	2世代家族 (親と子の2世代が同居)	3世代家族 (親と子と孫の3世代が同居)	その他	無回答
全体	(n=1,110)	9.5	16.3	63.5	7.5	2.4	0.8
正規の社(職)員	(n=357)	18.2	19.9	51.5	6.4	3.1	0.8
契約社(職)員 (臨時・派遣を含む)	(n=106)	12.3	16.0	57.5	11.3	2.8	-
経営者・事業者	(n=8)	-	25.0	50.0	25.0	-	-
自営業・家族従業員	(n=36)	5.6	19.4	55.6	16.7	2.8	-
自由業	(n=7)	-	42.9	42.9	14.3	-	-
パート・アルバイト	(n=331)	5.1	10.6	75.2	6.9	1.8	0.3
内職・在宅ワーク	(n=9)	-	33.3	66.7	-	-	-
その他	(n=12)	-	41.7	33.3	16.7	8.3	-
就労していない	(n=244)	3.3	15.6	71.3	5.7	2.0	2.0

(6) 子ども（末子）の成長段階

図表F6-1 子ども(末子)の成長段階(全体、n=1,110)

子ども（末子）の成長段階	回答数（件）
子どもはいない	381
乳幼児（小学校就学前）	204
小学生	130
中学生	75
高校、大学、大学院生（高専、短大、専門学校を含む）	172
学校は卒業した（中退を含む）	137
無回答	11



図表F6-2 子ども(末子)の成長段階(年代別)

		(%)							
		子どもはいない	乳幼児（小学校就学前）	小学生	中学生	短大、専門学校を含む	高校、大学、大学院生（高専、短大、専門学校を含む）	学校は卒業した（中退を含む）	無回答
全体	(n=1,110)	34.3	18.4	11.7	6.8	15.5	12.3	1.0	
20代	(n=148)	78.4	19.6	-	0.7	-	-	1.4	
30代	(n=286)	39.2	45.8	12.6	0.7	0.7	-	1.0	
40代	(n=376)	25.3	11.7	23.7	16.2	20.2	2.7	0.3	
50代	(n=298)	19.5	-	1.0	3.7	31.5	42.6	1.7	

図表F6-3 子ども(末子)の成長段階(就労形態別)

(%)

		子どもはいない	乳幼児 (小学校就学前)	小学生	中学生	短大、 高校、 大学、 大学院生 (高専、 専門学 校を含む)	学校は卒業した (中退を含む)	無回答
全体	(n=1,110)	34.3	18.4	11.7	6.8	15.5	12.3	1.0
正規の社(職)員	(n=357)	51.5	17.6	7.6	4.8	9.2	8.1	1.1
契約社(職)員 (臨時・派遣を含む)	(n=106)	42.5	6.6	12.3	10.4	13.2	15.1	-
経営者・事業者	(n=8)	12.5	12.5	12.5	-	12.5	50.0	-
自営業・家族従業員	(n=36)	33.3	11.1	16.7	8.3	16.7	13.9	-
自由業	(n=7)	28.6	14.3	14.3	-	28.6	14.3	-
パート・アルバイト	(n=331)	21.5	13.6	15.1	9.4	26.3	13.0	1.2
内職・在宅ワーク	(n=9)	11.1	44.4	11.1	-	22.2	11.1	-
その他	(n=12)	41.7	8.3	8.3	-	16.7	25.0	-
就労していない	(n=244)	24.6	32.0	12.3	5.3	10.2	14.3	1.2

Ⅱ 調査結果

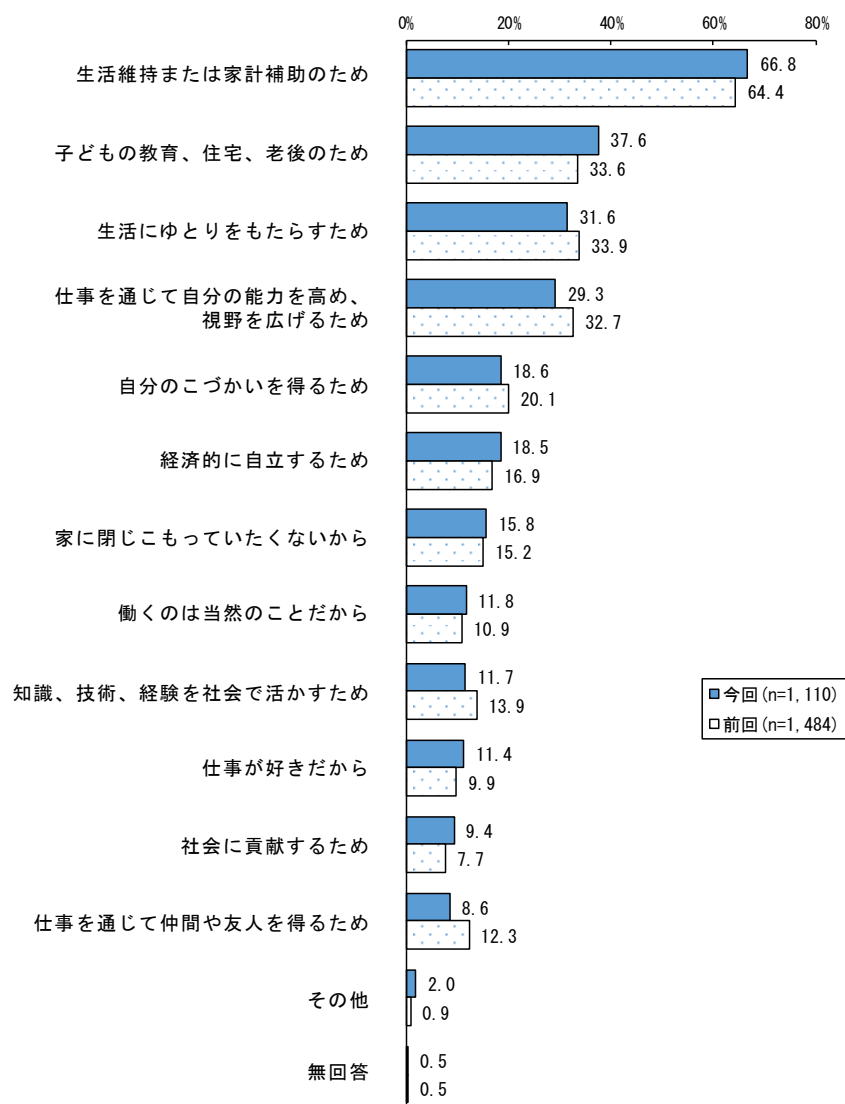
1 女性の就労意識

(1) 仕事をする目的や意味

問1 あなたは仕事をする目的や意味をどうお考えですか。次の中から近いものを3つまで選んで○をつけてください。

仕事をする目的や意味について尋ねたところ、「生活維持または家計補助のため」(66.8%)が最も多く、続いて「子どもの教育、住宅、老後のため」(37.6%)、「生活にゆとりをもたらすため」(31.6%)、「仕事を通じて自分の能力を高め、視野を広げるため」(29.3%)の順である。前回調査と比較すると、大きな変化はない。【図表1-1 参照】

図表1-1 仕事をする目的や意味(前回調査との比較)



(1) 仕事をする目的や意味

年代別にみると、各年代で「生活維持または家計補助のため」が最も多い。続いて「20代」では「経済的に自立するため」(37.8%)が4割近い。「30代」「40代」では「子どもの教育、住宅、老後のため」(「30代」40.2%、「40代」48.7%)が多い。「50代」では「仕事を通じて自分の能力を高め、視野を広げるため」(32.9%)で3割を超える。前回調査と比較すると、大きな変化はない。 【図表1-2 参照】

図表1-2 仕事をする目的や意味(年代別・前回調査との比較)

			(%)														
			生活維持または家計補助のため	生活にゆとりをもたらすため	自分のこづかいを得るため	子どもの教育、住宅、老後のため	経済的に自立するため	知識、技術、経験を社会で生かすため	社会に貢献するため	仕事が好きだから	仕事を通じて仲間や友人を得るため	視野を広げるため	仕事を通じて自分の能力を高め、	家に閉じこもっていたくないから	働くのは当然のことだから	その他	無回答
全体	今回	(n=1,110)	66.8	31.6	18.6	37.6	18.5	11.7	9.4	11.4	8.6	29.3	15.8	11.8	2.0	0.5	
	前回	(n=1,484)	64.4	33.9	20.1	33.6	16.9	13.9	7.7	9.9	12.3	32.7	15.2	10.9	0.9	0.5	
20代	今回	(n=148)	61.5	27.7	28.4	19.6	37.8	10.8	10.1	7.4	9.5	33.1	11.5	17.6	2.7	0.7	
	前回	(n=240)	63.3	28.3	27.9	18.8	39.6	11.7	6.7	7.5	10.0	33.8	13.3	20.8	0.8	0.4	
30代	今回	(n=286)	70.6	37.4	18.2	40.2	14.0	8.7	5.9	11.5	7.7	28.3	15.7	12.6	2.1	0.3	
	前回	(n=443)	70.2	37.2	16.3	37.9	16.3	14.2	7.7	12.0	8.6	32.3	14.9	11.3	0.7	-	
40代	今回	(n=376)	69.9	30.9	15.7	48.7	18.4	9.3	10.9	12.0	6.4	25.8	14.4	10.1	1.3	0.5	
	前回	(n=381)	63.0	32.0	20.5	43.6	12.3	13.4	8.1	10.2	12.1	32.3	12.3	7.1	0.3	0.5	
50代	今回	(n=298)	62.1	28.9	17.8	29.5	13.4	18.1	10.4	12.4	11.4	32.9	19.8	10.4	2.3	0.3	
	前回	(n=413)	59.8	35.1	19.1	28.3	8.5	15.5	8.0	9.0	18.2	32.9	19.4	8.2	1.9	0.7	

* 全ての年代で 増加

減少

(1) 仕事をする目的や意味

就労形態別にみると、「自由業」「その他」を除く各就労形態で「生活維持又は家計補助のため」が最も多く、特に「契約社（職）員（臨時・派遣を含む）」（77.4%）で8割近い。

【図表1-3 参照】

図表1-3 仕事をする目的や意味(就労形態別)

		(%)													
		生活維持または家計補助のため	生活にゆとりをもたらすため	自分のこづかいを得るため	子どもの教育、住宅、老後のため	経済的に自立するため	知識、技術、経験を社会で生かすため	社会に貢献するため	仕事が好きだから	仕事を通じて仲間や友人を得るため	視野を広げるため	仕事を通じて自分の能力を高め、家に閉じこもっていたくないから	働くのは当然のことだから	その他	無回答
全体	(n=1,110)	66.8	31.6	18.6	37.6	18.5	11.7	9.4	11.4	8.6	29.3	15.8	11.8	2.0	0.5
正規の社（職）員	(n=357)	68.9	27.5	9.8	32.2	30.0	11.5	12.3	11.8	4.5	30.5	13.2	21.8	2.0	-
契約社（職）員 (臨時・派遣を含む)	(n=106)	77.4	26.4	14.2	36.8	21.7	14.2	5.7	10.4	5.7	30.2	8.5	13.2	0.9	-
経営者・事業者	(n=8)	50.0	25.0	25.0	25.0	12.5	-	-	-	-	12.5	37.5	12.5	12.5	-
自営業・家族従業員	(n=36)	55.6	19.4	8.3	27.8	22.2	22.2	22.2	19.4	8.3	22.2	2.8	19.4	5.6	-
自由業	(n=7)	28.6	-	14.3	-	42.9	42.9	14.3	42.9	14.3	71.4	-	14.3	-	-
パート・アルバイト	(n=331)	66.2	29.6	28.7	38.1	7.6	9.7	5.4	10.3	13.3	25.7	29.3	6.9	2.7	-
内職・在宅ワーク	(n=9)	55.6	44.4	44.4	11.1	11.1	22.2	-	11.1	11.1	22.2	11.1	-	-	-
その他	(n=12)	50.0	8.3	16.7	25.0	8.3	41.7	-	33.3	-	58.3	-	8.3	-	-
就労していない	(n=244)	64.8	46.3	20.1	49.6	14.8	9.8	11.1	9.8	9.8	31.1	7.0	2.5	0.8	2.0

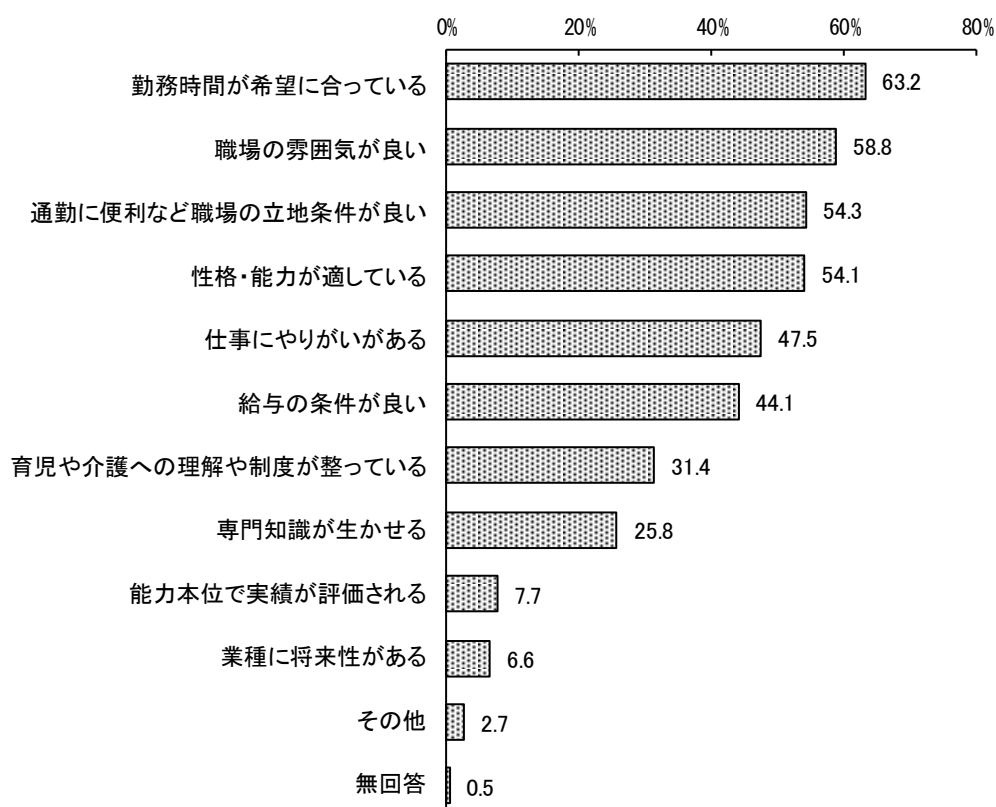
(2) 仕事を選ぶ際に重視すること、したいこと

問2 あなたが仕事を選ぶ際に、重視すること、またはしたいことは何ですか。あてはまるものをいくつでも選んで○をつけてください。

仕事を選ぶ際に重視すること、したいことについて尋ねたところ、「勤務時間が希望に合っている」(63.2%)が最も多く、続いて「職場の雰囲気が良い」(58.8%)、「通勤に便利など職場の立地条件が良い」(54.3%)、「性格・能力が適している」(54.1%)の順である。

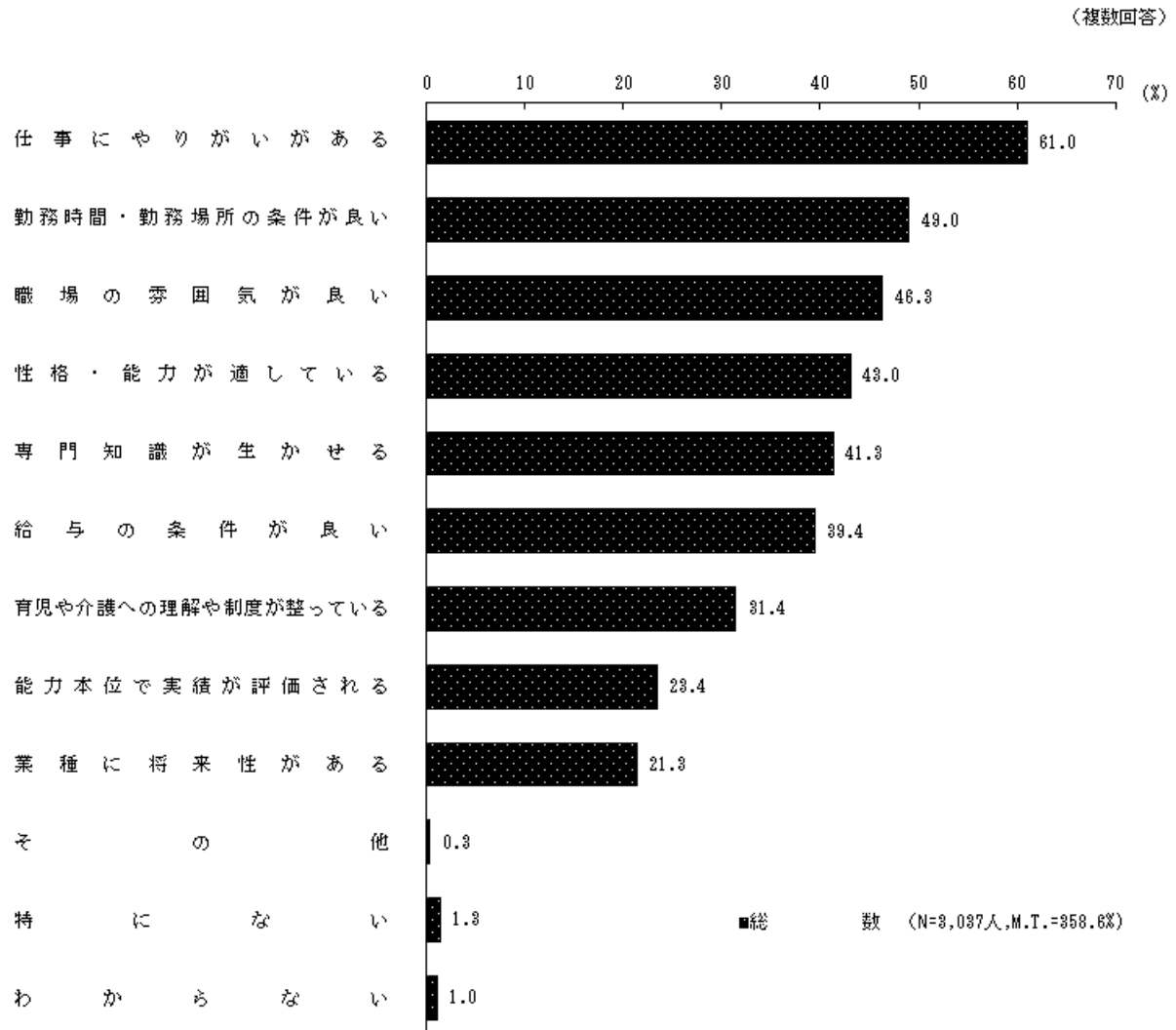
【図表1-4 参照】

図表1-4 仕事を選ぶ際に重視すること、したいこと(全体、n=1,110)



【参考】平成 26 年度内閣府調査 『仕事を選ぶ際に重視すること、したいこと』

図 9 仕事を選んだ（選ぶ）理由



出典：「女性の活躍推進に関する世論調査」（内閣府）

調査対象：全国 20 歳以上の日本国籍を有する者 5,000 人

調査時期：平成 26 年 8 月

調査方法：調査員による個別面接聴取法

(2) 仕事を選ぶ際に重視すること、したいこと

年代別にみると、「20代」「30代」で、「職場の雰囲気が良い」が最も多い（「20代」73.6%、「30代」67.1%）。続いて「20代」では「性格・能力が適している」（61.5%）が多く、「30代」では「勤務時間が希望に合っている」（65.4%）が多い。

「40代」「50代」では、「勤務時間が希望に合っている」が最も多く（「40代」66.5%、「50代」63.1%）、続いて「通勤に便利など職場の立地条件が良い」（「40代」57.2%、「50代」54.0%）である。

【図表1-5 参照】

図表1-5 仕事を選ぶ際に重視すること、したいこと(年代別)

		(%)											
		専門知識が生かせる	性格・能力が適している	仕事にやりがいがある	能力本位で実績が評価される	業種に将来性がある	給与の条件が良い	勤務時間が希望に合っている	通勤に便利など職場の立地条件が良い	職場の雰囲気が良い	育児や介護への理解や制度が整っている	その他	無回答
全体	(n=1,110)	25.8	54.1	47.5	7.7	6.6	44.1	63.2	54.3	58.8	31.4	2.7	0.5
20代	(n=148)	24.3	61.5	57.4	9.5	13.5	56.1	50.7	43.2	73.6	37.2	2.0	0.7
30代	(n=286)	25.2	55.6	46.9	4.9	5.9	48.6	65.4	56.3	67.1	47.9	2.4	0.3
40代	(n=376)	25.3	52.9	46.0	8.5	5.6	43.1	66.5	57.2	54.5	28.5	3.5	0.5
50代	(n=298)	27.9	50.7	45.0	8.7	5.0	34.9	63.1	54.0	48.7	15.8	2.3	0.3

(2) 仕事を選ぶ際に重視すること、したいこと

結婚の有無別にみると、「未婚」では、「性格・能力が適している」(58.2%)が最も多く、続いて「職場の雰囲気が良い」(57.8%)である。

「既婚」では、「勤務時間が希望に合っている」(69.4%)が最も多く、続いて「職場の雰囲気が良い」(60.4%)である。

「離死別」では「勤務時間が希望に合っている」(63.4%)が最も多く、続いて「給与の条件が良い」(56.3%)である。

子ども(末子)の成長段階別にみると、「子どもはいない」では、「性格・能力が適している」(61.9%)が最も多く、続いて「職場の雰囲気が良い」(59.6%)である。

「乳幼児(小学校就学前)」「小学生」「中学生」「高校、大学、大学院生(高専、短大、専門学校を含む)」「学校は卒業した(中退を含む)」では、「勤務時間が希望に合っている」(順に75.0%、73.8%、77.3%、69.8%、60.6%)が最も多い。続いて「乳幼児(小学校就学前)」では、「育児や介護への理解や制度が整っている」(68.1%)が多い。【図表1-6 参照】

図表1-6 仕事を選ぶ際に重視すること、したいこと(結婚の有無別、子ども(末子)の成長段階別)

			専門知識が生かせる	性格・能力が適している	仕事にやりがいがある	能力本位で実績が評価される	業種に将来性がある	給与の条件が良い	勤務時間が希望に合っている	通勤に便利など職場の立地条件が良い	職場の雰囲気が良い	育児や介護への理解や制度が整っている	その他	無回答
全体		(n=1,110)	25.8	54.1	47.5	7.7	6.6	44.1	63.2	54.3	58.8	31.4	2.7	0.5
結婚の有無	未婚	(n=256)	28.1	58.2	52.3	9.4	12.5	50.4	44.9	44.9	57.8	18.4	3.5	1.2
	既婚	(n=778)	25.2	52.8	45.6	6.4	4.8	41.1	69.4	58.5	60.4	36.8	2.6	0.1
	離死別	(n=71)	22.5	53.5	49.3	15.5	5.6	56.3	63.4	43.7	45.1	19.7	1.4	-
子ども(末子)の成長段階	子どもはいない	(n=381)	29.1	61.9	53.5	10.2	11.0	47.2	49.6	46.2	59.6	20.7	3.1	0.8
	乳幼児(小学校就学前)	(n=204)	23.0	51.0	48.0	4.9	4.4	53.4	75.0	61.8	64.2	68.1	2.9	-
	小学生	(n=130)	23.1	50.0	43.1	6.2	1.5	38.5	73.8	59.2	60.8	46.2	1.5	-
	中学生	(n=75)	25.3	52.0	45.3	2.7	4.0	44.0	77.3	60.0	69.3	25.3	2.7	-
	高校、大学、大学院生(高専、短大、専門学校を含む)	(n=172)	25.0	51.2	44.2	7.6	4.7	40.1	69.8	60.5	54.1	13.4	2.9	-
	学校は卒業した(中退を含む)	(n=137)	24.1	45.3	39.4	10.2	5.1	32.8	60.6	52.6	48.2	18.2	2.2	0.7

(2) 仕事を選ぶ際に重視すること、したいこと

就労形態別にみると、「正規の社（職）員」では「職場の雰囲気が良い」（57.4%）が最も多く、続いて、「性格・能力が適している」（54.6%）である。

「契約社（職）員（臨時・派遣を含む）」では、「勤務時間が希望に合っている」（61.3%）が最も多く、続いて「職場の雰囲気が良い」（58.5%）である。「パート・アルバイト」「就労していない」では、「勤務時間が希望に合っている」（順に78.9%、72.5%）が最も多く、続いて「通勤に便利など職場の立地条件が良い」（順に65.6%、68.9%）である。【図表1-7 参照】

図表 1-7 仕事を選ぶ際に重視すること、したいこと(就労形態別)

		(%)											
		専門知識が生かせる	性格・能力が適している	仕事にやりがいがある	能力本位で実績が評価される	業種に将来性がある	給与の条件が良い	勤務時間が希望に合っている	通勤に便利など職場の立地条件が良い	職場の雰囲気が良い	育児や介護への理解や制度が整っている	その他	無回答
全体	(n=1,110)	25.8	54.1	47.5	7.7	6.6	44.1	63.2	54.3	58.8	31.4	2.7	0.5
正規の社（職）員	(n=357)	31.1	54.6	54.1	9.0	10.9	53.5	45.7	38.9	57.4	35.6	3.4	-
契約社（職）員 （臨時・派遣を含む）	(n=106)	25.5	51.9	45.3	12.3	6.6	46.2	61.3	53.8	58.5	21.7	2.8	0.9
経営者・事業者	(n=8)	25.0	37.5	50.0	12.5	12.5	37.5	62.5	25.0	-	37.5	-	-
自営業・家族従業員	(n=36)	30.6	52.8	63.9	13.9	13.9	19.4	47.2	36.1	44.4	16.7	2.8	-
自由業	(n=7)	71.4	42.9	57.1	28.6	-	14.3	28.6	14.3	14.3	28.6	14.3	-
パート・アルバイト	(n=331)	19.3	49.2	38.7	4.5	3.0	39.3	78.9	65.6	58.6	19.9	2.4	-
内職・在宅ワーク	(n=9)	33.3	22.2	55.6	11.1	-	22.2	66.7	44.4	44.4	55.6	-	-
その他	(n=12)	66.7	50.0	50.0	25.0	-	50.0	50.0	16.7	41.7	-	-	-
就労していない	(n=244)	22.5	63.1	47.5	5.7	4.5	41.4	72.5	68.9	68.0	47.5	2.0	1.6

(3) 望ましい就労形態

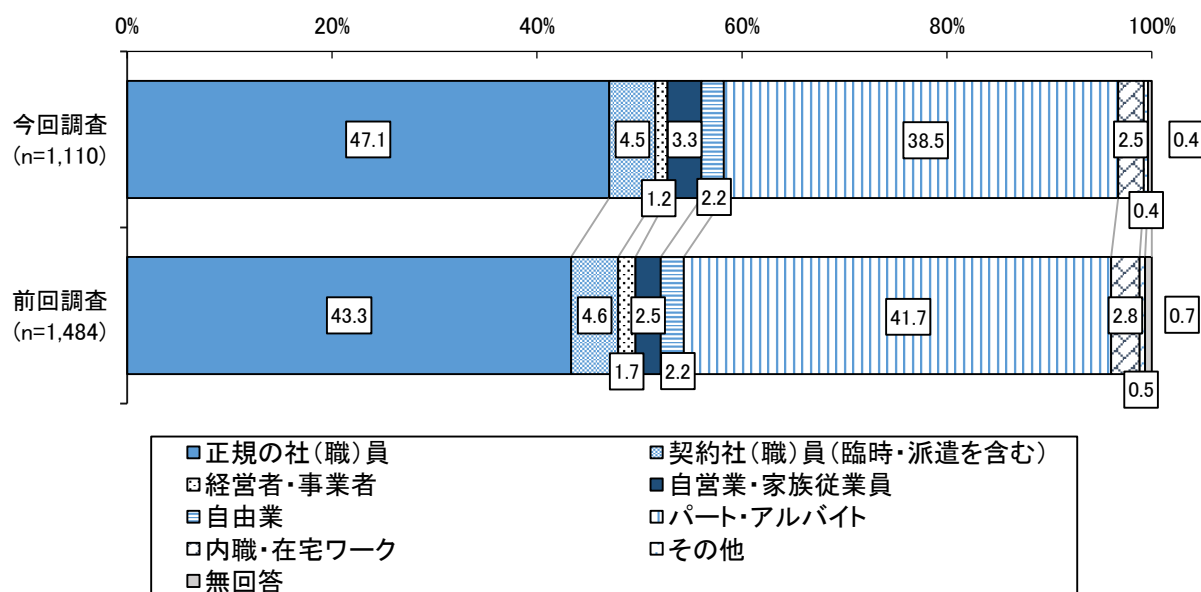
問3 あなたは、今の状況をふまえてどの就労形態が望ましいとお考えですか。あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

※ 現在、仕事に就いていない方はこの先仕事に就くと仮定してお答えください。

望ましい就労形態について尋ねたところ、「正規の社（職）員」（47.1%）が最も多く、続いて「パート・アルバイト」（38.5%）である。前回調査と比較すると、大きな変化はない。

【図表1-8 参照】

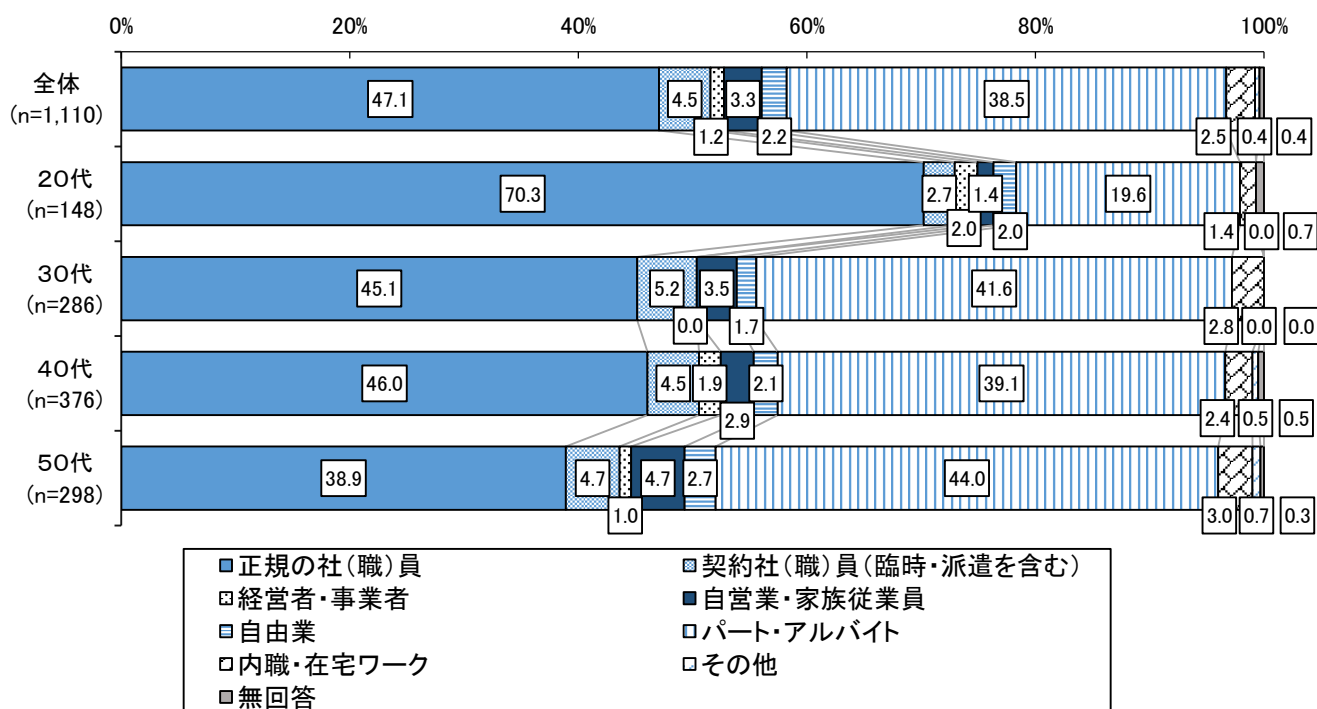
図表1-8 望ましい就労形態（前回調査との比較）



(3) 望ましい就労形態

年代別にみると、「20代」「30代」「40代」では「正規の社（職）員」（順に70.3%、45.1%、46.0%）が最も多く、続いて「パート・アルバイト」（順に19.6%、41.6%、39.1%）である。「50代」では「パート・アルバイト」（44.0%）が「正規の社（職）員」（38.9%）を上回っている。 【図表1-9 参照】

図表1-9 望ましい就労形態(年代別)

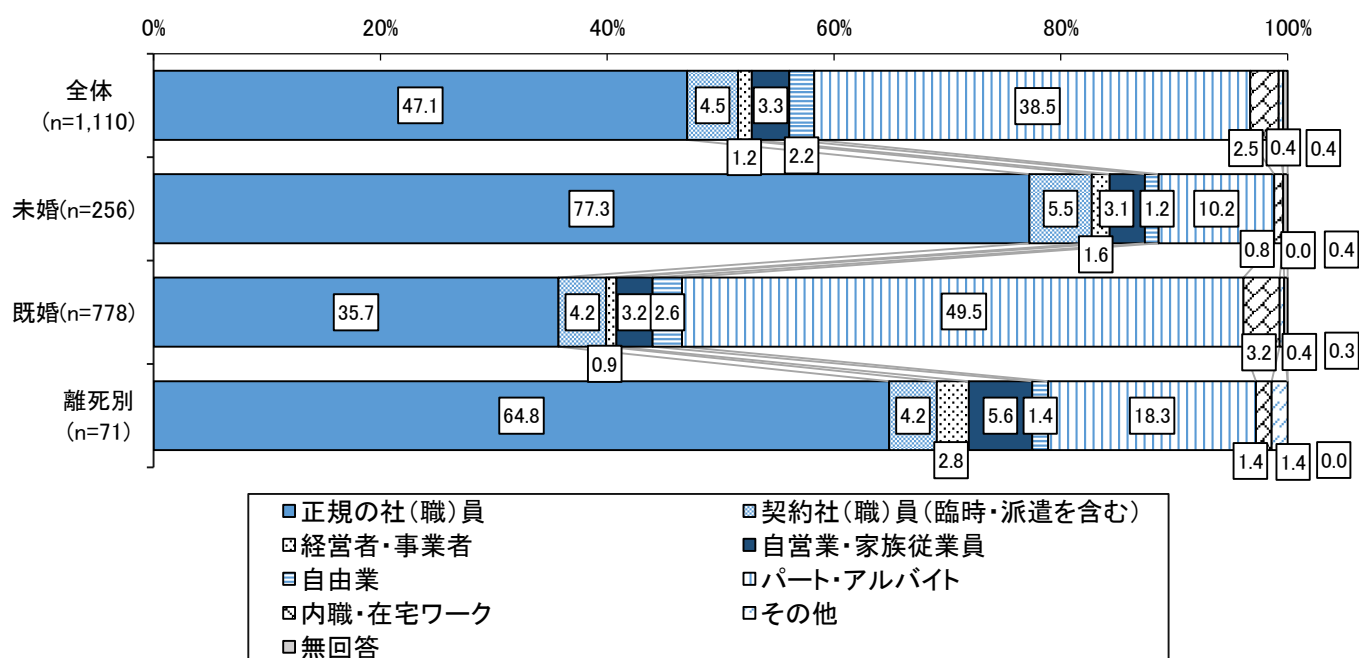


(3) 望ましい就労形態

結婚の有無別にみると、「未婚」「離死別」では、「正規の社（職）員」（「未婚」77.3%、「離死別」64.8%）が最も多い。

「既婚」では、「パート・アルバイト」（49.5%）が「正規の社（職）員」（35.7%）を13.8ポイント上回っている。 【図表1-10 参照】

図表1-10 望ましい就労形態（結婚の有無別）

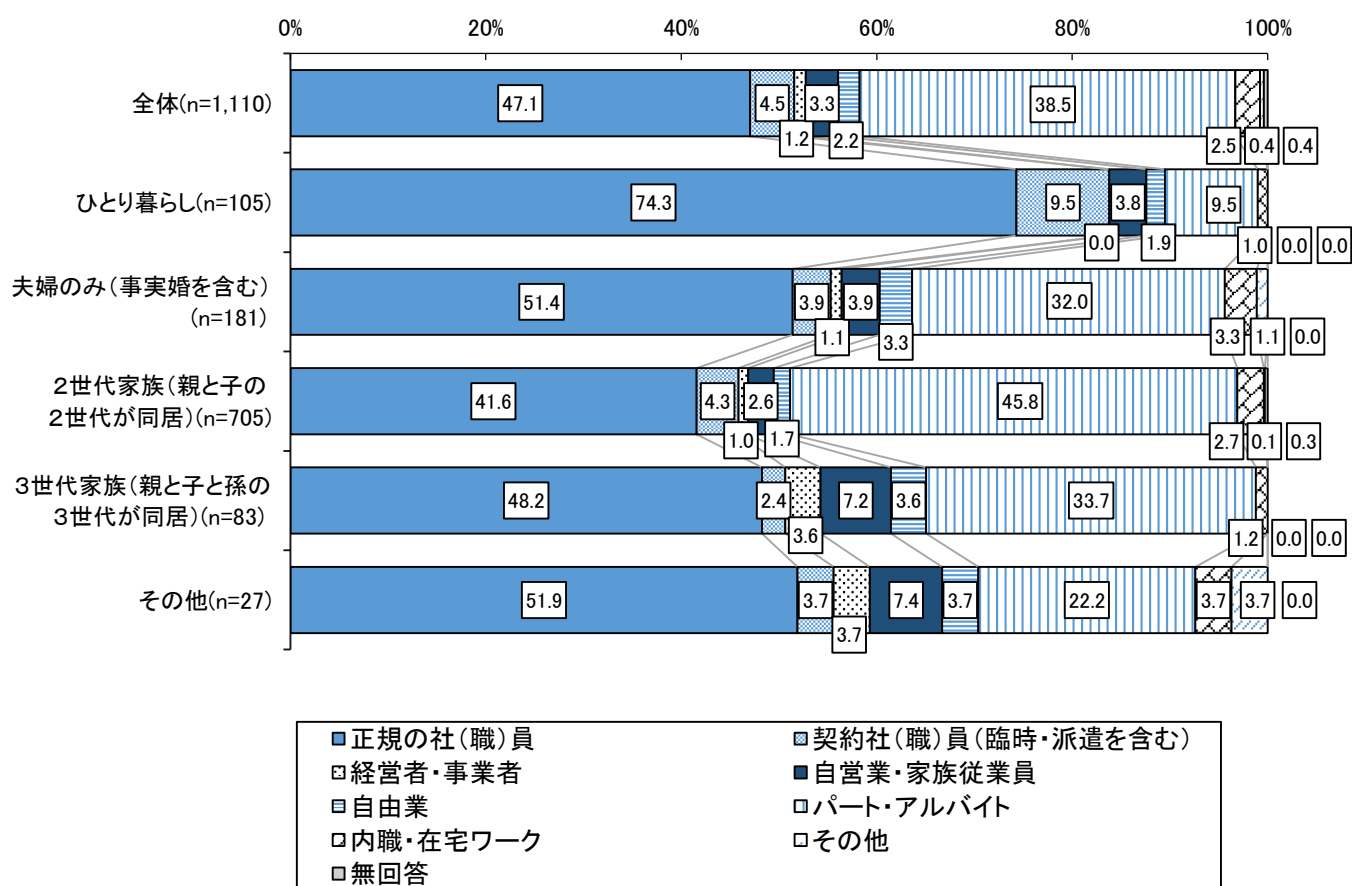


(3) 望ましい就労形態

家族形態別にみると、「ひとり暮らし」では「正規の社（職）員」（74.3%）が7割半を占める。「夫婦のみ（事実婚を含む）」では、「正規の社（職）員」（51.4%）が最も多く、続いて「パート・アルバイト」（32.0%）である。「2世代家族（親と子の2世代が同居）」では「パート・アルバイト」（45.8%）が最も多く、「正規の社（職）員」（41.6%）を上回っている。

【図表1-11 参照】

図表1-11 望ましい就労形態(家族形態別)



(3) 望ましい就労形態

現在の就労形態別にみると、「正規の社（職）員」は、望ましい就労形態を「正規の社（職）員」（90.8%）と回答しており、その他の就労形態においても、現在の就労形態と同じ形態を望む傾向がある。しかし、「契約社（職）員（臨時・派遣を含む）」（66.0%）で6割半、「パート・アルバイト」（22.7%）の2割以上が「正規の社（職）員」を望んでいる。【図表1-12 参照】

図表1-12 望ましい就労形態（現在の就労形態別）

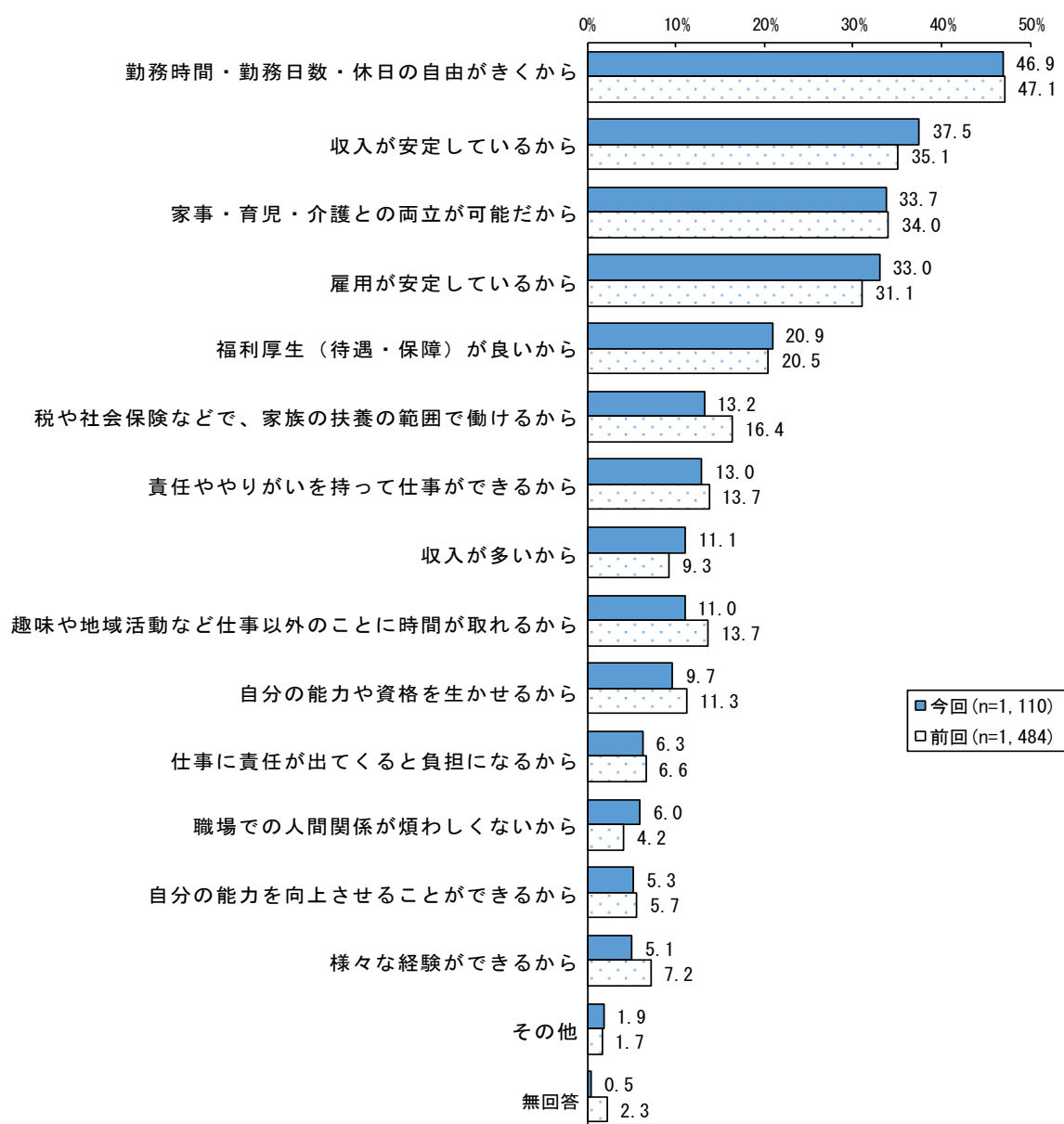
		(%)								
		正規の社（職）員	契約社（職）員（臨時・派遣を含む）	経営者・事業者	自営業・家族従業員	自由業	パート・アルバイト	内職・在宅ワーク	その他	無回答
全体	(n=1,110)	47.1	4.5	1.2	3.3	2.2	38.5	2.5	0.4	0.4
正規の社（職）員	(n=357)	90.8	1.4	0.6	1.1	0.8	4.8	0.6	-	-
契約社（職）員 （臨時・派遣を含む）	(n=106)	66.0	26.4	-	-	0.9	5.7	0.9	-	-
経営者・事業者	(n=8)	25.0	-	37.5	-	-	25.0	12.5	-	-
自営業・家族従業員	(n=36)	16.7	2.8	2.8	66.7	5.6	2.8	2.8	-	-
自由業	(n=7)	-	-	14.3	-	85.7	-	-	-	-
パート・アルバイト	(n=331)	22.7	1.2	0.9	1.2	1.2	71.0	1.2	0.3	0.3
内職・在宅ワーク	(n=9)	11.1	-	-	-	-	33.3	55.6	-	-
その他	(n=12)	33.3	-	8.3	-	33.3	8.3	-	16.7	-
就労していない	(n=244)	16.8	4.9	0.8	2.0	1.6	66.4	5.7	0.4	1.2

(4) 望ましい就労形態を選んだ理由

問4 あなたが問3で望ましい就労形態を選んだ理由は何ですか。あてはまるものを3つまで選んで○をつけてください。

望ましい就労形態を選んだ理由について尋ねたところ、「勤務時間・勤務日数・休日の自由がきくから」(46.9%)が最も多く、続いて「収入が安定しているから」(37.5%)、「家事・育児・介護との両立が可能だから」(33.7%)、「雇用が安定しているから」(33.0%)の順である。前回調査と比較すると、大きな変化はない。【図表1-13 参照】

図表1-13 望ましい就労形態を選んだ理由(前回調査との比較)



(4) 望ましい就労形態を選んだ理由

年代別にみると、「20代」では「収入が安定しているから」(56.1%)が最も多い。

その他の年代では、「勤務時間・勤務日数・休日の自由がきくから」が最も多い(「30代」50.0%、「40代」47.9%、「50代」51.7%)。続いて「30代」「40代」では「家事・育児・介護との両立が可能だから」(「30代」43.4%、「40代」36.7%)が多く、「50代」では「収入が安定しているから」(32.6%)が多い。 【図表1-14 参照】

図表1-14 望ましい就労形態を選んだ理由(年代別)

		雇用が安定しているから	収入が安定しているから	収入が多いから	勤務時間・勤務日数・休日の自由がきくから	福利厚生(待遇・保障)が良いから	職場での人間関係が煩わしくないから	仕事ができるから	責任ややりがいを持つて	様々な経験ができるから	自分の能力や資格を生かせるから	自分の能力向上ができるから	扶養の範囲で働けるから	税や社会保険などで、家族の負担になるから	仕事に責任が出てくると	家事・育児・介護との両立が可能だから	趣味や地域活動など仕事以外のことに時間が取れるから	その他	無回答
全体	(n=1,110)	33.0	37.5	11.1	46.9	20.9	6.0	13.0	5.1	9.7	5.3	13.2	6.3	33.7	11.0	1.9	0.5		
20代	(n=148)	45.9	56.1	12.2	29.1	35.8	6.1	16.2	10.1	6.1	8.8	6.1	4.7	16.9	6.1	1.4	1.4		
30代	(n=286)	32.5	36.0	11.9	50.0	20.3	4.2	8.4	4.9	9.4	4.2	12.2	6.3	43.4	9.4	2.4	0.3		
40代	(n=376)	31.4	35.1	12.5	47.9	21.5	7.4	13.0	4.8	9.3	5.3	16.2	6.1	36.7	9.6	1.9	0.3		
50代	(n=298)	28.9	32.6	7.7	51.7	13.4	6.0	15.8	3.4	12.4	4.7	13.8	7.4	28.9	16.4	1.7	0.7		

(4) 望ましい就労形態を選んだ理由

望ましい就労形態別にみると、「正規の社（職）員」では「収入が安定しているから」（74.6%）が最も多く、続いて「雇用が安定しているから」（66.2%）である。

「契約社（職）員（臨時・派遣を含む）」「自営業・家族従業員」「自由業」「パート・アルバイト」では、「勤務時間・勤務日数・休日の自由がきくから」（順に、68.0%、54.1%、70.8%、83.8%）が最も多い。続いて、「家事・育児・介護との両立が可能だから」（順に、34.0%、40.5%、29.2%、67.7%）である。【図表1-15 参照】

図表 1-15 望ましい就労形態を選んだ理由(望ましい就労形態別)

		(%)																			
		雇用が安定しているから	収入が安定しているから	収入が多いから	勤務時間・勤務日数・休日の自由がきくから	良いから 福利厚生（待遇・保障）が	煩わしくないから	職場での人間関係が	仕事ができるから	責任ややりがいを持つて	様々な経験ができるから	自分の能力や資格を生かせるから	自分の能力向上ができるから	扶養の範囲で働けるから	税や社会保険などで、家族の負担になるから	仕事に責任が出てくると	両立が可能だから	家事・育児・介護との	趣味や地域活動など仕事以外のことに時間が取れるから	その他	無回答
全体	(n=1,110)	33.0	37.5	11.1	46.9	20.9	6.0	13.0	5.1	9.7	5.3	13.2	6.3	33.7	11.0	1.9	0.5				
正規の社（職）員	(n=523)	66.2	74.6	21.4	12.8	42.4	0.8	20.8	4.6	9.8	5.0	0.6	0.2	4.0	0.8	0.4	0.2				
契約社（職）員 （臨時・派遣を含む）	(n=50)	6.0	12.0	2.0	68.0	14.0	20.0	-	12.0	14.0	2.0	14.0	26.0	34.0	28.0	4.0	-				
経営者・事業者	(n=13)	7.7	7.7	30.8	38.5	-	15.4	46.2	7.7	30.8	61.5	-	-	15.4	-	-	-				
自営業・家族従業員	(n=37)	2.7	-	2.7	54.1	-	18.9	37.8	2.7	32.4	16.2	-	5.4	40.5	8.1	13.5	-				
自由業	(n=24)	-	-	12.5	70.8	-	8.3	12.5	25.0	29.2	25.0	4.2	-	29.2	25.0	4.2	-				
パート・アルバイト	(n=427)	3.5	4.2	0.5	83.8	0.7	8.0	2.1	4.4	4.9	2.1	31.6	11.9	67.7	20.8	2.3	0.2				
内職・在宅ワーク	(n=28)	-	-	-	64.3	-	25.0	7.1	-	14.3	7.1	-	10.7	78.6	17.9	3.6	3.6				
その他	(n=4)	-	25.0	-	25.0	-	25.0	25.0	-	50.0	25.0	-	-	25.0	25.0	-	-				

(4) 望ましい就労形態を選んだ理由

結婚の有無別にみると、「未婚」では、「収入が安定しているから」(61.3%)が最も多く、続いて「雇用が安定しているから」(52.7%)である。

「既婚」では、「勤務時間・勤務日数・休日の自由がきくから」(55.9%)が最も多く、続いて「家事・育児・介護との両立が可能だから」(45.5%)である。

「離死別」では「収入が安定しているから」(53.5%)が最も多く、続いて「雇用が安定しているから」「勤務時間・勤務日数・休日の自由がきくから」(ともに38.0%)である。

子ども(末子)の成長段階別にみると、「子どもはいない」では、「収入が安定しているから」(54.6%)が最も多く、続いて「雇用が安定しているから」(47.5%)である。

「乳幼児(小学校就学前)」では、「家事・育児・介護との両立が可能だから」(60.8%)が最も多く、続いて「勤務時間・勤務日数・休日の自由がきくから」(58.8%)である。

「小学生」「中学生」「高校、大学、大学院生(高専、短大、専門学校を含む)」「学校は卒業した(中退を含む)」では、「勤務時間・勤務日数・休日の自由がきくから」が最も多い(順に62.3%、58.7%、50.6%、51.1%)。

【図表1-16 参照】

図表1-16 望ましい就労形態を選んだ理由(結婚の有無別、子ども(末子)の成長段階別)

		雇用が安定しているから	収入が安定しているから	収入が多いから	休日の自由がきくから	勤務時間・勤務日数・休日の自由がきくから	福利厚生(待遇・保障)が良いため	煩わしくないから	職場での人間関係が	責任ややりがいを持って	仕事ができるから	様々な経験ができるから	自分の能力や資格を生かせるから	自分の能力向上ができるから	扶養の範囲で働けるから	税や社会保険などで、家族の負担になるから	仕事に責任がでてくると	家事・育児・介護との両立が可能だから	趣味や地域活動など仕事以外のことに時間が取れるから	その他	無回答
全体		(n=1,110)	33.0	37.5	11.1	46.9	20.9	6.0	13.0	5.1	9.7	5.3	13.2	6.3	33.7	11.0	1.9	0.5			
結婚の有無	未婚	(n=256)	52.7	61.3	14.5	22.3	35.5	5.9	17.6	10.5	7.4	8.2	1.2	3.1	3.1	8.2	2.3	1.2			
	既婚	(n=778)	26.1	28.1	9.4	55.9	15.9	6.0	10.9	3.5	10.4	4.4	18.4	7.5	45.5	12.0	1.8	0.3			
	離死別	(n=71)	38.0	53.5	18.3	38.0	23.9	5.6	16.9	4.2	9.9	5.6	0.0	5.6	14.1	11.3	1.4	-			
子ども(末子)の成長段階	子どもはいない	(n=381)	47.5	54.6	12.9	30.4	28.9	6.8	16.0	9.4	9.4	7.9	5.2	4.5	10.2	10.0	2.4	0.5			
	乳幼児(小学校就学前)	(n=204)	23.5	26.5	8.8	58.8	18.6	2.9	7.4	1.5	7.8	3.9	16.2	5.4	60.8	9.3	2.5	0.5			
	小学生	(n=130)	19.2	23.1	9.2	62.3	11.5	8.5	10.0	1.5	10.0	2.3	20.8	6.2	60.0	8.5	0.8	-			
	中学生	(n=75)	30.7	22.7	10.7	58.7	21.3	4.0	9.3	1.3	9.3	5.3	22.7	9.3	42.7	12.0	1.3	-			
	高校、大学、大学院生(高専、短大、専門学校を含む)	(n=172)	26.2	33.1	14.0	50.6	19.2	7.0	13.4	3.5	10.5	4.7	15.7	8.7	35.5	14.5	1.2	0.6			
	学校は卒業した(中退を含む)	(n=137)	28.5	30.7	7.3	51.1	11.7	5.8	17.5	6.6	11.7	4.4	16.1	8.8	27.7	14.6	2.2	0.7			

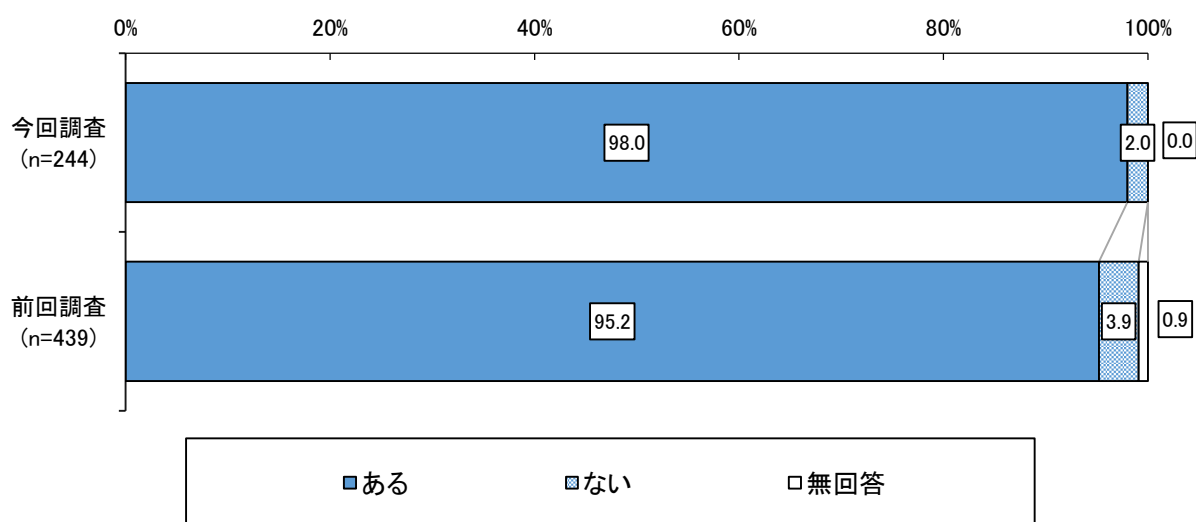
2 就労していない方(無償労働者)の現状

(1) 就労経験の有無

問5 あなたは、これまでに仕事に就いたことがありますか。あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

就労経験の有無について尋ねたところ、「ある」が98.0%、「ない」が2.0%である。前回調査と比較すると、大きな変化はない。 【図表2-1 参照】

図表 2-1 就労経験の有無(前回調査との比較)



(2) 前職の就労形態

問6 【問5で「1 ある」を選んだ方にお伺いします】

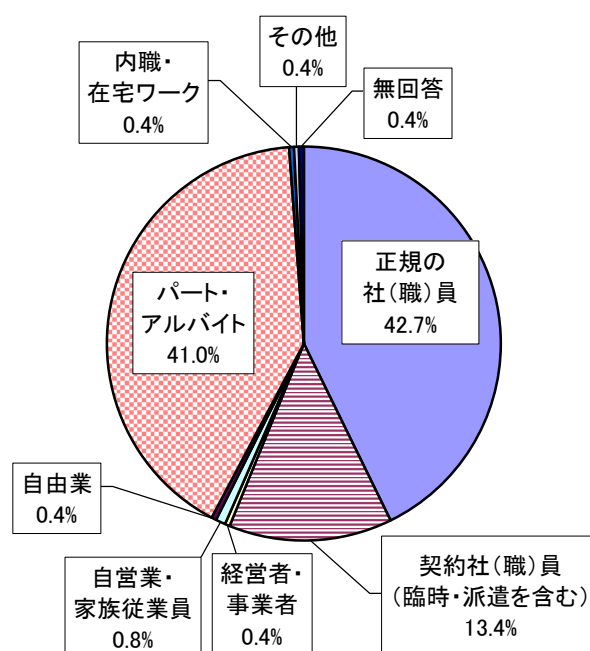
あなたの前職の就労形態は次のうちどれに当たりますか。あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

※ 複数の仕事に就いたことのある方は、一番最後に就いていた仕事の就労形態についてお答えください。

問5で就労経験が「ある」と回答した人に前職の就労形態について尋ねたところ、「正規の社（職）員」（42.7%）が最も多く、続いて「パート・アルバイト」（41.0%）、「契約社（職）員（臨時・派遣を含む）」（13.4%）の順である。 【図表 2-2 参照】

図表 2-2 前職の就労形態(n=239)

就労形態	回答数（件）
正規の社（職）員	102
契約社（職）員 （臨時・派遣を含む）	32
経営者・事業者	1
自営業・家族従業員	2
自由業	1
パート・アルバイト	98
内職・在宅ワーク	1
その他	1
無回答	1



(3) 離職理由

問7【問5で「1 ある」を選んだ方にお伺いします】

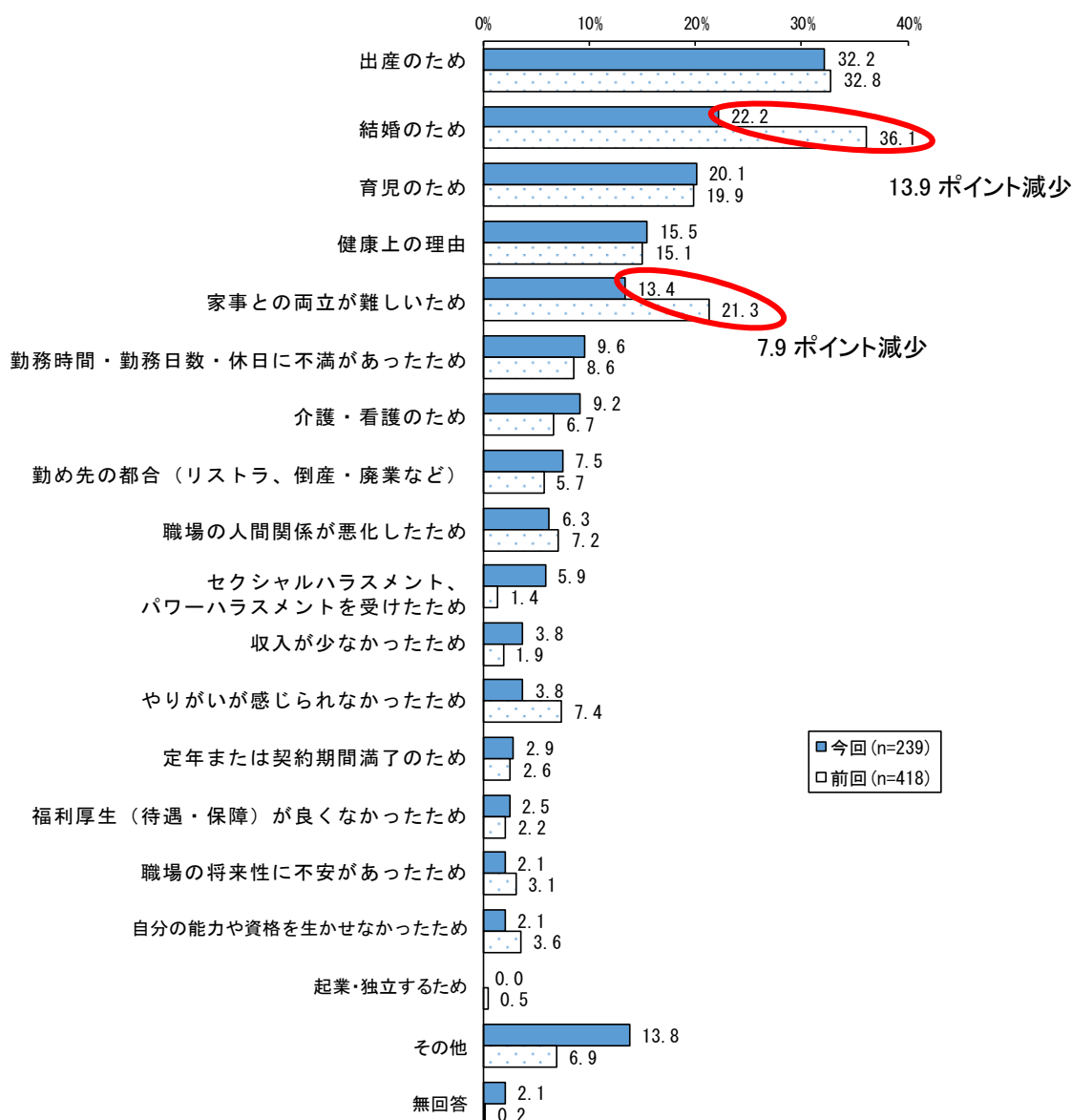
離職した理由は何ですか。あてはまるものを3つまで選んで○をつけてください。

※ 複数の仕事に就いたことのある方は、一番最後に就いていた仕事の離職理由についてお答えください。

問5で就労経験が「ある」と回答した人に離職の理由について尋ねたところ、「出産のため」(32.2%)が最も多く、続いて「結婚のため」(22.2%)、「育児のため」(20.1%)、「健康上の理由」(15.5%)の順である。

前回調査と比較すると、「結婚のため」(36.1%⇒22.2%)が13.9ポイント、「家事との両立が難しいため」(21.3%⇒13.4%)が7.9ポイント減少した。【図表2-3 参照】

図表2-3 離職理由(前回調査との比較)



※前回調査の設問「家庭の事情でUターンしたため」(2.4%)を削除したため、前回調査と単純に比較はできない。

(3) 離職理由

年代別にみると、「20代」「30代」「40代」では「出産のため」が最も多い（「20代」34.5%、「30代」45.8%、「40代」39.1%）。「50代」では「健康上の理由」（26.5%）が最も多い。

結婚の有無別にみると、「既婚」では、「出産のため」（37.7%）が最も多い。「未婚」では、「健康上の理由」「その他」（ともに24.0%）が最も多い。 【図表2-4 参照】

図表2-4 離職理由(年代別、結婚の有無別)

		(%)																		
		結婚のため	出産のため	育児のため	介護・看護のため	家事との両立が難しいため	勤め先の都合 (リストラ、倒産・廃業など)	職場の将来性に不安があったため	定年または契約期間満了のため	収入が少なかったため	勤務時間・勤務日数・休日に不満があったため	福利厚生(待遇・保障)が良くなかったため	職場の人間関係が悪化したため	セクシャルハラスメント、パワーハラスメントを受けたため	やりがいを感じられなかったため	自分の能力や資格を生かせなかったため	起業・独立するため	健康上の理由	その他	無回答
全体	(n=239)	22.2	32.2	20.1	9.2	13.4	7.5	2.1	2.9	3.8	9.6	2.5	6.3	5.9	3.8	2.1	-	15.5	13.8	2.1
年代	20代 (n=29)	13.8	34.5	17.2	-	20.7	6.9	6.9	-	10.3	24.1	3.4	13.8	10.3	10.3	6.9	-	3.4	13.8	6.9
	30代 (n=72)	26.4	45.8	27.8	4.2	8.3	2.8	1.4	4.2	-	5.6	-	5.6	4.2	1.4	-	-	11.1	12.5	1.4
	40代 (n=69)	21.7	39.1	20.3	7.2	14.5	10.1	-	4.3	5.8	8.7	1.4	4.3	8.7	4.3	2.9	-	14.5	17.4	1.4
	50代 (n=68)	22.1	8.8	13.2	20.6	14.7	10.3	2.9	1.5	2.9	8.8	5.9	5.9	2.9	2.9	1.5	-	26.5	11.8	1.5
結婚の有無	未婚 (n=25)	-	-	-	12.0	-	16.0	8.0	4.0	4.0	20.0	4.0	20.0	8.0	12.0	8.0	-	24.0	24.0	-
	既婚 (n=204)	25.0	37.7	23.0	8.3	15.2	6.9	1.0	2.9	2.9	8.3	2.0	4.4	5.9	2.5	1.5	-	13.2	12.7	2.5
	離死別 (n=6)	-	-	16.7	16.7	-	-	-	-	33.3	16.7	16.7	16.7	-	-	-	-	50.0	16.7	-

(4) 今後仕事に就く意思

問8 【現在、仕事に就いていない方全員にお伺いします】

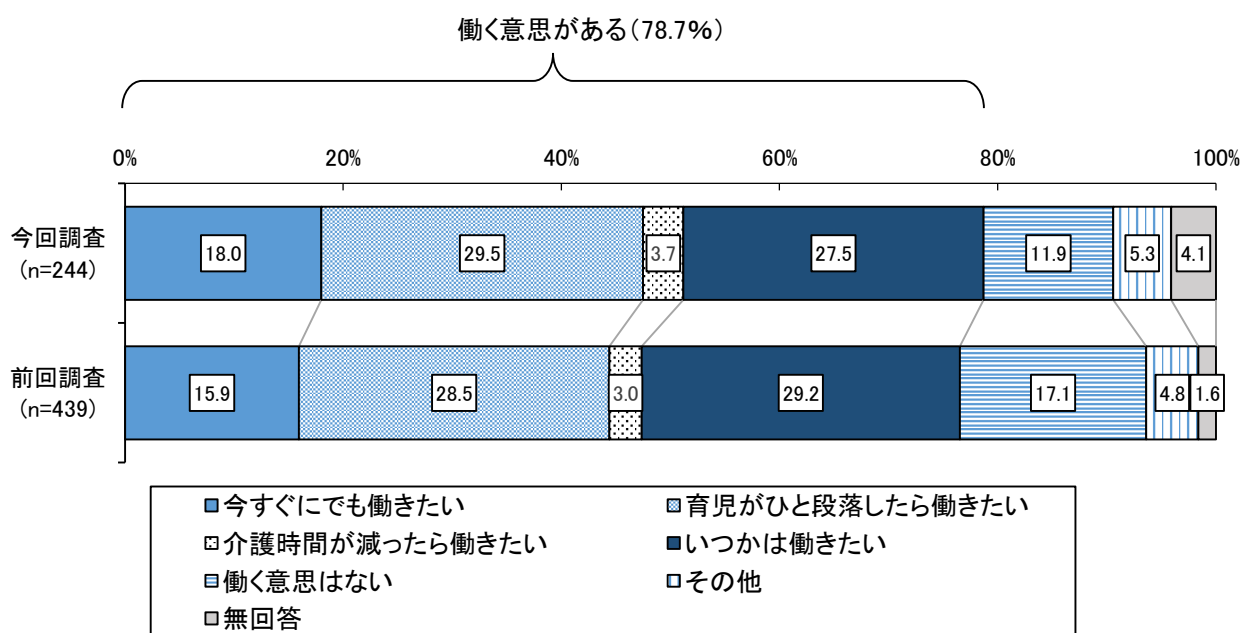
あなたは今後、仕事に就く意思はありますか。あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

今後、仕事に就く意思について尋ねたところ、「育児がひと段落したら働きたい」(29.5%)が最も多い。続いて「いつかは働きたい」(27.5%)、「今すぐにでも働きたい」(18.0%)の順である。前回調査と比較すると、大きな変化はない。

「今すぐにでも働きたい」「育児がひと段落したら働きたい」「介護時間が減ったら働きたい」「いつかは働きたい」を合わせると、8割近くが今後働きたいと回答している。

【図表2-5 参照】

図表2-5 今後仕事に就く意思(全体、n=244)



(4) 今後仕事に就く意思

年代別にみると、「20代」では「育児がひと段落したら働きたい」と「いつかは働きたい」（ともに32.3%）が最も多い。

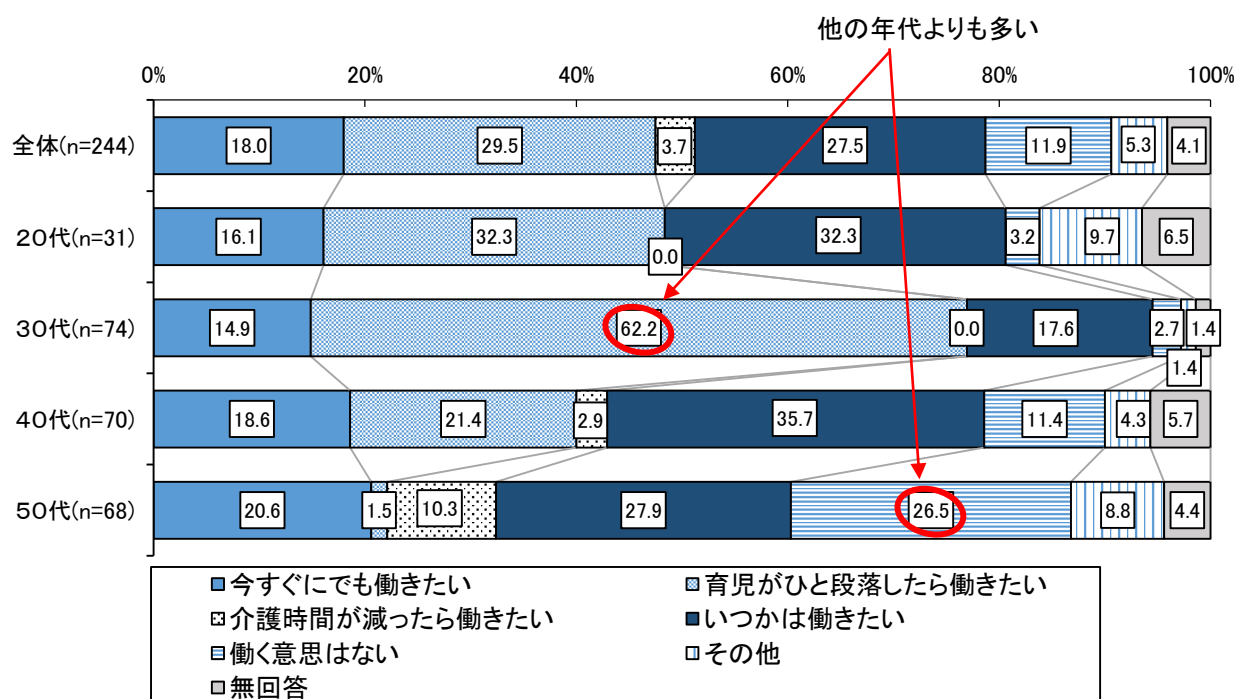
「30代」では、「育児がひと段落したら働きたい」（62.2%）が6割を超え、他の年代よりも多い。

また、「40代」「50代」では「いつかは働きたい」が最も多い（「40代」35.7%、「50代」27.9%）。

「50代」では、「働く意思はない」（26.5%）の割合が3割近くと他の年代に比べて多い（「20代」3.2%、「30代」2.7%、「40代」11.4%）。

【図表2-6 参照】

図表 2-6 今後仕事に就く意思(年代別)

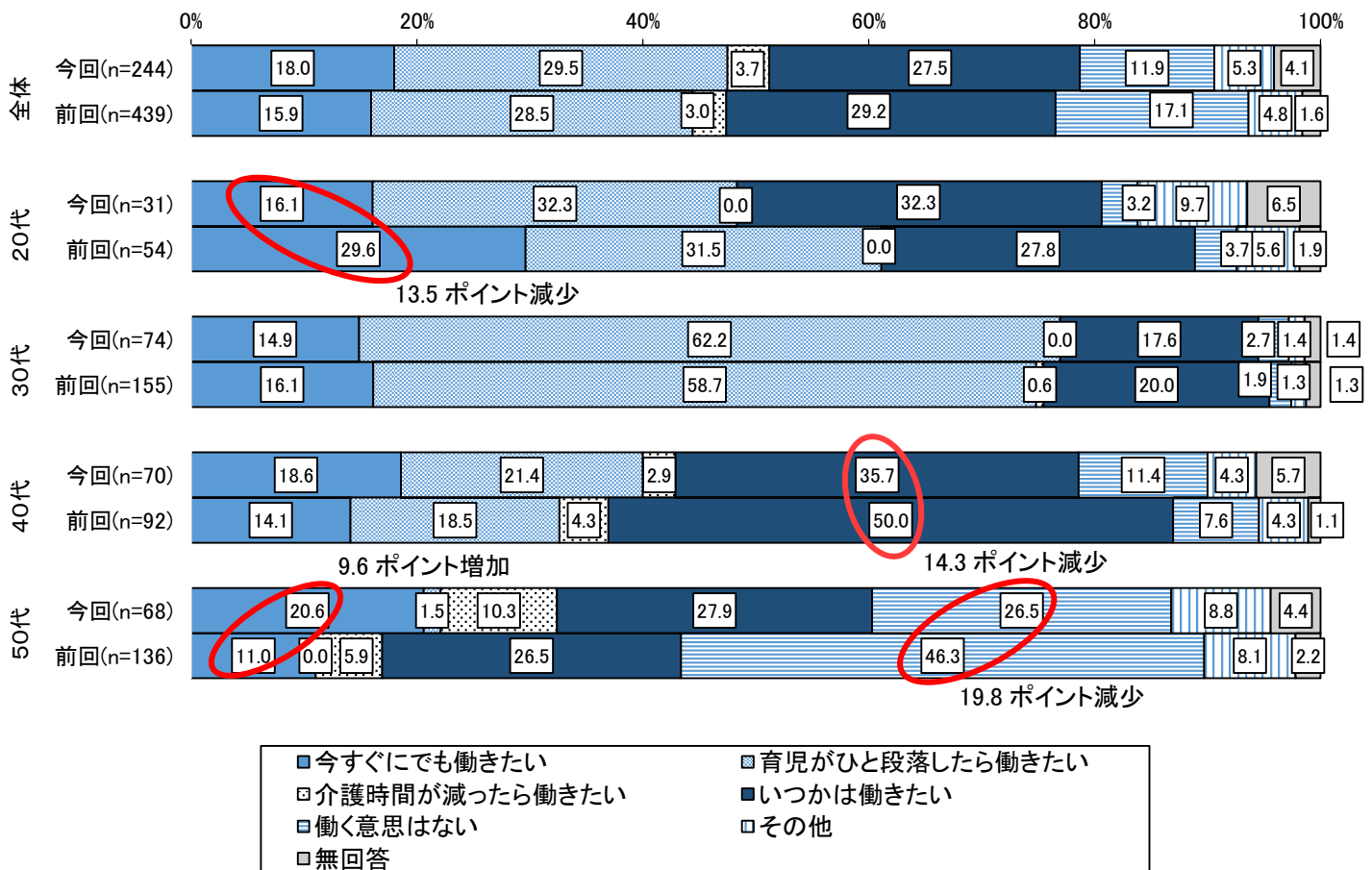


(4) 今後仕事に就く意思

前回調査と比較すると、「20代」では、「今すぐにも働きたい」(29.6%⇒16.1%)が13.5ポイント減少した。「30代」では、大きな変化はなかった。

また、「40代」では「いつかは働きたい」(50.0%⇒35.7%)が14.3ポイント減少した。「50代」では「今すぐにも働きたい」(11.0%⇒20.6%)が9.6ポイント増加し、「働く意思はない」(46.3%⇒26.5%)が19.8ポイント減少した。【図表2-7 参照】

図表 2-7 今後仕事に就く意思 (年代別・前回調査との比較)



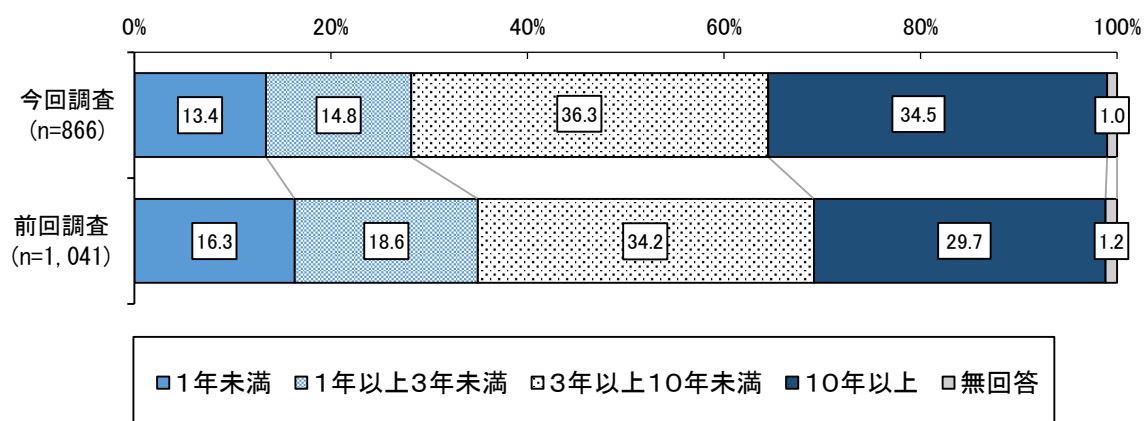
3 就労している方(有償労働者)の現状

(1) 勤続年数

問9 あなたは現在の仕事を何年続けていますか。あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

現在の仕事の勤続年数について尋ねたところ、「3年以上10年未満」(36.3%)が最も多い。続いて「10年以上」(34.5%)、「1年以上3年未満」(14.8%)、「1年未満」(13.4%)の順である。前回調査と比較すると、大きな変化はない。【図表3-1 参照】

図表3-1 勤続年数(全体、n=866)



(1) 勤続年数

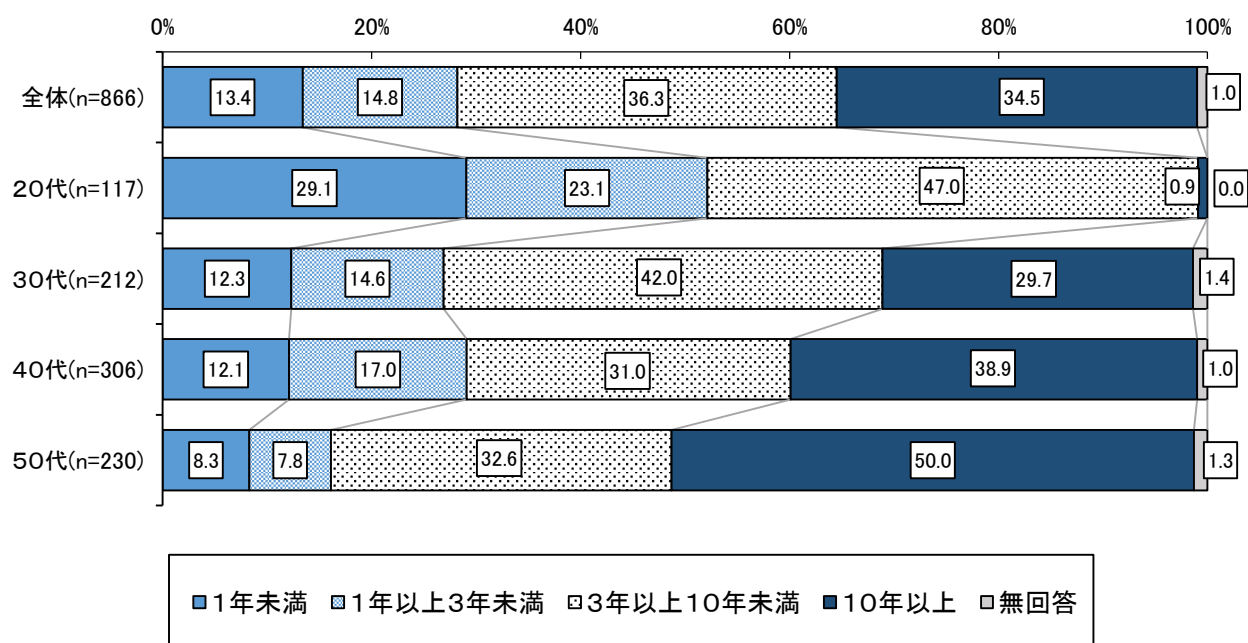
年代別にみると、年代が高くなるにつれ勤続年数が長くなる。

「20代」では、「3年以上10年未満」(47.0%)が最も多く、続いて「1年未満」(29.1%)である。「30代」では、「3年以上10年未満」(42.0%)が最も多く、続いて「10年以上」(29.7%)である。

「40代」「50代」では、「10年以上」の割合が最も多い(「40代」38.9%、「50代」50.0%)。

【図表3-2 参照】

図表 3-2 勤続年数 (年代別)



(1) 勤続年数

前回調査と比較すると、「20代」で「1年以上3年未満」(37.3%⇒23.1%)が14.2ポイント減少し、「3年以上10年未満」(30.3%⇒47.0%)は16.7ポイント増加した。

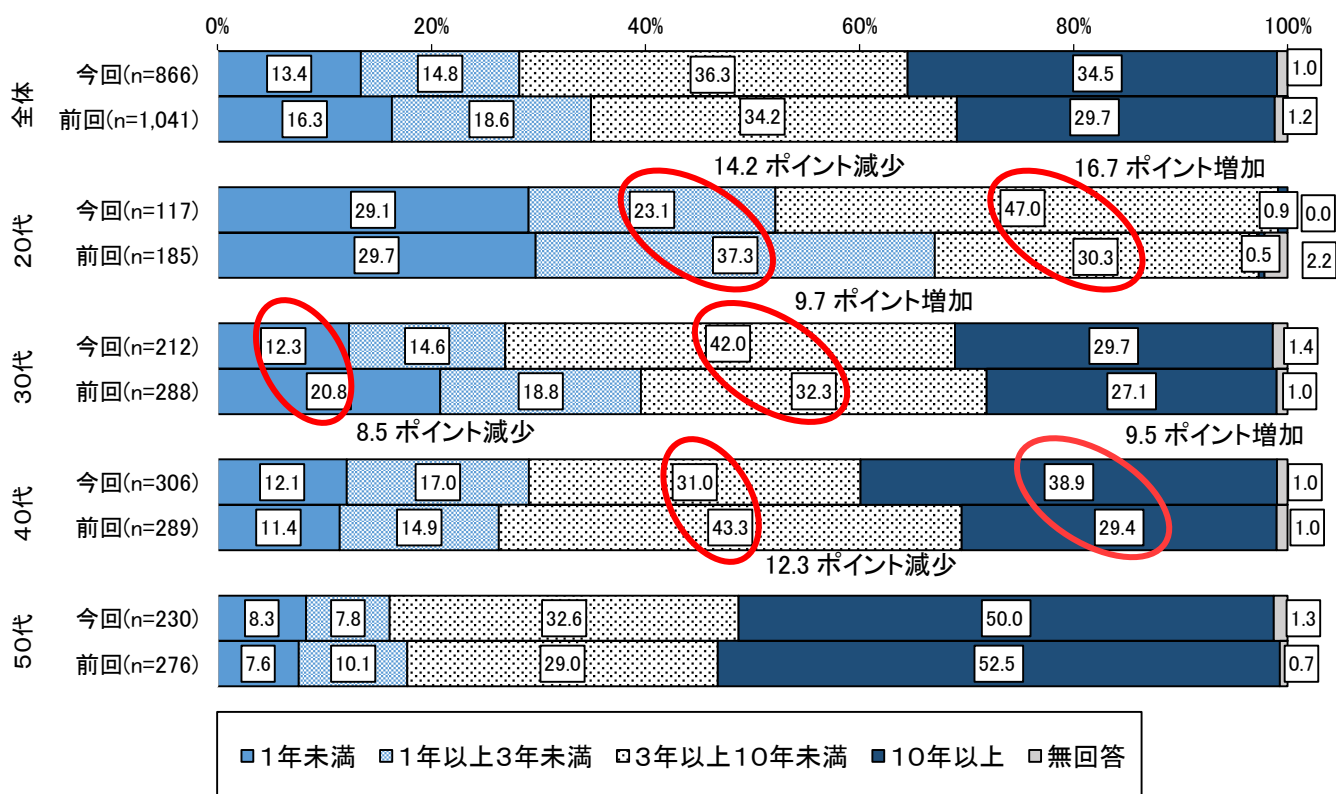
「30代」では、「1年未満」(20.8%⇒12.3%)が8.5ポイント減少し、「3年以上10年未満」(32.3%⇒42.0%)が9.7ポイント増加した。

「40代」では、「3年以上10年未満」(43.3%⇒31.0%)が12.3ポイント減少し、「10年以上」(29.4%⇒38.9%)が9.5ポイント増加した。

「50代」では、大きな変化はない。

【図表3-3 参照】

図表 3-3 勤続年数(年代別・前回調査との比較)



(2) 現在の仕事の満足度

問 10 あなたは現在の仕事に満足していますか。あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

現在の仕事に満足しているか尋ねたところ、「ほぼ満足している」(51.5%)が最も多い。「非常に満足している」(5.7%)と「ほぼ満足している」を合わせた“満足”の割合は57.2%である。

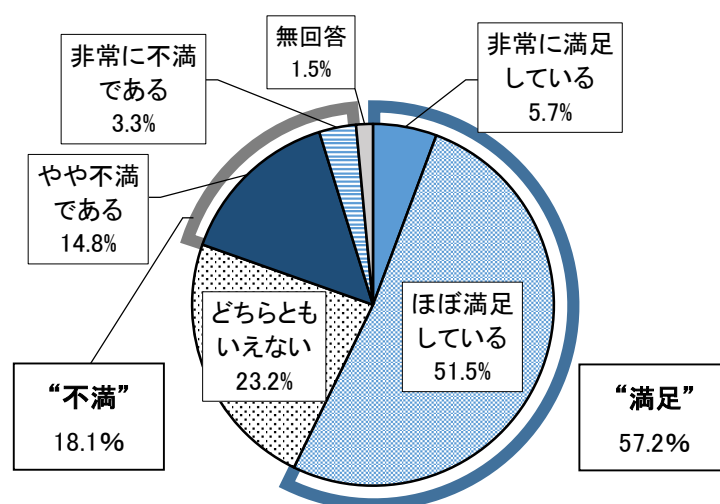
一方、「やや不満である」(14.8%)、「非常に不満である」(3.3%)を合わせた“不満”の割合は18.1%である。

【図表3-4 参照】

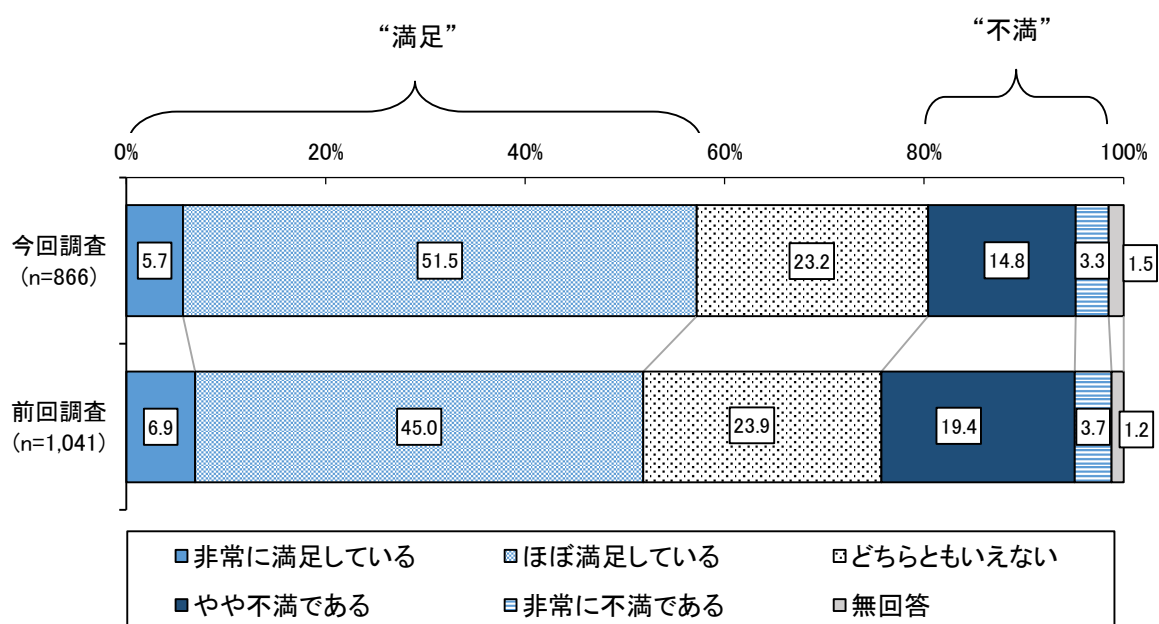
前回調査と比較すると、大きな変化はない。

【図表3-5 参照】

図表 3-4 現在の仕事の満足度(全体、n=866)



図表 3-5 現在の仕事の満足度(前回調査との比較)



(2) 現在の仕事の満足度

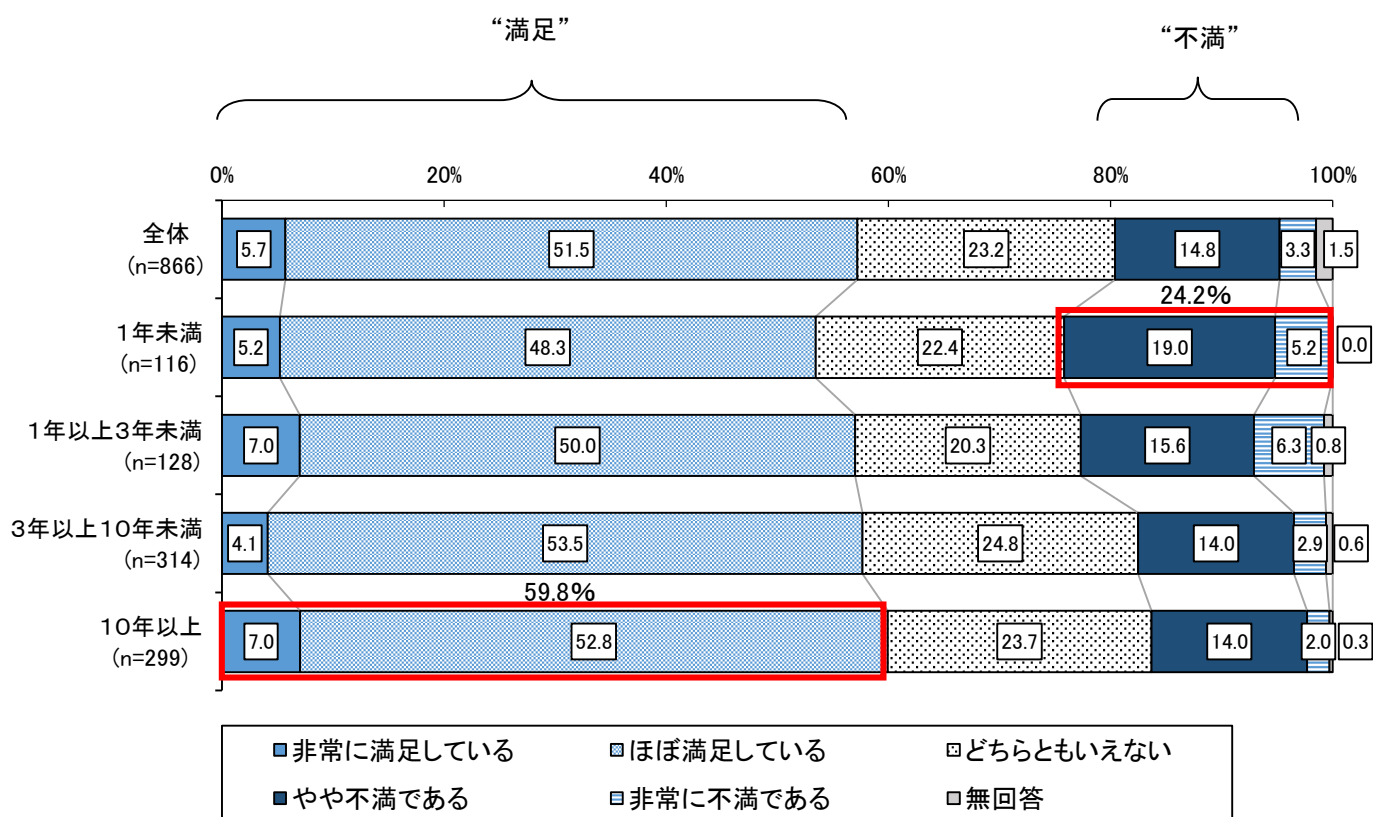
勤続年数別にみると、勤続年数が高いほど「非常に満足している」と「ほぼ満足している」を合わせた“満足”の割合が多く、「やや不満である」と「非常に不満である」を合わせた“不満”の割合が少ない。

勤続年数が「10年以上」では、“満足”は59.8%と、他の勤続年数に比べ最も多い。

「1年未満」では、“不満”が24.2%と他の勤続年数に比べると高くなっている。

【図表3-6 参照】

図表 3-6 現在の仕事の満足度(勤続年数別)

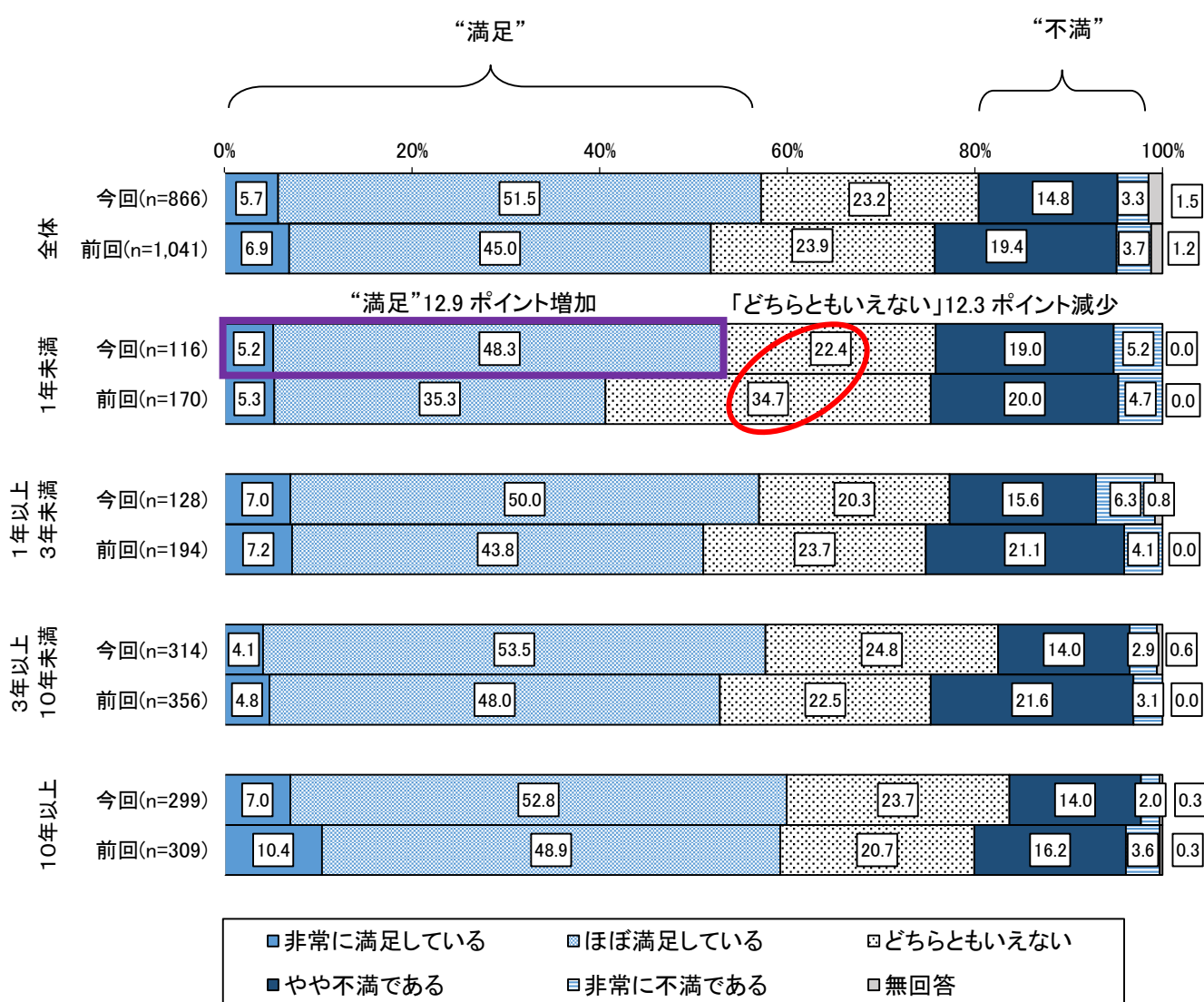


(2) 現在の仕事の満足度

前回調査と比較すると、勤続年数が「1年未満」で“満足”が（40.6%⇒53.5%）が12.9ポイント増加し、「どちらともいえない」（34.7%⇒22.4%）が12.3ポイント減少した。

【図表3-7 参照】

図表 3-7 現在の仕事の満足度(勤続年数別・前回調査との比較)



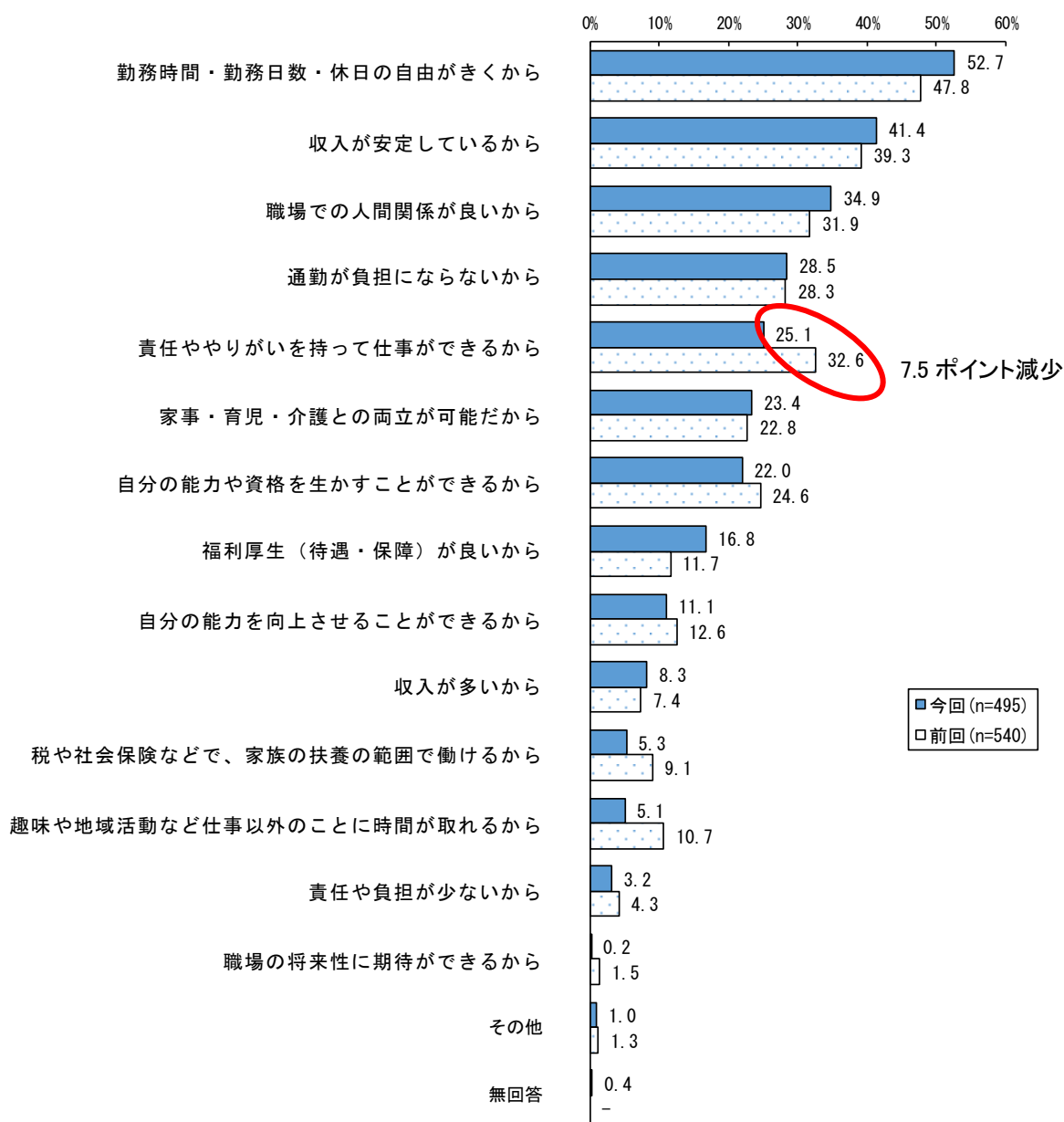
(3) 現在の仕事に「満足している」理由

問 11 【問 10 で「1 非常に満足している」か「2 ほぼ満足している」を選んだ方にお伺いします】
その理由は何ですか。あてはまるものを3つまで選んで○をつけてください。

現在の仕事に「満足している」理由を尋ねたところ、「勤務時間・勤務日数・休日の自由がきくから」(52.7%)が最も多く、5割を超えている。続いて「収入が安定しているから」(41.4%)、「職場での人間関係がよいから」(34.9%)の順である。

前回調査と比較すると、「責任ややりがいを持って仕事ができるから」(32.6%⇒25.1%)が7.5ポイント減少した。【図表3-8 参照】

図表 3-8 現在の仕事に「満足している」理由(前回調査との比較)



(3) 現在の仕事に「満足している」理由

年代別にみると、「20代」では「収入が安定しているから」(49.2%)が最も多く、続いて「職場での人間関係が良いから」(41.5%)である。

30代以上では、「勤務時間・勤務日数・休日の自由がきくから」が最も多く、「30代」では56.0%、「40代」で53.9%、「50代」で55.1%である。

前回調査と比較すると、全ての年代で、「勤務時間・勤務日数・休日の自由がきくから」、「福利厚生(待遇・保障)が良いから」が増加し、「責任ややりがいを持って仕事ができるから」が減少した。具体的には、「30代」で「勤務時間・勤務日数・休日の自由がきくから」(45.2%⇒56.0%)が10.8ポイント増加した。「20代」で「福利厚生(待遇・保障)が良いから」(16.5%⇒30.8%)が14.3ポイント増加した。「20代」「30代」「40代」で、「責任ややりがいを持って仕事ができるから」(「20代」35.4%⇒26.2%、「30代」27.4%⇒14.7%、「40代」35.2%⇒25.7%)がそれぞれ9.2ポイント、12.7ポイント、9.5ポイント減少した。

また、「20代」では、「自分の能力や資格を生かすことができるから」(24.1%⇒16.9%)が7.2ポイント減少した。

「40代」では、「税や社会保険などで、家族の扶養の範囲で働けるから」(12.3%⇒4.8%)が7.5ポイント減少した。

「50代」では、「職場での人間関係が良いから」(24.5%⇒33.3%)が8.8ポイント増加し、「趣味や地域活動など仕事以外のことに時間が取れるから」(16.6%⇒5.4%)が11.2ポイント減少した。

【図表3-9 参照】

図表 3-9 現在の仕事に「満足している」理由(年代別・前回調査との比較)

			(%)																		
			収入が安定しているから	収入が多いから	勤務時間・勤務日数・休日の自由がきくから	福利厚生(待遇・保障)が良いから	職場での人間関係が良いから	仕事ができるから	責任ややりがいを持って	自分の能力や資格を生かすことができるから	自分の能力や資格を生かすことができるから	自分の能力を向上させることができるから	職場の将来性に期待ができるから	通勤が負担にならないから	税や社会保険などで、家族の扶養の範囲で働けるから	責任や負担が少ないから	可能だから	家事・育児・介護との両立が	趣味や地域活動など仕事以外のことに時間が取れるから	その他	無回答
全体	今回	(n=495)	41.4	8.3	52.7	16.8	34.9	25.1	22.0	11.1	0.2	28.5	5.3	3.2	23.4	5.1	1.0	0.4			
	前回	(n=540)	39.3	7.4	47.8	11.7	31.9	32.6	24.6	12.6	1.5	28.3	9.1	4.3	22.8	10.7	1.3	-			
20代	今回	(n=65)	49.2	10.8	38.5	30.8	41.5	26.2	16.9	20.0	-	15.4	-	3.1	7.7	9.2	-	3.1			
	前回	(n=79)	54.4	10.1	32.9	16.5	40.5	35.4	24.1	15.2	1.3	19.0	-	7.6	11.4	8.9	2.5	-			
30代	今回	(n=116)	45.7	11.2	56.0	19.8	41.4	14.7	20.7	9.5	-	23.3	1.7	4.3	29.3	0.9	0.9	-			
	前回	(n=146)	41.1	7.5	45.2	13.7	36.3	27.4	23.3	15.8	1.4	22.6	6.2	4.8	29.5	5.5	2.1	-			
40代	今回	(n=167)	35.9	7.8	53.9	12.0	29.3	25.7	22.8	11.4	0.6	36.5	4.8	2.4	29.3	6.0	2.4	-			
	前回	(n=162)	34.6	6.2	51.9	11.7	30.2	35.2	22.8	9.3	1.9	34.0	12.3	1.9	24.7	11.1	0.6	-			
50代	今回	(n=147)	40.8	5.4	55.1	13.6	33.3	32.0	24.5	8.2	-	29.3	10.9	3.4	19.0	5.4	-	-			
	前回	(n=151)	35.1	7.3	53.0	7.3	24.5	33.8	28.5	11.9	1.3	31.8	13.2	4.6	20.5	16.6	0.7	-			

* 全ての年代で 増加 増加 減少

(3) 現在の仕事に「満足している」理由

就労形態別にみると、「正規の社（職）員」では「収入が安定しているから」（74.4%）が最も多く、7割半である。

「契約社（職）員（臨時・派遣含む）」「自営業・家族従業員」「パート・アルバイト」では、「勤務時間・勤務日数・休日の自由がきくから」（順に54.0%、52.6%、79.9%）が最も多い。「自営業・家族従業員」では「自分の能力や資格を生かすことができるから」も多く、「勤務時間・勤務日数・休日の自由がきくから」と同じ52.6%である。【図表3-10 参照】

図表 3-10 現在の仕事に「満足している」理由(就労形態別)

		(%)															
		収入が安定しているから	収入が多いから	勤務時間・勤務日数・休日の自由がきくから	福利厚生（待遇・保障）が良いから	職場での人間関係が良いから	仕事ができやりの責任ややりがいを持って	自分の能力や資格を生かすことができるから	自分の能力を向上させることができるから	職場の将来性に期待ができるから	通勤が負担にならないから	税や社会保険などで、家族の扶養の範囲で働けるから	責任や負担が少ないから	家事・育児・介護との両立が可能だから	趣味や地域活動など仕事以外のことに時間が取れるから	その他	無回答
全体	(n=495)	41.4	8.3	52.7	16.8	34.9	25.1	22.0	11.1	0.2	28.5	5.3	3.2	23.4	5.1	1.0	0.4
正規の社（職）員	(n=211)	74.4	13.3	28.0	29.4	31.8	35.1	25.1	11.4	0.5	15.6	-	0.5	8.1	3.8	0.9	0.9
契約社（職）員 （臨時・派遣を含む）	(n=50)	36.0	8.0	54.0	24.0	32.0	26.0	22.0	14.0	-	34.0	2.0	8.0	20.0	2.0	-	-
経営者・事業者	(n=6)	16.7	-	33.3	-	33.3	50.0	33.3	33.3	-	33.3	-	-	33.3	-	-	-
自営業・家族従業員	(n=19)	15.8	5.3	52.6	-	15.8	36.8	52.6	21.1	-	26.3	-	-	47.4	-	10.5	-
自由業	(n=4)	-	-	75.0	-	-	25.0	75.0	50.0	-	-	-	-	50.0	25.0	-	-
パート・アルバイト	(n=194)	12.4	3.6	79.9	4.1	42.8	9.8	11.3	7.2	-	42.8	12.4	5.7	38.7	7.7	0.5	-
内職・在宅ワーク	(n=3)	33.3	-	33.3	-	33.3	100.0	66.7	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	(n=8)	12.5	12.5	50.0	12.5	12.5	50.0	75.0	12.5	-	12.5	12.5	-	12.5	-	-	-

(3) 現在の仕事に「満足している」理由

結婚の有無別にみると、「未婚」では「収入が安定しているから」(52.7%)が最も多く、続いて「勤務時間・勤務日数・休日の自由がきくから」(38.4%)である。

「既婚」「離死別」では「勤務時間・勤務日数・休日の自由がきくから」(順に57.2%、55.2%)が最も多く、続いて「収入が安定しているから」(順に37.1%、48.3%)である。

家族形態別にみると、「ひとり暮らし」で「収入が安定しているから」(67.9%)が最も多く、続いて「責任ややりがいを持って仕事ができるから」(34.0%)である。

「夫婦のみ(事実婚を含む)」では「収入が安定しているから」(52.6%)が最も多く、続いて「勤務時間・勤務日数・休日の自由がきくから」(39.7%)である。

「2世代家族(親と子の2世代が同居)」では「勤務時間・勤務日数・休日の自由がきくから」(59.7%)が最も多く、続いて「収入が安定しているから」(35.8%)である。

「3世代家族(親と子と孫の3世代が同居)」では「勤務時間・勤務日数・休日の自由がきくから」(57.1%)が最も多く、続いて「職場での人間関係が良いから」(47.6%)である。

【図表3-11 参照】

図表 3-11 現在の仕事に「満足している」理由(結婚の有無別、家族形態別)

		(%)															
		収入が安定しているから	収入が多いから	勤務時間・勤務日数・休日の自由がきくから	福利厚生(待遇・保障)が良いから	職場での人間関係が良いから	責任ややりがいを持って仕事ができるから	自分の能力や資格を生かすことができるから	自分の能力を向上させることができるから	職場の将来性に期待ができるから	通勤が負担にならないから	扶養の範囲で働けるから	税や社会保険などで、家族の責任や負担が少ないから	家事・育児・介護との両立が可能だから	趣味や地域活動など仕事以外のことに時間が取れるから	その他	無回答
全体 (n=495)		41.4	8.3	52.7	16.8	34.9	25.1	22.0	11.1	0.2	28.5	5.3	3.2	23.4	5.1	1.0	0.4
結婚の有無	未婚 (n=112)	52.7	11.6	38.4	27.7	31.3	27.7	20.5	21.4	-	22.3	-	3.6	2.7	7.1	0.9	1.8
	既婚 (n=353)	37.1	7.1	57.2	13.0	36.3	22.7	22.4	7.9	0.3	31.2	7.4	3.1	31.2	4.5	0.8	-
	離死別 (n=29)	48.3	10.3	55.2	20.7	31.0	41.4	24.1	10.3	-	20.7	-	3.4	10.3	3.4	3.4	-
家族形態別	ひとり暮らし (n=53)	67.9	15.1	22.6	28.3	30.2	34.0	22.6	18.9	-	22.6	-	5.7	1.9	1.9	1.9	-
	夫婦のみ(事実婚を含む) (n=78)	52.6	10.3	39.7	17.9	33.3	29.5	30.8	14.1	1.3	19.2	6.4	5.1	15.4	3.8	1.3	-
	2世代家族(親と子の2世代が同居) (n=310)	35.8	5.8	59.7	15.5	34.8	21.3	19.0	9.7	-	31.9	5.8	2.9	29.7	6.5	1.0	0.6
	3世代家族(親と子と孫の3世代が同居) (n=42)	33.3	7.1	57.1	9.5	47.6	31.0	28.6	2.4	-	28.6	7.1	-	23.8	-	-	-
	その他 (n=10)	20.0	30.0	80.0	-	30.0	40.0	20.0	30.0	-	30.0	-	-	10.0	10.0	-	-

(4) 現在の仕事に「満足していない」理由

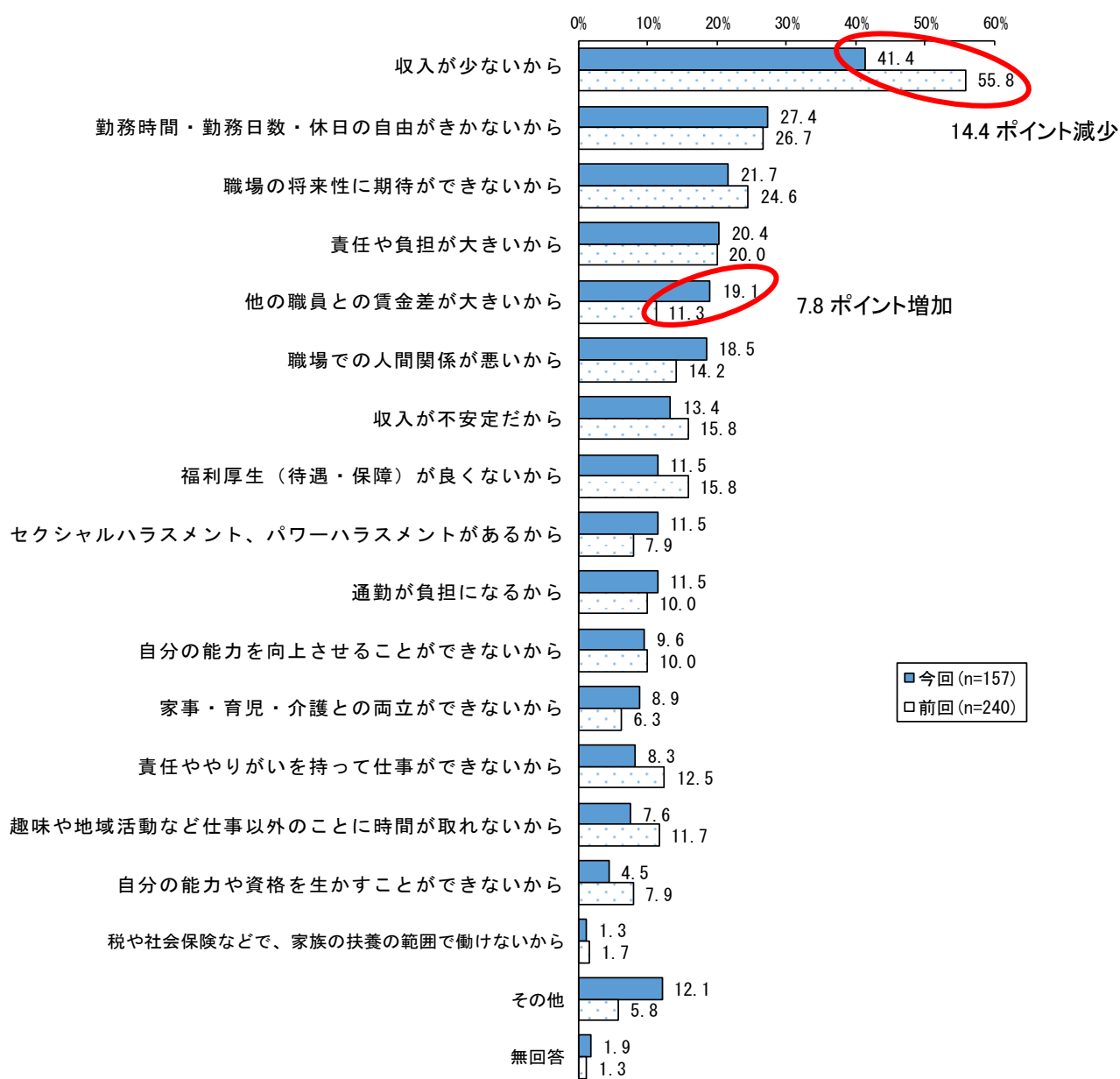
問 12 【問 10 で「4 やや不満である」か「5 非常に不満である」を選んだ方にお伺いします】
その理由は何ですか。あてはまるものを3つまで選んで○をつけてください。

現在の仕事に「満足していない」理由を尋ねたところ、「収入が少ないから」(41.4%)が最も多く、続いて「勤務時間・勤務日数・休日の自由がきかないから」(27.4%)、「職場の将来性に期待ができないから」(21.7%)、「責任や負担が大きいから」(20.4%)の順である。

前回調査と比較すると、「収入が少ないから」(55.8%⇒41.4%)が14.4ポイント減少し、「他の職員との賃金差が大きいから」(11.3%⇒19.1%)が7.8ポイント増加した。

【図表3-12 参照】

図表3-12 現在の仕事に「満足していない」理由(前回調査との比較)



(4) 現在の仕事に「満足していない」理由

年代別にみると、「20代」では「勤務時間・勤務日数・休日の自由がきかないから」(43.5%)が最も多い。

その他の年代で「収入が少ないから」が最も多く、「30代」では46.3%、「40代」では37.9%、「50代」では41.2%である。

前回調査と比較すると、全ての年代で「他の職員との賃金差が大きいから」、「職場での人間関係が悪いから」が増加し、「収入が少ないから」、「福利厚生(待遇・保障)が良くないから」、「自分の能力や資格を生かすことができないから」が減少した。具体的には、「20代」「50代」で「他の職員との賃金差が大きいから」(「20代」6.0%⇒17.4%、「50代」13.0%⇒23.5%)はそれぞれ11.4ポイント、10.5ポイント増加した。「30代」では、「職場での人間関係が悪いから」(11.1%⇒24.4%)が13.3ポイント増加した。「20代」「30代」では「収入が少ないから」(「20代」60.0%⇒39.1%、「30代」66.7%⇒46.3%)が20.9ポイント、20.4ポイント減少した。「50代」では、「福利厚生(待遇・保障)が良くないから」(22.2%⇒11.8%)が10.4ポイント減少した。

【図表3-13 参照】

図表 3-13 現在の仕事に「満足していない」理由(年代別・前回調査との比較)

			収入が不安定だから	収入が少ないから	勤務時間・勤務日数・休日の自由がきかないから	福利厚生(待遇・保障)が良くないから	他の職員との賃金差が大きいから	職場での人間関係が悪いから	セクシャルハラスメントがあるから	責任ややりがいを持って仕事ができないから	自分の能力や資格を生かすことができないから	自分の能力を向上させることができないから	職場の将来性に期待ができないから	通勤が負担になるから	税や社会保険などで、家族の扶養の範囲で働けないから	責任や負担が大きいから	家事・育児・介護との両立ができないから	趣味や地域活動など仕事以外のことに時間が取れないから	その他	無回答
全体	今回	(n=157)	13.4	41.4	27.4	11.5	19.1	18.5	11.5	8.3	4.5	9.6	21.7	11.5	1.3	20.4	8.9	7.6	12.1	1.9
	前回	(n=240)	15.8	55.8	26.7	15.8	11.3	14.2	7.9	12.5	7.9	10.0	24.6	10.0	1.7	20.0	6.3	11.7	5.8	1.3
20代	今回	(n=23)	8.7	39.1	43.5	8.7	17.4	21.7	8.7	4.3	8.7	-	4.3	13.0	-	21.7	4.3	13.0	17.4	-
	前回	(n=50)	14.0	60.0	42.0	10.0	6.0	16.0	6.0	16.0	12.0	8.0	20.0	6.0	2.0	16.0	6.0	16.0	4.0	-
30代	今回	(n=41)	9.8	46.3	29.3	9.8	14.6	24.4	17.1	4.9	2.4	19.5	29.3	17.1	-	14.6	19.5	2.4	14.6	-
	前回	(n=72)	13.9	66.7	20.8	15.3	12.5	11.1	8.3	6.9	5.6	13.9	30.6	16.7	-	23.6	6.9	8.3	5.6	-
40代	今回	(n=58)	13.8	37.9	17.2	13.8	19.0	12.1	8.6	12.1	3.4	6.9	25.9	8.6	1.7	27.6	6.9	6.9	13.8	3.4
	前回	(n=63)	22.2	46.0	22.2	15.9	12.7	11.1	9.5	20.6	6.3	12.7	28.6	3.2	-	22.2	4.8	14.3	7.9	-
50代	今回	(n=34)	20.6	41.2	29.4	11.8	23.5	20.6	11.8	8.8	5.9	8.8	17.6	8.8	2.9	14.7	2.9	11.8	2.9	2.9
	前回	(n=54)	13.0	50.0	25.9	22.2	13.0	18.5	5.6	5.6	9.3	3.7	16.7	13.0	5.6	16.7	7.4	9.3	5.6	5.6

* 全ての年代で 減少 減少 増加 増加 減少

(4) 現在の仕事に「満足していない」理由

就労形態別にみると、「経営者・事業者」を除くすべての就労形態で「収入が少ないから」が最も多く、「正規の社（職）員」（42.4%）、「パート・アルバイト」（40.0%）、「契約社（職）員（臨時・派遣含む）」（36.7%）である。

「契約社（職）員（臨時・派遣含む）」では「他の社員との賃金差が大きいから」も多く、「収入が少ないから」と同じ36.7%である。また、「正規の社（職）員」では「勤務時間・勤務日数・休日の自由がきかないから」（37.3%）も多い。 【図表3-14 参照】

図表 3-14 現在の仕事に「満足していない」理由(就労形態別)

		収入が不安定だから	収入が少ないから	勤務時間・勤務日数・休日の自由がきかないから	福利厚生（待遇・保障）が良くないから	他の職員との賃金差が大きいから	職場での人間関係が悪いから	セクシャルハラスメントがあるから	責任ややりがいを持って仕事ができないから	自分の能力や資格を生かすことができないから	自分の能力を向上させることができないから	職場の将来性に期待ができないから	通勤が負担になるから	税や社会保険などで、家族の扶養の範囲で働けないから	責任や負担が大きいから	家事・育児・介護との両立ができないから	趣味や地域活動など仕事以外のことに時間が取れないから	その他	無回答
全体	(n=157)	13.4	41.4	27.4	11.5	19.1	18.5	11.5	8.3	4.5	9.6	21.7	11.5	1.3	20.4	8.9	7.6	12.1	1.9
正規の社（職）員	(n=59)	-	42.4	37.3	8.5	20.3	20.3	22.0	10.2	1.7	10.2	18.6	22.0	-	20.3	18.6	6.8	6.8	-
契約社（職）員 （臨時・派遣を含む）	(n=30)	30.0	36.7	20.0	3.3	36.7	16.7	-	10.0	3.3	-	30.0	3.3	-	10.0	-	10.0	23.3	6.7
経営者・事業者	(n=1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	100.0	-	100.0	-	-
自営業・家族従業員	(n=3)	66.7	66.7	33.3	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	33.3	33.3	-
自由業	(n=2)	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-	50.0	-	-
パート・アルバイト	(n=60)	10.0	40.0	23.3	16.7	11.7	20.0	8.3	6.7	8.3	15.0	23.3	5.0	1.7	25.0	5.0	3.3	11.7	1.7
内職・在宅ワーク	(n=1)	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	(n=1)	100.0	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-

(5) 管理職への登用希望

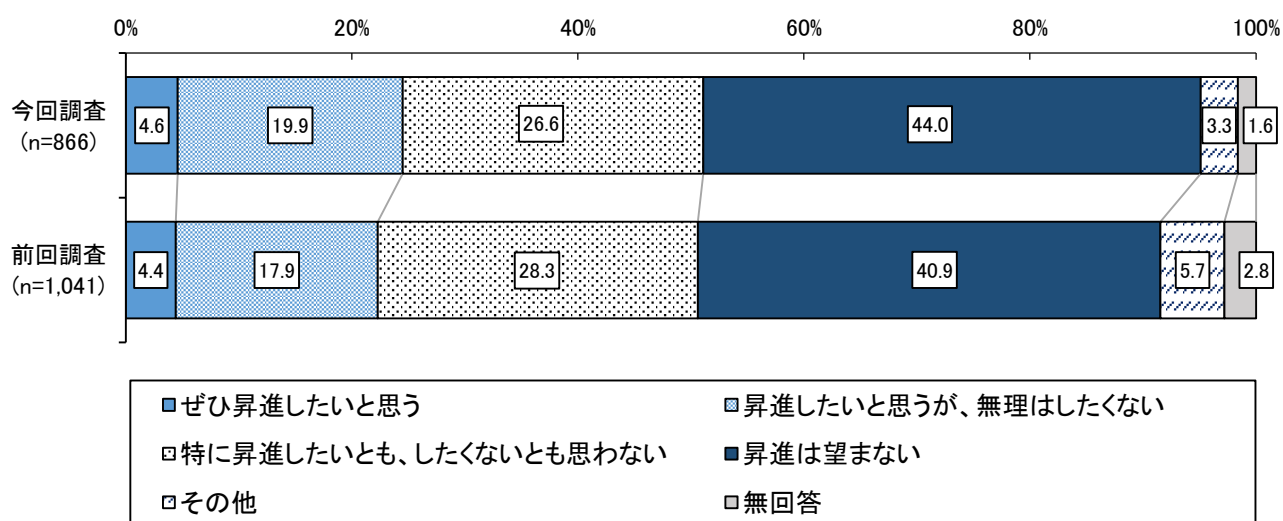
問 13 【現在、仕事に就いている方全員にお伺いします】

あなたは、現在の職場で管理職への登用を望みますか。あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

※ 現在管理職の方は更に上の役職へ、管理職への登用制度のない方は、制度があると仮定してお答えください。

管理職への登用希望を尋ねると、「昇進は望まない」(44.0%)が最も多く、続いて「特に昇進したいともしたくないとも思わない」(26.6%)、「昇進したいと思うが、無理はしたくない」(19.9%)、「ぜひ昇進したいと思う」(4.6%)の順である。前回調査と比較すると、大きな変化はない。 【図表3-15 参照】

図表 3-15 管理職への登用希望(前回調査との比較)



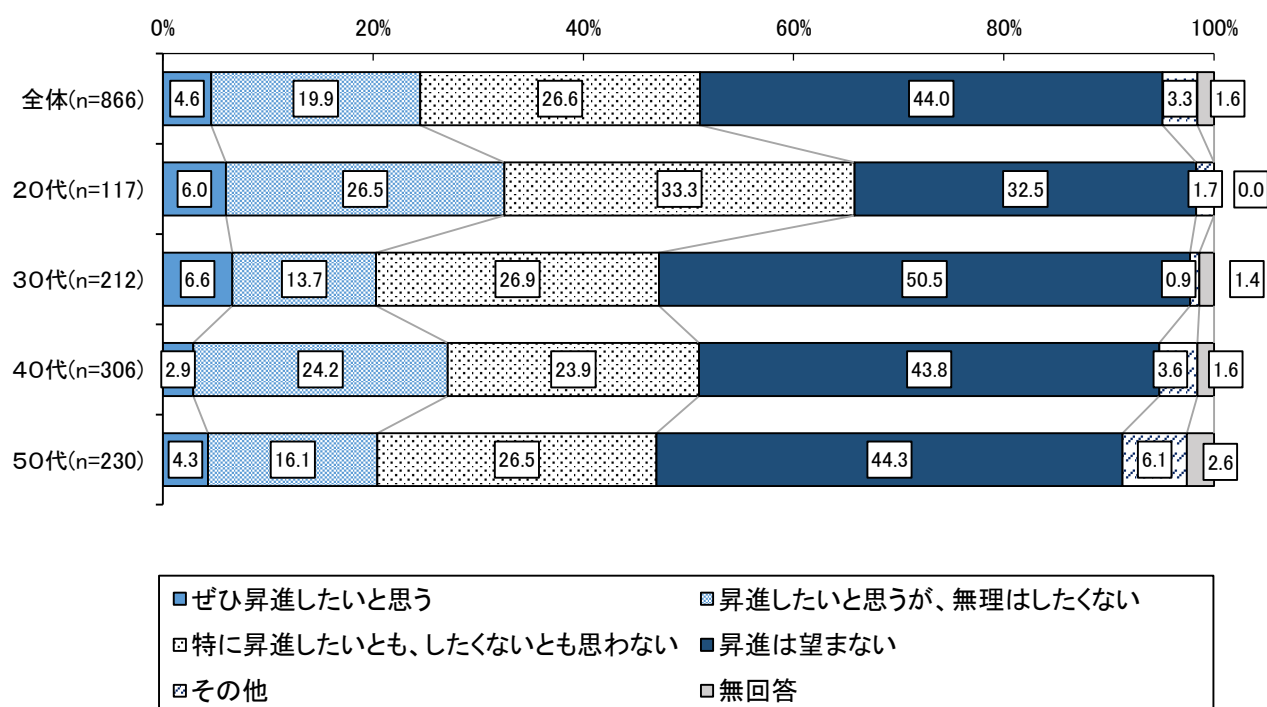
(5) 管理職への登用希望

年代別にみると、「20代」では「特に昇進したいとも、したくないとも思わない」(33.3%)が最も多い。

その他の年代では「昇進は望まない」が最も多く、「30代」で50.5%、「40代」で43.8%、「50代」で44.3%である。

一方、「ぜひ昇進したいと思う」は、すべての年代で少なく、「20代」で6.0%、「30代」で6.6%、「40代」で2.9%、「50代」で4.3%である。 【図表3-16 参照】

図表 3-16 管理職への登用希望(年代別)



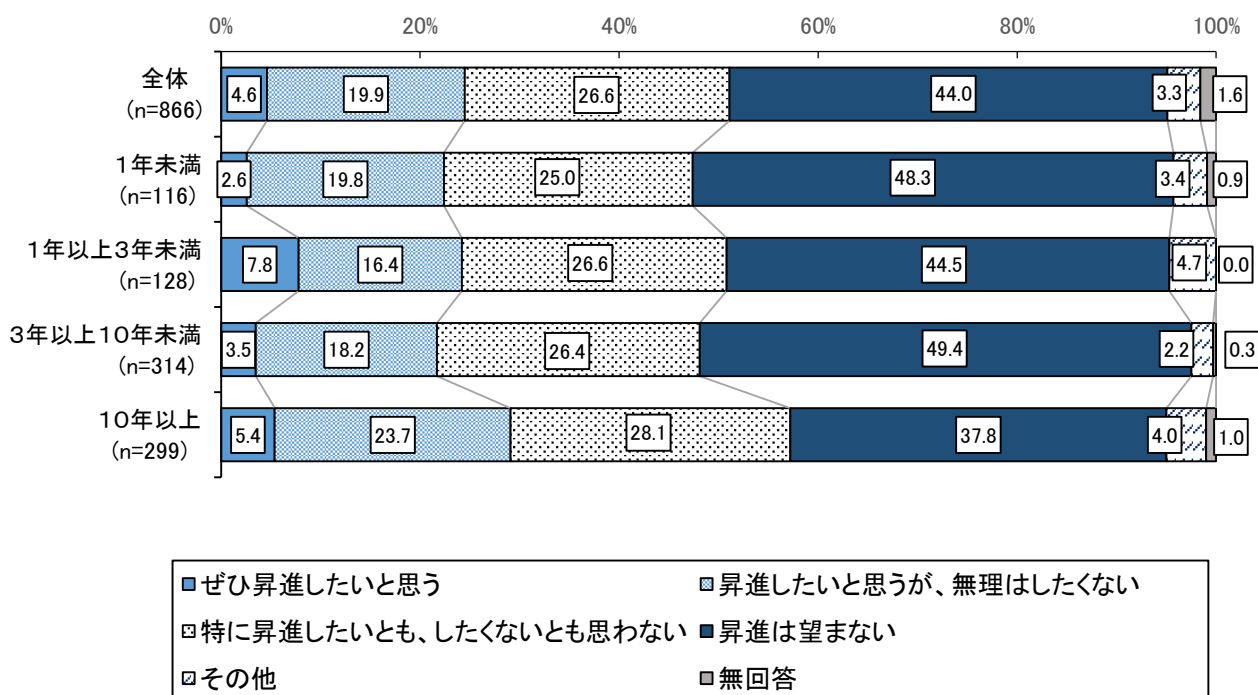
(5) 管理職への登用希望

勤続年数別にみると、「ぜひ昇進したいと思う」は「1年未満」で2.6%、「1年以上3年未満」で7.8%、「3年以上10年未満」で3.5%、「10年以上」で5.4%である。

一方、「昇進したいと思うが、無理はしたくない」は「10年以上」(23.7%)で最も多く、2割を超える。

「特に昇進したいとも、したくないとも思わない」は、勤続年数で大きな差は見られない。「昇進は望まない」の割合は、どの勤続年数でも最も多い。【図表3-17 参照】

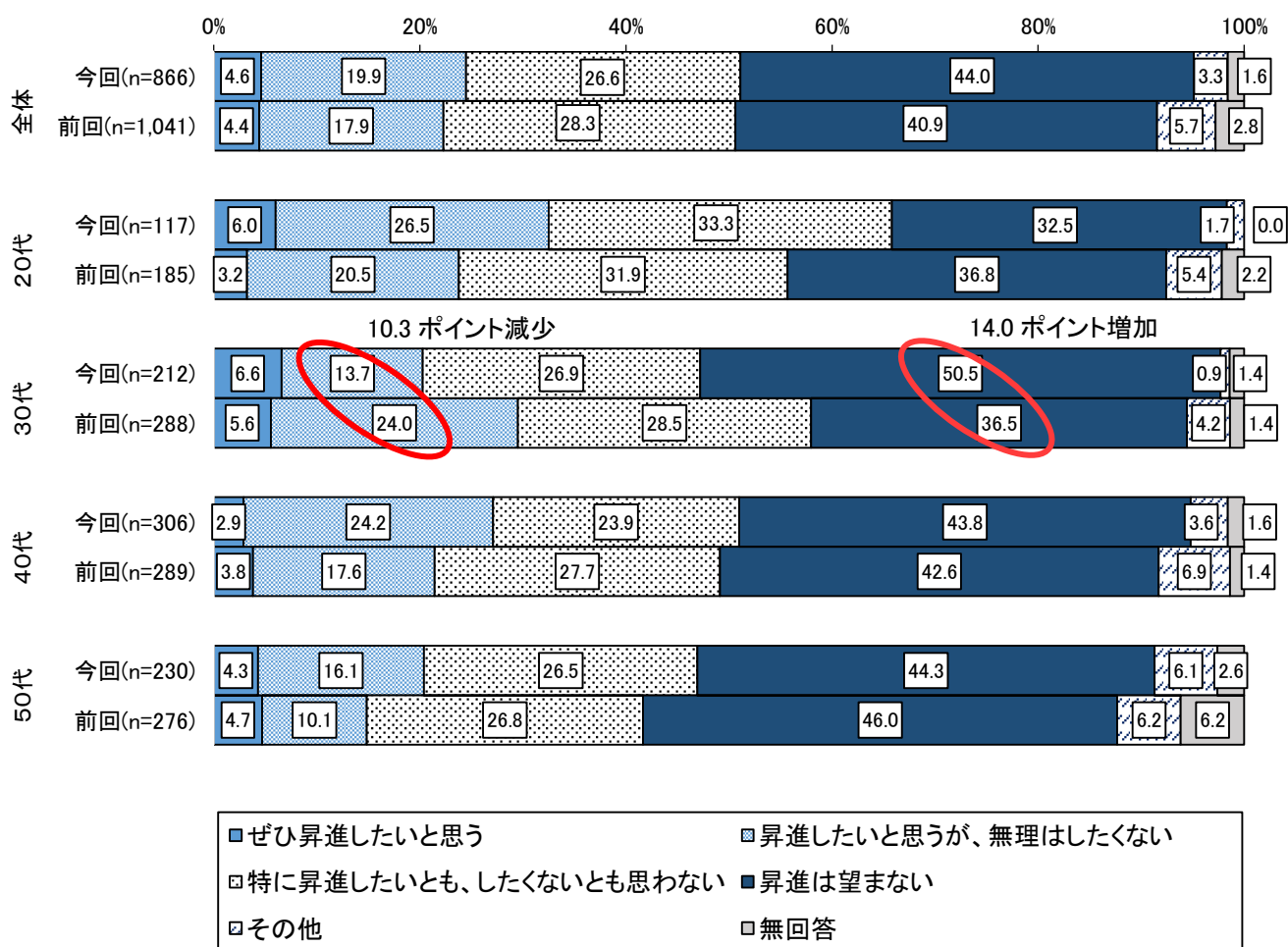
図表 3-17 管理職への登用希望(勤続年数別)



(5) 管理職への登用希望

前回調査と比較すると、30代で「昇進は望まない」(36.5%⇒50.5%)が14.0ポイント増加し、「昇進したいと思うが、無理はしたくない」(24.0%⇒13.7%)が10.3ポイント減少した。その他の年代では、大きな変化はない。【図表3-18 参照】

図表 3-18 管理職への登用希望(年代別・前回調査との比較)



(6) 管理職への登用を「望まない」理由

問 14 【問 13 で「4 昇進は望まない」を選んだ方にお伺いします】

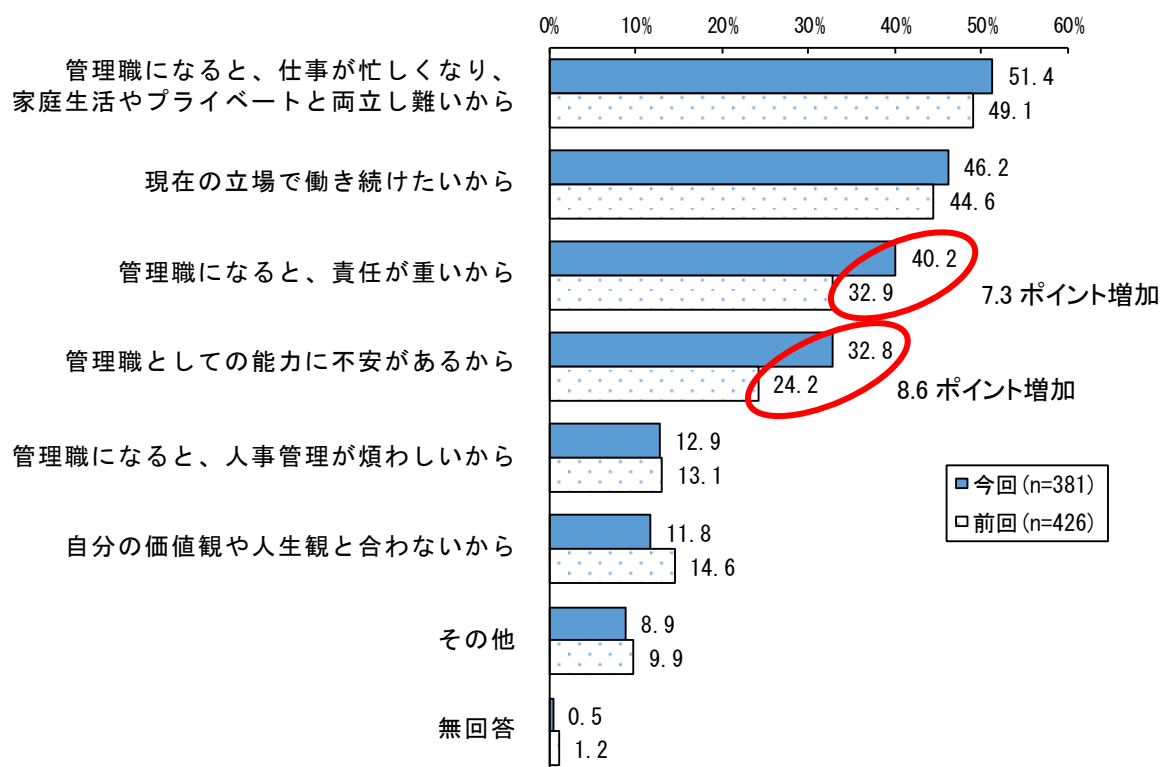
管理職への登用を望まない主な理由は何ですか。あてはまるものを3つまで選んで○をつけてください。

管理職への登用を望まない理由を尋ねたところ、「管理職になると、仕事が忙しくなり、家庭生活やプライベートと両立し難いから」(51.4%)が最も多い。続いて「現在の立場で働き続けたいから」(46.2%)、「管理職になると、責任が重いから」(40.2%)、「管理職としての能力に不安があるから」(32.8%)の順である。

前回調査と比較すると、「管理職としての能力に不安があるから」(24.2%⇒32.8%)が8.6ポイント、「管理職になると、責任が重いから」(32.9%⇒40.2%)が7.3ポイント増加した。

【図表3-19 参照】

図表 3-19 管理職への登用を「望まない」理由(前回調査との比較)



(6) 管理職への登用を「望まない」理由

年代別にみると、「20代」では「管理職としての能力に不安があるから」（47.4%）が最も多い。

「30代」「40代」では「管理職になると、仕事が忙しくなり、家庭生活やプライベートと両立し難いから」が多く、「30代」で57.9%、「40代」で56.0%である。

「50代」では「現在の立場で働き続けたいから」（60.8%）が約6割で最も多い。

前回調査と比較すると、全ての年代で、「管理職になると、責任が重いから」が増加した。具体的には、「20代」（32.4%⇒44.7%）で12.3ポイント、「40代」（28.5%⇒41.0%）で12.5ポイント増加した。

また、「20代」「50代」で、「管理職としての能力に不安があるから」（「20代」22.1%⇒47.4%、「50代」20.5%⇒35.3%）がそれぞれ25.3ポイント、14.8ポイント増加した。

【図表3-20 参照】

図表 3-20 管理職への登用を「望まない」理由（年代別・前回調査との比較）

			(%)							
			管理職としての能力に不安があるから	管理職になると、責任が重いから	自分の価値観や人生観と合わないから	現在の立場で働き続けたいから	管理職になると、仕事が忙しくなり、家庭生活やプライベートと両立し難いから	管理職になると、人事管理が煩わしいから	その他	無回答
全体	今回	(n=381)	32.8	40.2	11.8	46.2	51.4	12.9	8.9	0.5
	前回	(n=426)	24.2	32.9	14.6	44.6	49.1	13.1	9.9	1.2
20代	今回	(n=38)	47.4	44.7	18.4	36.8	42.1	15.8	10.5	-
	前回	(n=68)	22.1	32.4	23.5	30.9	44.1	5.9	16.2	2.9
30代	今回	(n=107)	33.6	39.3	10.3	39.3	57.9	12.1	12.1	-
	前回	(n=105)	24.8	37.1	19.0	37.1	48.6	15.2	10.5	1.9
40代	今回	(n=134)	26.1	41.0	12.7	43.3	56.0	10.4	9.0	1.5
	前回	(n=123)	27.6	28.5	10.6	45.5	56.9	12.2	7.3	-
50代	今回	(n=102)	35.3	38.2	9.8	60.8	42.2	15.7	4.9	-
	前回	(n=127)	20.5	33.1	10.2	58.3	43.3	16.5	7.9	0.8

* 全ての年代で 増加

(7) 仕事・転職にまつわる不安や障害

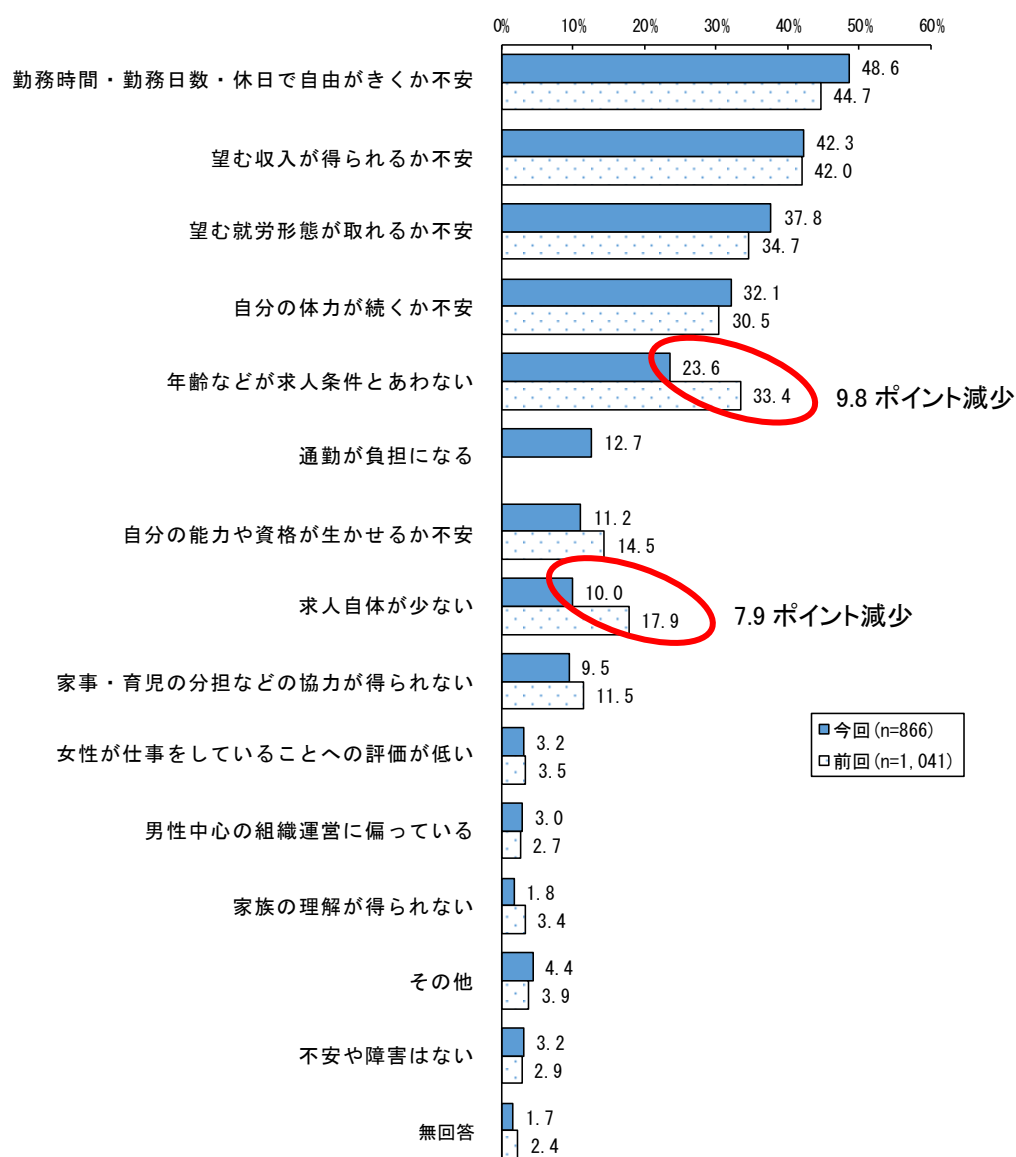
問 15 【現在、仕事に就いている方全員にお伺いします】

あなたが仕事を続ける上で、また転職を考える上で、不安や障害はどのようなことだと思いますか。あてはまるものを3つまで選んで○をつけてください。

仕事を続ける上で、また転職を考える上での不安や障害を尋ねたところ、「勤務時間・勤務日数・休日で自由がきくか不安」(48.6%)が最も多く、続いて「望む収入が得られるか不安」(42.3%)、「望む就労形態が取れるか不安」(37.8%)、「自分の体力が続くか不安」(32.1%)、「年齢などが求人条件とあわない」(23.6%)の順である。

前回調査と比較すると、「年齢などが求人条件とあわない」(33.4%⇒23.6%)が9.8ポイントポイント減少した。「求人自体が少ない」(17.9%⇒10.0%)が7.9ポイント減少した。【図表3-21 参照】

図表 3-21 仕事・転職にまつわる不安や障害(前回調査との比較)



※今回調査の新規設問項目である「通勤が負担になる」(12.7%)があるため前回調査との単純な比較はできない。

(7) 仕事・転職にまつわる不安や障害

年代別にみると、「20代」では、「望む収入が得られるか不安」(57.3%)が最も多い。続いて「勤務時間・勤務日数・休日で自由がきくか不安」(53.8%)である。

20代以外では、「勤務時間・勤務日数・休日で自由がきくか不安」が最も多く、「30代」で56.6%、「40代」で45.4%、「50代」で42.6%である。続いて、「30代」では「望む就労形態が取れるか不安」(38.7%)、「40代」では「望む収入が得られるか不安」(44.4%)、50代では「自分の体力が続くか不安」(40.9%)が多い。

前回調査と比較すると、全ての年代で、「自分の能力や資格が生かせるか不安」、「年齢などが求人条件とあわない」、「求人自体が少ない」が減少した。具体的には、「20代」で「自分の能力や資格が生かせるか不安」(23.8%⇒12.8%)が11.0ポイント減少した。「40代」「50代」で「年齢などが求人条件とあわない」(「40代」41.2%⇒30.1%、「50代」50.4%⇒32.6%)がそれぞれ11.1ポイント、17.8ポイント減少した。「20代」「30代」で「求人自体が少ない」(「20代」16.8%⇒6.0%、「30代」20.1%⇒9.4%)がそれぞれ10.8ポイント、10.7ポイント減少した。

また、「20代」で「望む就労形態が取れるか不安」(38.4%⇒48.7%)が10.3ポイント増加した。「30代」では、「望む収入が得られるか不安」(50.3%⇒38.2%)が12.1ポイント減少し、「勤務時間・勤務日数・休日で自由がきくか不安」(44.4%⇒56.6%)が12.2ポイント増加した。

【図表3-22 参照】

図表 3-22 仕事・転職にまつわる不安や障害(年代別・前回調査との比較)

			望む収入が得られるか不安	望む就労形態が取れるか不安	勤務時間・勤務日数・休日で自由がきくか不安	通勤が負担になる	家族の理解が得られない	得られない家事・育児の負担などの協力が	自分の能力や資格が生かせるか不安	自分の体力が続くか不安	年齢などが求人条件とあわない	求人自体が少ない	男性中心の組織運営に偏っている	評価が低い	女性が仕事をしていることへの	その他	不安や障害はない	無回答
全体	今回	(n=866)	42.3	37.8	48.6	12.7	1.8	9.5	11.2	32.1	23.6	10.0	3.0	3.2	4.4	3.2	1.7	
	前回	(n=1,041)	42.0	34.7	44.7	12.7	3.4	11.5	14.5	30.5	33.4	17.9	2.7	3.5	3.9	2.9	2.4	
20代	今回	(n=117)	57.3	48.7	53.8	13.7	1.7	7.7	12.8	22.2	3.4	6.0	2.6	3.4	6.0	5.1	-	
	前回	(n=185)	52.4	38.4	48.1	13.7	3.8	14.1	23.8	21.6	5.9	16.8	4.3	2.7	5.4	5.4	0.5	
30代	今回	(n=212)	38.2	38.7	56.6	12.3	0.9	17.0	11.8	25.5	15.6	9.4	0.9	5.2	6.6	3.3	2.4	
	前回	(n=288)	50.3	39.2	44.4	12.3	4.5	16.7	13.5	17.4	27.1	20.1	2.8	4.2	4.2	3.1	1.4	
40代	今回	(n=306)	44.4	36.3	45.4	13.7	1.6	9.5	11.1	34.0	30.1	9.8	4.6	2.3	3.9	2.0	1.3	
	前回	(n=289)	41.2	34.9	47.4	13.7	4.2	10.4	12.8	32.2	41.2	17.0	1.4	2.4	3.8	1.7	2.8	
50代	今回	(n=230)	35.2	33.5	42.6	11.3	3.0	3.5	10.0	40.9	32.6	13.0	3.0	2.2	2.2	3.9	2.6	
	前回	(n=276)	26.8	27.2	39.5	11.3	1.1	5.8	10.9	48.6	50.4	17.4	2.9	4.3	2.5	2.2	4.3	

*全ての年代で 減少 減少 減少

(7) 仕事・転職にまつわる不安や障害

就労形態別にみると「正規の社（職）員」「契約社（職）員（臨時・派遣含む）」では、「望む収入が得られるか不安」（順に51.5%、60.4%）が最も多い。続いて「正規の社（職）員」では、「勤務時間・勤務日数・休日で自由がきくか不安」（42.3%）、「契約社（職）員（臨時・派遣含む）」では、「望む就労形態が取れるか不安」（42.5%）である。

「パート・アルバイト」では、「勤務時間・勤務日数・休日で自由がきくか不安」（63.7%）が最も多く、続いて「望む就労形態が取れるか不安」（38.4%）が多い。

前回調査と比較すると、「正規の社（職）員」で「勤務時間・勤務日数・休日で自由がきくか不安」（32.6%⇒42.3%）が9.7ポイント増加した。

「契約社（職）員（臨時・派遣含む）」で「求人自体が少ない」（29.0%⇒14.2%）が14.8ポイント減少した。

また、「パート・アルバイト」で「年齢などが求人条件とあわない」（41.0%⇒22.1%）が18.9ポイント減少した。 【図表3-23 参照】

図表 3-23 仕事・転職にまつわる不安や障害(就労形態別・前回調査との比較)

			望む収入が得られるか不安	望む就労形態が取れるか不安	勤務時間が勤務日数・休日自由がきくか不安	通勤が負担になる	家族の理解が得られない	家事・育児の負担などの協力が得られない	自分の能力や資格が生かせるか不安	自分の体力が続くか不安	年齢などが求人条件とあわない	求人自体が少ない	男性中心の組織運営に偏っている	女性が仕事をしていることへの評価が低い	その他	不安や障害はない	無回答
全体	今回 (n=866)	42.3	37.8	48.6	12.7	1.8	9.5	11.2	32.1	23.6	10.0	3.0	3.2	4.4	3.2	1.7	
	前回 (n=1,041)	42.0	34.7	44.7		3.4	11.5	14.5	30.5	33.4	17.9	2.7	3.5	3.9	2.9	2.4	
正規の社(職)員	今回 (n=357)	51.5	37.3	42.3	14.6	2.0	8.1	14.6	30.0	22.4	7.3	5.6	4.5	5.6	3.4	0.6	
	前回 (n=356)	53.1	42.1	32.6		3.1	9.8	20.2	27.8	26.7	11.8	3.9	5.1	5.9	2.5	1.4	
契約社(職)員 (臨時・派遣を含む)	今回 (n=106)	60.4	42.5	37.7	10.4	-	4.7	11.3	32.1	35.8	14.2	1.9	0.9	3.8	0.9	-	
	前回 (n=145)	54.5	40.7	33.1		2.8	7.6	16.6	26.2	34.5	29.0	3.4	2.1	4.1	2.8	2.8	
経営者・事業者	今回 (n=8)	25.0	62.5	62.5	-	-	12.5	12.5	12.5	12.5	12.5	-	-	-	12.5	-	
	前回 (n=19)	42.1	26.3	26.3		5.3	5.3	15.8	47.4	15.8	5.3	5.3	5.3	-	10.5	5.3	
自営業・家族従業員	今回 (n=36)	38.9	27.8	25.0	5.6	5.6	13.9	13.9	55.6	22.2	-	-	2.8	5.6	-	5.6	
	前回 (n=46)	37.0	17.4	47.8		4.3	19.6	10.9	34.8	21.7	8.7	4.3	-	2.2	6.5	6.5	
自由業	今回 (n=7)	71.4	28.6	-	-	14.3	14.3	-	28.6	14.3	42.9	-	-	-	-	14.3	
	前回 (n=14)	35.7	35.7	21.4		-	7.1	21.4	28.6	7.1	14.3	-	-	7.1	7.1	7.1	
パート・アルバイト	今回 (n=331)	27.8	38.4	63.7	13.0	1.8	11.8	7.6	32.6	22.1	11.2	1.2	3.0	3.6	3.0	2.1	
	前回 (n=441)	30.6	29.5	59.4		3.9	13.2	9.1	33.8	41.0	20.6	1.4	2.9	2.3	2.0	2.5	
内職・在宅ワーク	今回 (n=9)	11.1	11.1	33.3	-	-	11.1	11.1	33.3	22.2	33.3	-	-	-	22.2	22.2	
	前回 (n=13)	23.1	23.1	53.8		-	23.1	15.4	7.7	38.5	15.4	-	-	-	15.4	-	
その他	今回 (n=12)	33.3	33.3	16.7	16.7	-	8.3	8.3	25.0	8.3	16.7	-	-	-	16.7	8.3	
	前回 (n=7)	14.3	14.3	28.6		-	28.6	28.6	28.6	42.9	28.6	-	14.3	28.6	-	-	

(7) 仕事・転職にまつわる不安や障害

子ども（末子）の成長段階別にみると、「子どもはいない」では「望む収入が得られるか不安」（53.6%）が最も多く、続いて「勤務時間・勤務日数・休日で自由がきくか不安」（39.3%）が多い。

「乳幼児（小学校就学前）」「小学生」「中学生」「高校、大学、大学院生（高専、短大、専門学校を含む）」「学校は卒業した（中退を含む）」では、「勤務時間・勤務日数・休日で自由がきくか不安」（順に65.9%、65.0%、58.1%、43.5%、43.1%）が最も多い。「高校、大学、大学院生（高専、短大、専門学校を含む）」では、「自分の体力が続くか不安」が43.5%と、「勤務時間・勤務日数・休日で自由がきくか不安」ともに同じ割合であった。

前回調査と比較すると、全ての項目で、「年齢などが求人条件とあわない」、「求人自体が少ない」は減少した。具体的には、「小学生」「中学生」「高校、大学、大学院生（高専、短大、専門学校を含む）」「学校は卒業した（中退を含む）」で「年齢などが求人条件と合わない」（順に、28.2%⇒16.0%、45.2%⇒27.4%、47.8%⇒38.1%、49.7%⇒24.5%）がそれぞれ12.2ポイント、17.8ポイント、9.7ポイント、25.2ポイント減少した。「子どもはいない」「小学生」「中学生」で「求人自体が少ない」（順に、22.1%⇒11.8%、16.4%⇒8.0%、12.3%⇒4.8%）がそれぞれ10.3ポイント、8.4ポイント、7.5ポイント減少した。

「乳幼児（小学校就学前）」で「勤務時間・勤務日数・休日で自由がきくか不安」（55.3%⇒65.9%）が10.6ポイント増加した。

また、「学校は卒業した（中退を含む）」で「自分の体力が続くか不安」（50.9%⇒38.2%）が12.7ポイント減少した。

【図表3-24 参照】

図表 3-24 仕事・転職にまつわる不安や障害(子ども(末子)の成長段階別・前回調査との比較)

(%)

			望む収入が得られるか不安	望む就労形態が取れるか不安	勤務時間・勤務日数・休日 自由がきくか不安	通勤が負担になる	家族の理解が得られない	家事・育児の負担などの協力が 得られない	不安 自分の能力や資格が生かせるか	自分の体力が続くか不安	年齢などが求人条件とあわない	求人自体が少ない	男性中心の組織運営に偏ってい る	女性が仕事をしていることへの 評価が低い	その他	不安や障害はない	無回答
全体	今回	(n=866)	42.3	37.8	48.6	12.7	1.8	9.5	11.2	32.1	23.6	10.0	3.0	3.2	4.4	3.2	1.7
	前回	(n=1,041)	42.0	34.7	44.7		3.4	11.5	14.5	30.5	33.4	17.9	2.7	3.5	3.9	2.9	2.4
子どもはいない	今回	(n=321)	53.6	38.9	39.3	12.8	1.6	5.6	14.0	30.5	22.4	11.8	5.0	4.7	4.7	3.1	0.9
	前回	(n=416)	54.8	36.8	38.9		3.4	9.4	19.7	24.3	24.5	22.1	3.4	3.8	4.8	3.4	1.2
乳幼児(小学校就学前)	今回	(n=126)	33.3	42.1	65.9	15.9	-	23.8	5.6	18.3	12.7	4.8	0.8	5.6	7.1	3.2	3.2
	前回	(n=114)	34.2	45.6	55.3		2.6	26.3	10.5	15.8	17.5	10.5	3.5	4.4	7.0	4.4	1.8
小学生	今回	(n=100)	33.0	38.0	65.0	17.0	3.0	21.0	7.0	29.0	16.0	8.0	3.0	2.0	5.0	1.0	-
	前回	(n=110)	37.3	37.3	67.3		7.3	19.1	10.9	23.6	28.2	16.4	0.9	1.8	1.8	0.9	1.8
中学生	今回	(n=62)	40.3	32.3	58.1	8.1	1.6	6.5	16.1	35.5	27.4	4.8	3.2	-	1.6	3.2	-
	前回	(n=73)	39.7	30.1	47.9		5.5	12.3	8.2	35.6	45.2	12.3	-	2.7	2.7	4.1	4.1
高校、大学、大学院生(高専、短大、専門学校を含む)	今回	(n=147)	36.7	37.4	43.5	9.5	3.4	5.4	9.5	43.5	38.1	10.9	1.4	0.7	3.4	2.0	1.4
	前回	(n=136)	33.8	28.7	43.4		3.7	10.3	13.2	38.2	47.8	17.6	4.4	0.7	0.7	2.2	1.5
学校は卒業した(中退を含む)	今回	(n=102)	36.3	32.4	43.1	9.8	1.0	1.0	10.8	38.2	24.5	14.7	1.0	2.9	2.9	7.8	5.9
	前回	(n=175)	28.6	27.4	38.9		0.6	4.0	8.0	50.9	49.7	17.1	1.7	5.1	4.0	2.3	5.1

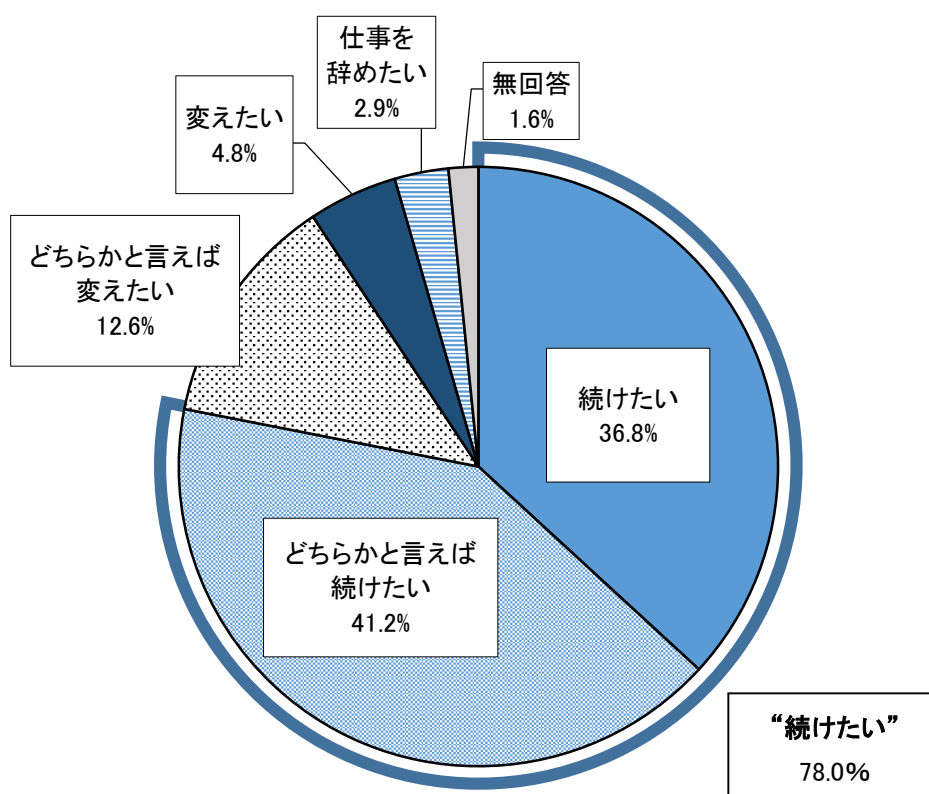
* 全ての項目で 減少 減少

(8) 現在の仕事の継続意向

問 16 あなたは、今後も、現在の仕事を続けたいと思いますか。あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

今後も現在の仕事を続けたいかどうかを尋ねると、「続けたい」(36.8%)、「どちらかと言えば続けたい」(41.2%)を合わせた“続けたい”の割合は78.0%で、8割近くの人が、現在の仕事を続けたいと回答している。【図表3-25 参照】

図表3-25 現在の仕事の継続意向(全体、n=866)



(8) 現在の仕事の継続意向

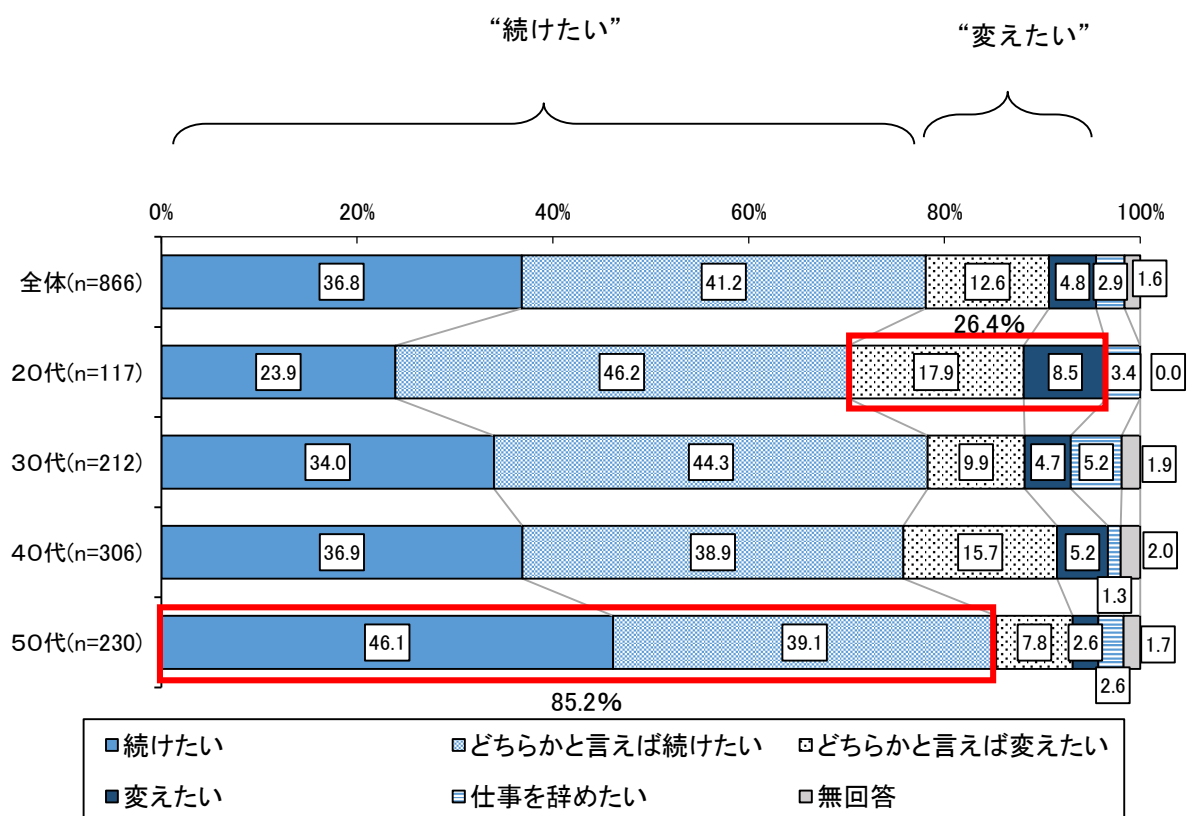
年代別にみると、年代があがるほど「続けたい」の割合が多い。

「50代」では「続けたい」と「どちらかと言えば続けたい」を合わせた“続けたい”（85.2%）が他の年代に比べると多い。

一方、「どちらかと言えば変えたい」と「変えたい」を合わせた“変えたい”は「20代」で26.4%と他の年代に比べ最も多い。

【図表3-26 参照】

図表 3-26 現在の仕事の継続意向(年代別)



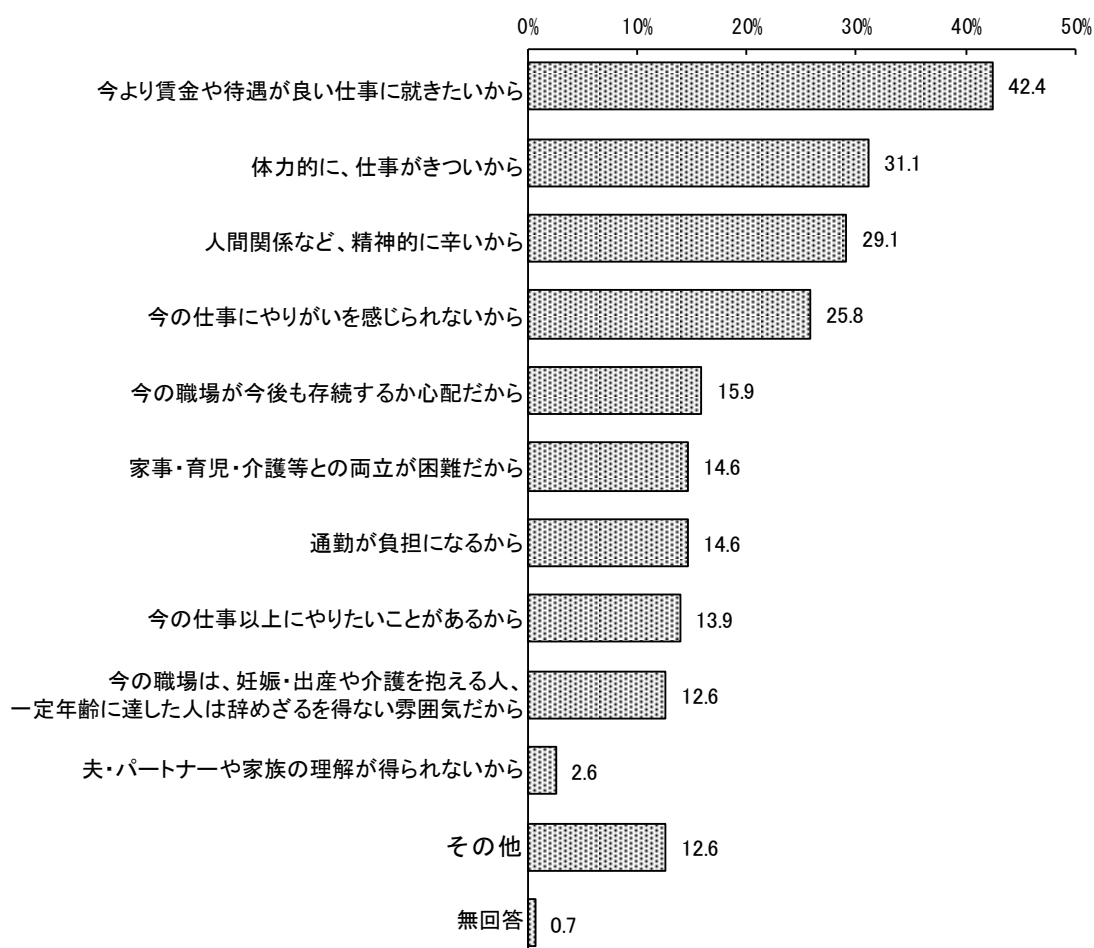
(9) 仕事を变えたい理由

問 17 【問 16 で「3 どちらかと言えば変えたい」「4 変えたい」を選んだ方にお伺いします】

仕事を变えたい理由は何ですか。最もあてはまるものを3つまで選んで○をつけてください。

仕事を变えたい理由を尋ねたところ、「今より賃金や待遇が良い仕事に就きたいから」(42.4%)が最も多い。続いて「体力的に、仕事がきついから」(31.1%)、「人間関係など、精神的に辛いから」(29.1%)の順である。【図表3-27 参照】

図表3-27 仕事を变えたい理由(n=151)



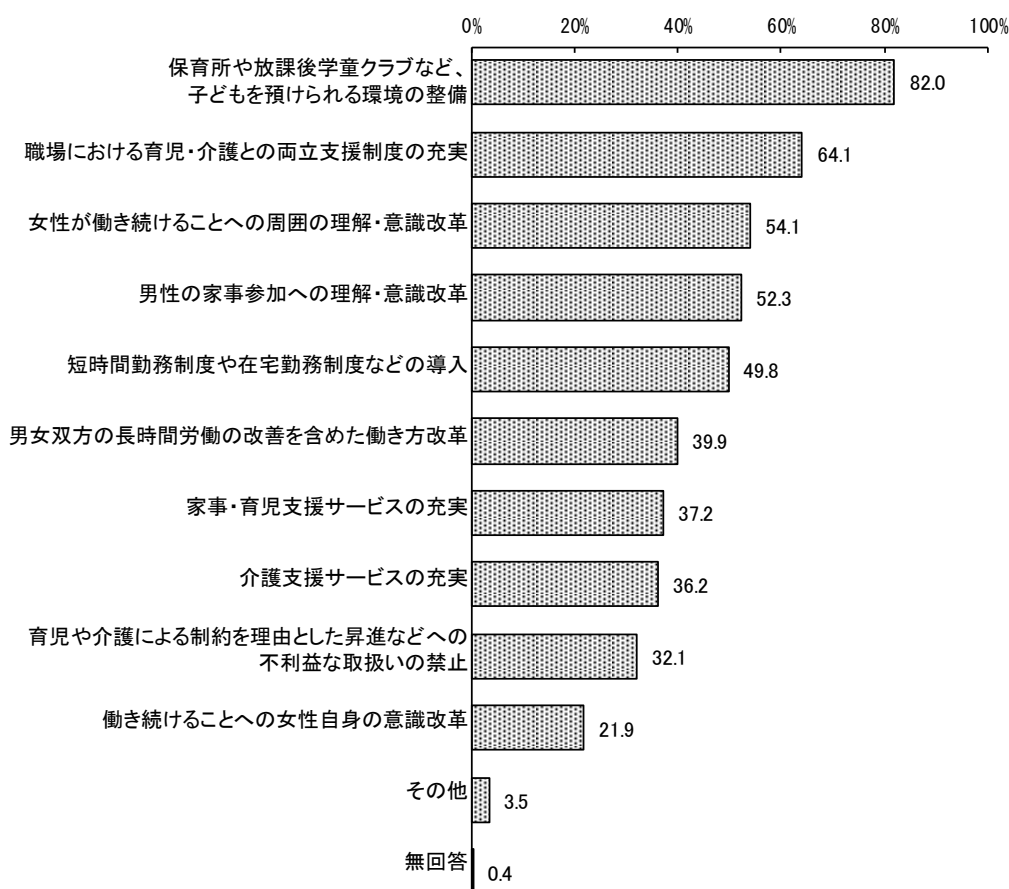
4 女性が仕事をする上で必要なこと

(1) 女性が働き続けるために必要なこと

問 18 あなたは、女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思いますか。あてはまるものをすべて選んで○をつけてください。

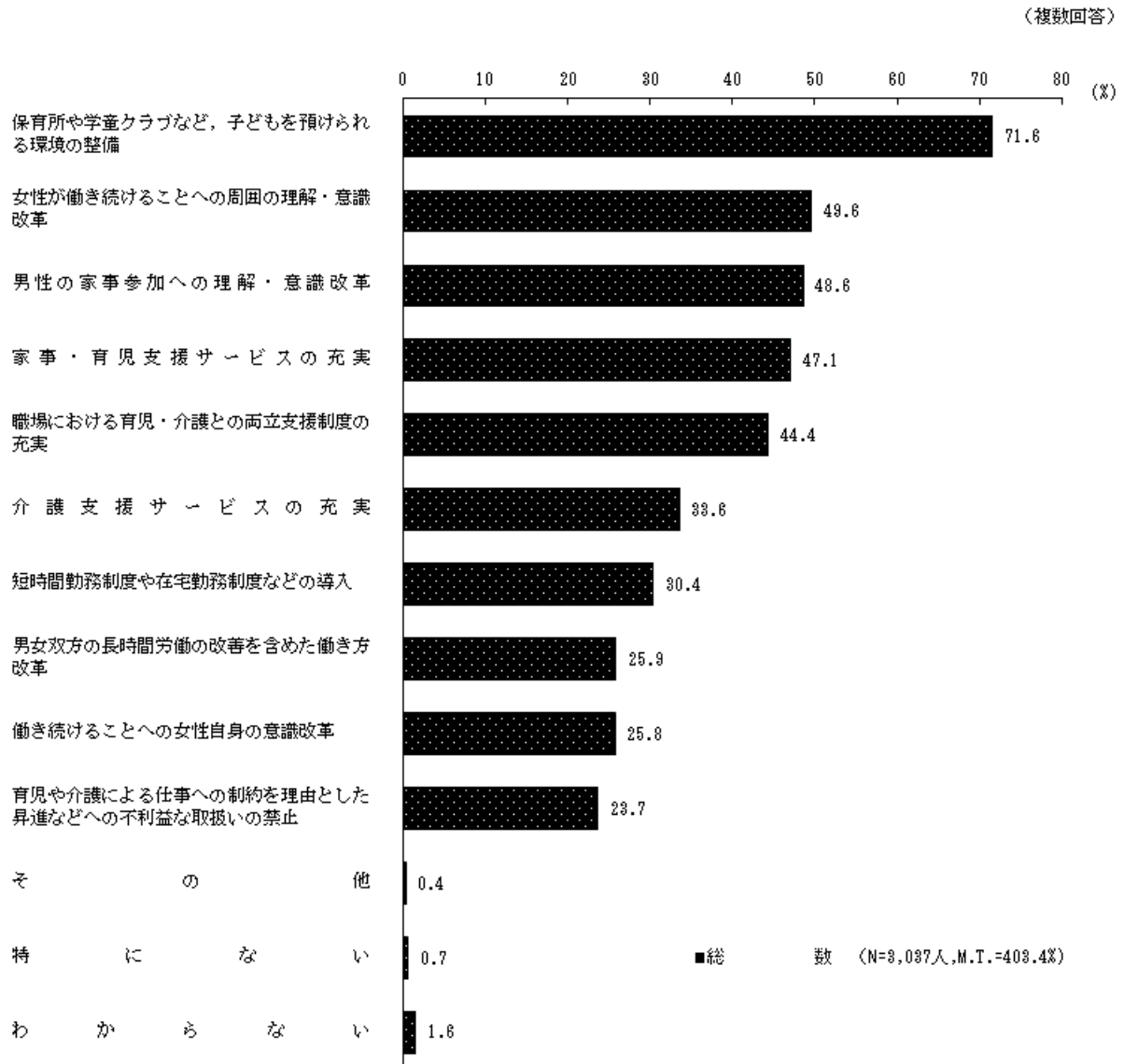
女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは何か尋ねたところ、「保育所や放課後学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」(82.0%)が最も多い。続いて「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」(64.1%)、「女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革」(54.1%)、「男性の家事参加への理解・意識改革」(52.3%)の順である。【図表4-1 参照】

図表 4-1 女性が働き続けるために必要なこと(全体、n=1,110)



【参考】平成 26 年度内閣府調査 『働き続けるために必要なこと』

図11 女性が働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことに関する意識



出典：「女性の活躍推進に関する世論調査」(内閣府)

調査対象：全国 20 歳以上の日本国籍を有する者 5,000 人

調査時期：平成 26 年 8 月

調査方法：調査員による個別面接聴取法

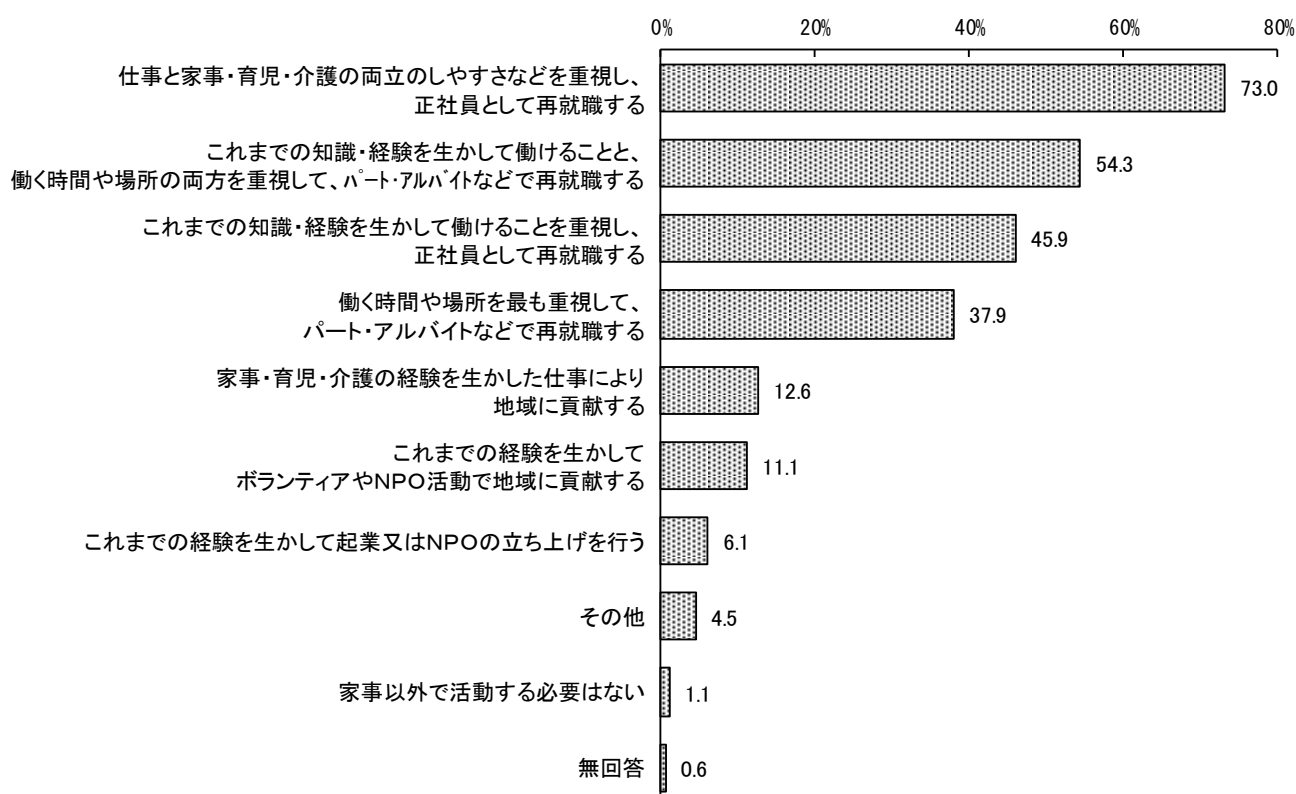
(2) 出産等で離職した女性が、再び社会で活躍する仕方

問 19 出産などで一度離職した女性が、再び社会で活動する仕方として、あなたが良いと思うものは何ですか。あてはまるものをすべて選んで○をつけてください。

出産などで一度離職した女性が、再び社会で活動する仕方として、良いと思うものは何か尋ねたところ、「仕事と家事・育児・介護の両立のしやすさなどを重視し、正社員として再就職する」(73.0%)が最も多い。続いて「これまでの知識・経験を生かして働けることと、働く時間や場所の両方を重視してパート・アルバイトなどで再就職する」(54.3%)、「これまでの知識・経験を生かして働けることを重視し、正社員として再就職する」(45.9%)、「働く時間や場所を最も重視して、パート・アルバイトなどで再就職する」(37.9%)の順である。

【図表4-2 参照】

図表 4-2 出産等で離職した女性が、再び社会で活躍する仕方(全体、n=1,110)



(2) 出産等で離職した女性が、再び社会で活躍する仕方

結婚の有無別にみると、いずれも「仕事と家事・育児・介護の両立しやすさなどを重視し、正社員として再就職する」が最も多い（「未婚」72.3%、「既婚」72.2%、「離死別」84.5%）。

続いて「未婚」「離死別」では、「これまでの知識・経験を生かして働けることを重視し、正社員として再就職する」（順に50.8%、56.3%）が多く、「既婚」では、「これまでの知識・経験を生かして働けることと、働く時間や場所の両方を重視して、パート・アルバイトなどで再就職する」（56.7%）が多い。

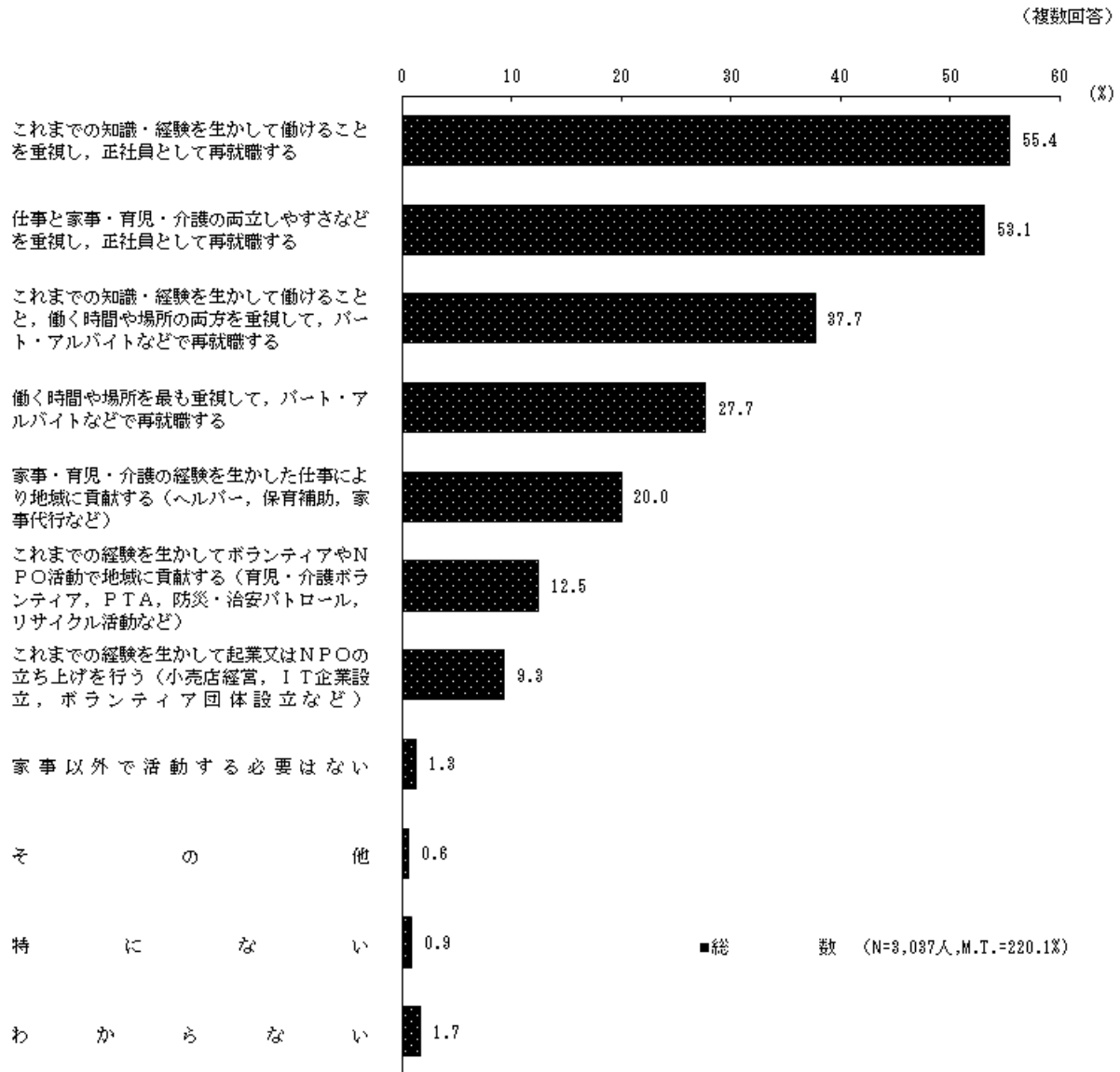
【図表4-3 参照】

図表4-3 出産等で離職した女性が、再び社会で活躍する仕方(結婚の有無別)(全体、n=1,110)

		(%)									
		正社員としての知識・経験を生かして働けることを重視し、	仕事と家事・育児・介護の両立しやすさなどを重視し、	働く時間や場所の両方を重視して、	働く時間や場所を最も重視して、	家事・育児・介護の経験を生かした仕事により地域に貢献する	NPO活動で地域に貢献する	NPOの立ち上げを行う	家事以外で活動する必要はない	その他	無回答
全体	(n=1,110)	45.9	73.0	54.3	37.9	12.6	11.1	6.1	1.1	4.5	0.6
未婚	(n=256)	50.8	72.3	50.4	31.6	10.2	7.8	4.7	0.8	5.1	0.4
既婚	(n=778)	43.4	72.2	56.7	40.5	13.4	12.3	6.3	1.3	4.6	0.8
離死別	(n=71)	56.3	84.5	40.8	31.0	11.3	9.9	8.5	-	1.4	-

【参考】平成 26 年度内閣府調査 『出産等で離職した女性が、再び社会で活躍する仕方』

図12 出産等で離職した女性が、再び家事以外で活躍する仕方



出典：「女性の活躍推進に関する世論調査」(内閣府)

調査対象：全国 20 歳以上の日本国籍を有する者 5,000 人

調査時期：平成 26 年 8 月

調査方法：調査員による個別面接聴取法

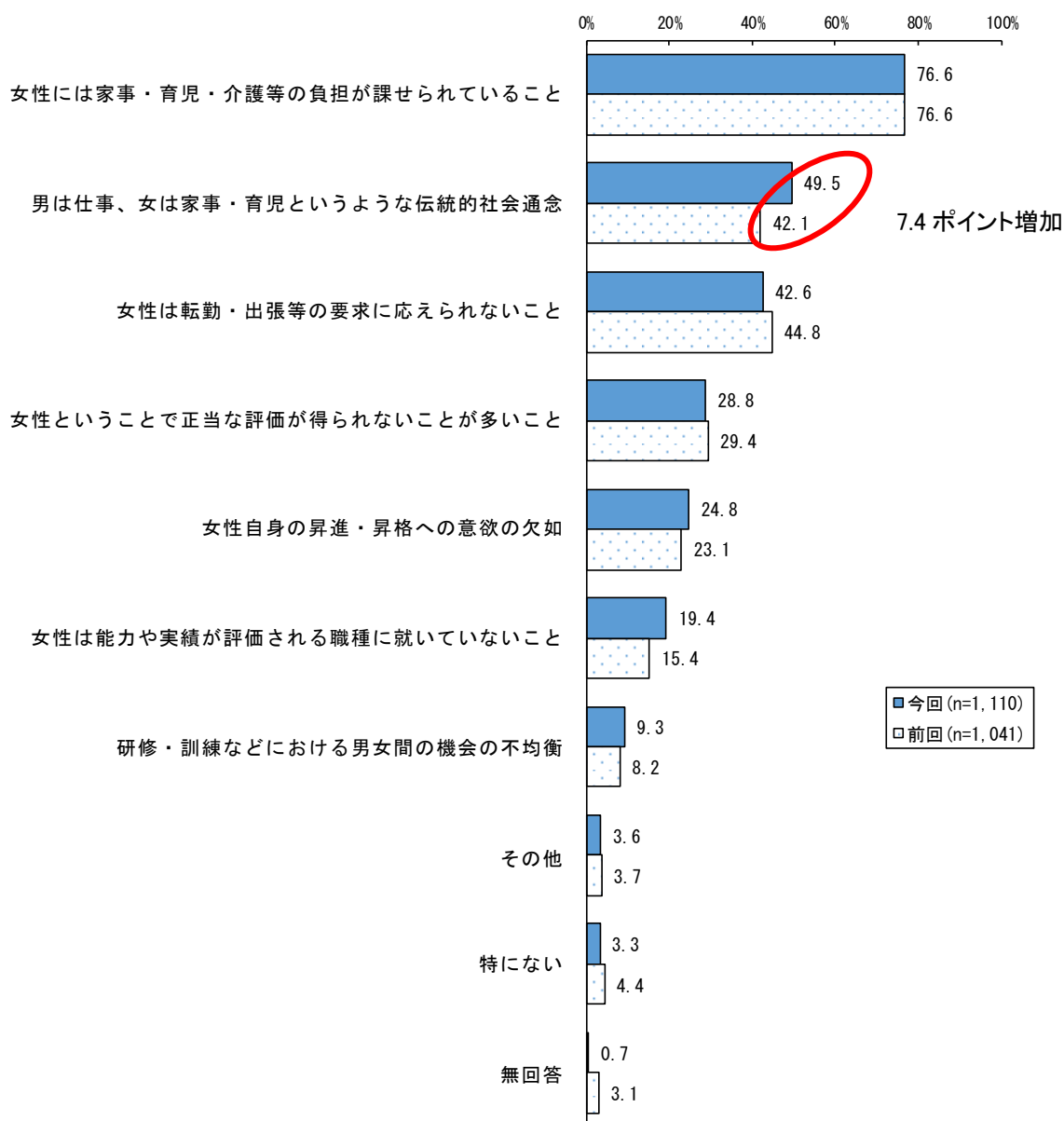
(3) 女性の昇進・昇格の障害となるもの

問 20 一般的に職場において女性の昇進・昇格の障害となっている物は何だと思えますか。あてはまるものをすべて選んで○をつけてください。

女性の昇進・昇格の障害となるものを尋ねると、「女性には家事・育児・介護等の負担が課せられていること」(76.6%)が最も多い。続いて、「男は仕事、女は家事・育児というような伝統的社会通念」(49.5%)、「女性は転勤・出張等の要求に応えられないこと」(42.6%)である。

前回調査と比較すると、「男は仕事、女は家事・育児というような伝統的社会通念」(42.1%⇒49.5%)が7.4ポイント増加した。【図表4-4 参照】

図表4-4 女性の昇進・昇格の障害となるもの(前回調査との比較)



(3) 女性の昇進・昇格の障害となるもの

年代別にみると、全ての年代で「女性には家事・育児・介護等の負担が課せられている」が最も多い（「20代」72.3%、「30代」76.9%、「40代」76.9%、「50代」77.9%）。

前回調査と比較すると、全ての年代で、「男は仕事、女は家事・育児というような伝統的社会通念」が増加した。具体的には、「20代」（43.8%⇒52.7%）で8.9ポイント、「40代」（42.2%⇒50.5%）で8.3ポイント、「50代」（37.3%⇒50.0%）で12.7ポイント増加した。

また、「20代」で「女性は転勤・出張等の要求に応えられないこと」（36.8%⇒29.7%）が7.1ポイント減少した。「50代」で「女性は能力や実績が評価される職種に就いていないこと」（13.0%⇒25.8%）が12.8ポイント増加した。 【図表4-5 参照】

図表4-5 女性の昇進・昇格の障害となるもの(年代別・前回調査との比較)

			(%)											
			職 女 性 に 就 い て い な い こ と	要 求 に 応 え ら れ な い こ と	機 会 の 不 均 衡	研 修 の 訓 練 な ど に お け る 男 女 間 の	意 欲 の 欠 如	女 性 自 身 の 昇 進 ・ 昇 格 へ の	負 担 が 課 せ ら れ て い る こ と	得 ら れ な い こ と が 多 い こ と	と 男 は し じ 業 、 女 は 家 事 ・ 育 児 と い う よ う な 伝 統 的 社 会 通 念	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全体	今回	(n=1,110)	19.4	42.6	9.3	24.8	76.6	28.8	49.5	3.6	3.3	0.7		
	前回	(n=1,041)	15.4	44.8	8.2	23.1	76.6	29.4	42.1	3.7	4.4	3.1		
20代	今回	(n=148)	12.2	29.7	7.4	25.0	72.3	24.3	52.7	3.4	4.1	0.7		
	前回	(n=185)	12.4	36.8	7.0	22.2	67.0	26.5	43.8	7.0	9.2	2.7		
30代	今回	(n=286)	16.8	40.6	6.6	23.1	76.9	25.2	46.2	4.5	4.2	1.0		
	前回	(n=288)	18.4	37.5	6.6	21.2	78.1	27.4	45.5	4.5	3.5	2.4		
40代	今回	(n=376)	18.9	46.0	9.8	26.3	76.9	30.3	50.5	2.9	2.9	1.1		
	前回	(n=289)	16.6	52.6	8.3	23.5	83.4	33.2	42.2	4.2	2.1	0.3		
50代	今回	(n=298)	25.8	46.3	12.1	24.2	77.9	32.2	50.0	3.7	2.7	-		
	前回	(n=276)	13.0	49.3	10.5	24.6	74.3	29.0	37.3	0.4	4.7	6.9		

* 全ての年代で 増加

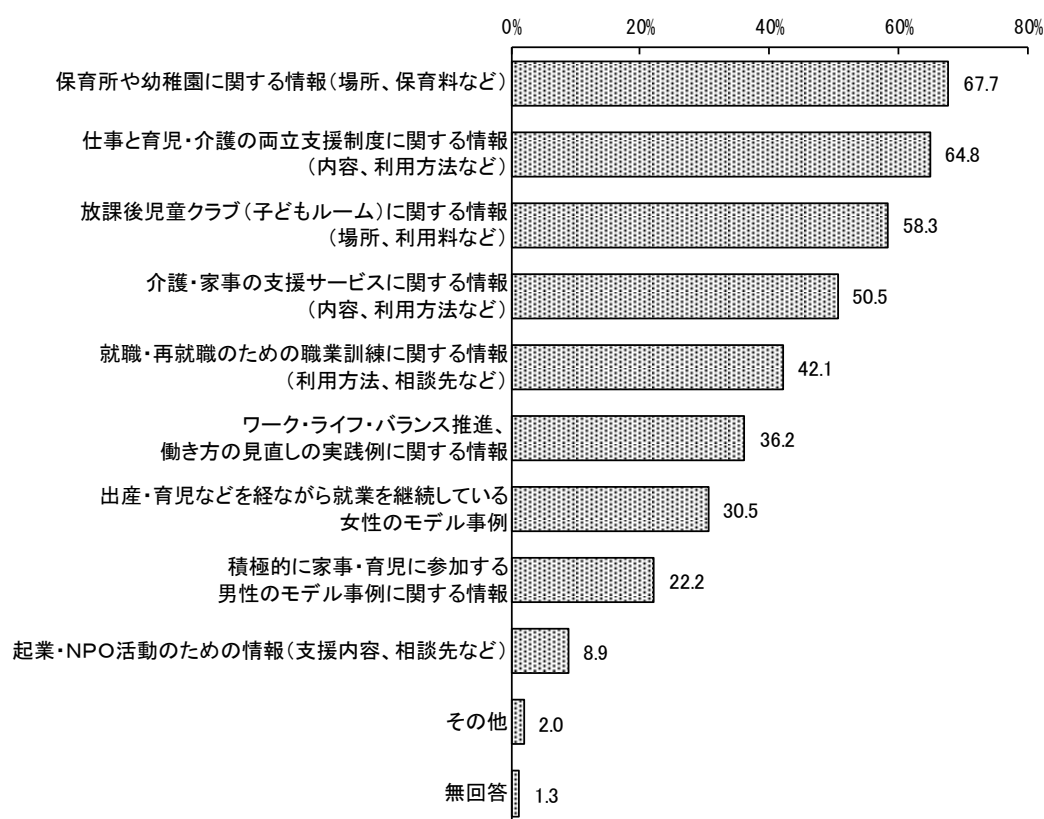
(4) 女性の活躍推進の取組みに関する情報のうち、特に必要な情報

問 21 あなたは、女性の活躍推進の取組みに関する情報のうち、どの情報が特に必要になると思いますか。あてはまるものをすべて選んで○をつけてください。

女性の活躍推進の取組みに関する情報のうち、特に必要な情報を尋ねたところ、「保育所や幼稚園に関する情報（場所、保育料など）」（67.7%）が最も多く、続いて「仕事と育児・介護との両立支援制度に関する情報（内容、利用方法など）」（64.8%）、「放課後児童クラブ（子どもルーム）に関する情報（場所、利用料など）」（58.3%）の順である。

【図表4-6 参照】

図表4-6 女性の活躍推進の取組みに関する情報のうち、特に必要な情報(全体、n=1,110)



(4) 女性の活躍推進の取組みに関する情報のうち、特に必要な情報

子ども(末子)の成長段階別にみると、「子どもはいない」「乳幼児(小学校就学前)」では、「保育所や幼稚園に関する情報(場所、保育料など)」(順に69.8%、83.3%)が最も多い。続いて「子どもはいない」では、「仕事と育児・介護との両立支援制度に関する情報(内容、利用方法など)」(66.1%)、「乳幼児(小学校就学前)」では、「放課後児童クラブ(子どもルーム)に関する情報(場所、利用料など)」(75.0%)である。

「小学生」では、「放課後児童クラブ(子どもルーム)に関する情報(場所、利用料など)」(61.5%)が最も多く、続いて「仕事と育児・介護との両立支援制度に関する情報(内容、利用方法など)」(60.0%)が多い。

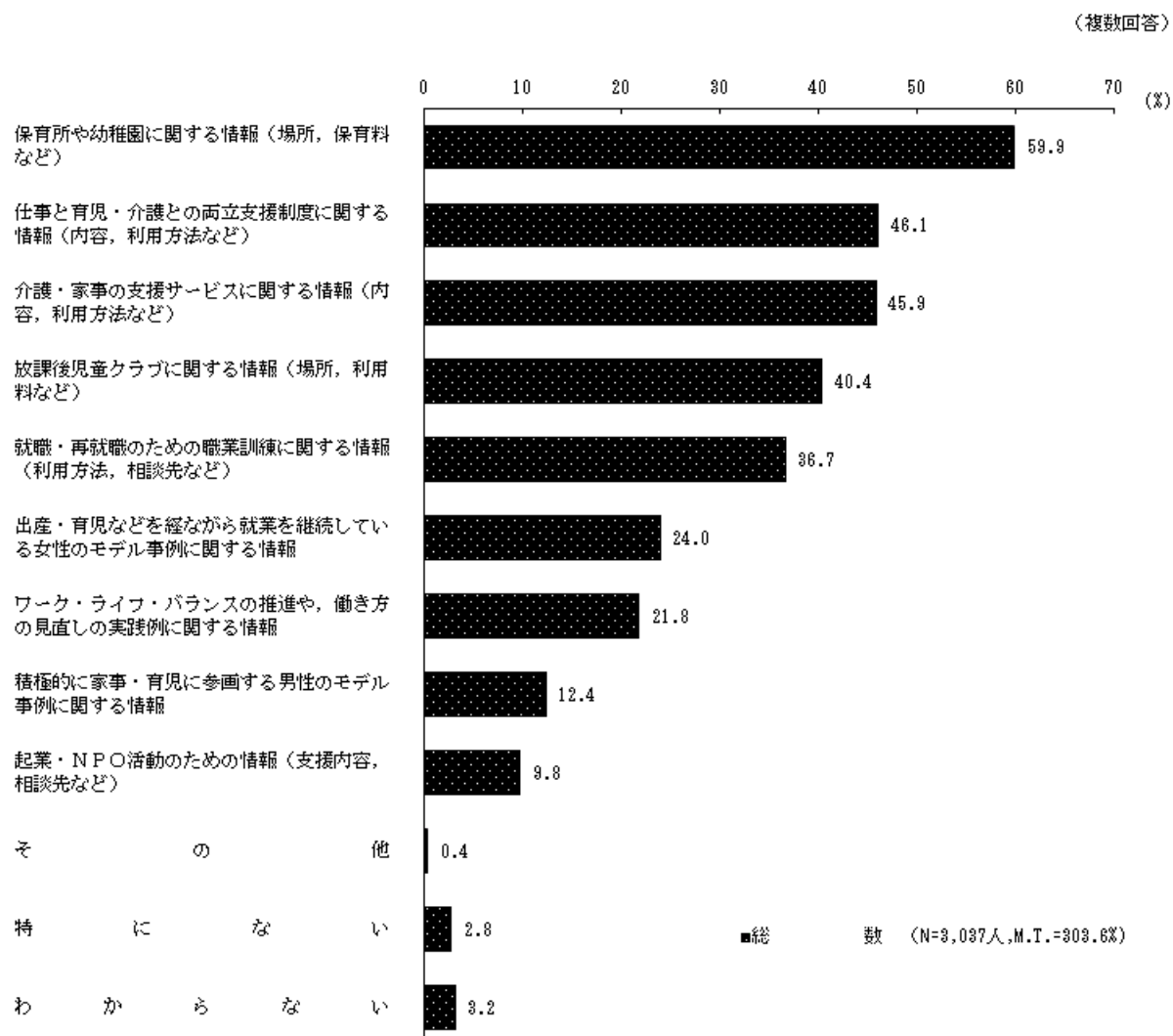
「中学生」「高校、大学、大学院生(高専、短大、専門学校を含む)」「学校は卒業した(中退を含む)」では、「仕事と育児・介護の両立支援制度に関する情報(内容、利用方法など)」(順に66.7%、67.4%、64.2%)が最も多い。 【図表4-7 参照】

図表 4-7 女性の活躍推進の取組みに関する情報のうち、特に必要な情報(子ども(末子)の成長段階別)

		(%)																
		(場所、保育料などに関する情報)	放課後児童クラブ(子どもルーム)に関する情報	報(内容、利用方法など)に関する情報	介(内容、利用方法など)に関する情報	関(内容、利用方法など)に関する情報	就(内容、利用方法など)に関する情報	(支援内容、相談先など)に関する情報	起(内容、利用方法など)に関する情報	関(内容、利用方法など)に関する情報	仕(内容、利用方法など)に関する情報	継(内容、利用方法など)に関する情報	出(内容、利用方法など)に関する情報	積(内容、利用方法など)に関する情報	働(内容、利用方法など)に関する情報	ワ(内容、利用方法など)に関する情報	その他	無回答
全体		(n=1,110)	67.7	58.3	50.5	42.1	8.9	64.8	30.5	22.2	36.2	2.0	1.3					
子ども(末子)の成長段階	子どもはいない	(n=381)	69.8	49.9	55.4	45.4	9.4	66.1	33.1	23.6	38.3	1.3	1.8					
	乳幼児(小学校就学前)	(n=204)	83.3	75.0	36.3	33.8	5.9	61.8	38.2	22.5	31.9	2.9	1.0					
	小学生	(n=130)	56.9	61.5	38.5	30.8	8.5	60.0	29.2	21.5	36.2	3.8	1.5					
	中学生	(n=75)	62.7	61.3	48.0	42.7	10.7	66.7	28.0	30.7	41.3	1.3	-					
	高校、大学、大学院生(高専、短大、専門学校を含む)	(n=172)	59.9	56.4	57.0	46.5	8.1	67.4	22.7	15.7	36.0	2.3	1.2					
	学校は卒業した(中退を含む)	(n=137)	59.9	54.0	60.6	48.9	10.2	64.2	23.4	21.2	33.6	0.7	0.7					

【参考】平成26年度内閣府調査 『女性の活躍推進に関する情報のうち、特に必要な情報』

図15 女性の活躍推進に関する情報のうち、特に必要な情報



出典：「女性の活躍推進に関する世論調査」(内閣府)

調査対象：全国 20 歳以上の日本国籍を有する者 5,000 人

調査時期：平成 26 年 8 月

調査方法：調査員による個別面接聴取法

<自由意見>

女性の就労に対する意見について寄せられた自由意見から、年代別に掲載する。

注：（ ）内は、就労形態を示している。

(1) 20代

- ・ 今、育休中で仕事はしていませんが、4月から復帰予定です。子育てと仕事との両立は不安がいっぱいです。また、保育園もいっぱいという話ばかりで不安です。せめて安心して預けられる保育園がたくさんあればなあと思ってしまいます。（正規の社(職)員）
- ・ どんなに保育所や子どもルームの整備が進んだとしても、会社の理解がなければ、女性は妊娠・出産を期に仕事をやめなければならない現状が多く見受けられる。産後あけ、すぐの求職活動は負担が大きい。まして保育所入所は困難。妊娠、出産を理由に退職せずすむ環境または産後あけでも働ける環境の整備が必要なのではないかと思う。（正規の社(職)員）
- ・ 男女ともに、時間外勤務を減らし、時間内に成果をあげられるよう努力することと、転勤などが出来なくても、男性同様とは言わないまでも、ある程度昇進できるようにしくみを作って欲しい。（正規の社(職)員）
- ・ 女性が男性と全く同じように働くことは結婚や出産、育児をしていることを考えれば難しいし、全く同じように働くことが平等とは思いません。特に妊娠は女性にしかできないことでそれによって仕事をやめなければいけなかったり、ブランクができてしまうので、その点をカバーしつつ、女性も働けて、同僚の男性の理解も得られるようになるのが一番良いと思います。今の勤務状況は女性の負担が大きいと思います。（正規の社(職)員）
- ・ 女性が、結婚・出産した後も働き続けられる場が増えていくべきだと思います。（短時間就労、在宅など雇用形態の多様化）（正規の社(職)員）
- ・ 男性でも社員にしてもらいにくい中、女性は就業時間が限られる為、社員になるのは難しい。保険や税金、保育料（5万～7万）の支払いが増えるので扶養内で働いていればいいという考え。（経営者・事業者）
- ・ 女性が男性と同じように働くというよりも、女性と男性が同じように働き、同じように家事、育児をする社会が理想。専業主婦やパートでも良いと思うが、出産後も以前と変わらず正社員として働きたいと望む人が困難なく働けると良いなと思う。（パート・アルバイト）
- ・ 男性だけでなく、独身の女性からの理解が得られないと出産後の社会復帰はむずかしいと思います（自分自身、独身時、時短の方への理解があまりない方でした）。小学生も保育園の一時保育みたいな制度があると助かると思います。（内職・在宅ワーク）
- ・ 男性も育児や家事に協力して女性だけに負担がかかりすぎないようにしていくことが必要。男性の育休取得率も低い。（就労していない）
- ・ 今、セクハラやパワハラなどで、女性の立場などが問題になっているが、逆に男性がされている所を、何度も見てきました。私自身、女性ではありますが、女性ばかりが被害者の社会も、変えていくべきだと思います。（就労していない）

- ・特に子供がまだ小さいうちはなかなか働けず、ある程度落ちついてからになってしまふ。女性ばかりが家事・育児が当たり前にならないように男性の育児休暇の取得をもっと増やすべき。それによりおたがい育児の大変さも分かるし女性が働きやすくなると思う。女性も男性も働く事は同じだから。(就労していない)
- ・妊娠した事を伝えた時点で、まわりに迷惑、負担がかかるからと言われた。出産前のお腹が大きい時も大変だが、つわりの時期が一番大変だった。仕事も子供も両方選べる環境を増やして欲しい。(就労していない)

(2) 30代

- ・私は今後も正社員で働きたいと思っていますが、昇進を特に望んでいません。社会とつながってほしいですが、家庭も大切にしたいからです。なので子供を産んで育てていくのを安心してでき、親の介護が必要になったときも安心して仕事が続けられる社会制度の充実を願います。(正規の社(職)員)
- ・子供手当とか、一時のお金ではなく、女性が安定して働けるよう、保育所の充実や、医療機関とも連携して風邪気味の子供も預かってくれるようにしてほしい。女性が正社員として働き続けることを考えてほしい。仕事と子育てが両立できる環境になれば、上をめざしたい昇進したいと思う。また1人だけではなく2人目も産みやすい環境づくりも整えてほしい。(正規の社(職)員)
- ・自分の会社では、近々給与体系の改定が行われる予定で、現在労使交渉中ですが、その内容には育児時短勤務の社員に非常に大きな減額となる要素が含まれています。限られた時間の中で正社員として責任ある仕事をこなしているにもかかわらず、そのようなことはおかしいと思っています。育児をしながらも働きつづけるモチベーション維持のためと、実際に保育などに費やすお金も決して少なくない中、時短の正社員にも十分配慮した給与形態というものが、大切だと思えます。(正規の社(職)員)
- ・現在妊娠中で、来年から2年ほど、育休産休をとる予定です。育休は最長3年位とれるとのことですが、できれば早目に職場復帰したいと考えています。しかし、どの保育園も調べてみると空きがない状況、今から不安がつのります。「働きたい」という気持ちがあるものの、環境、設備が整っていないと、どうしようもないのだな、と思いました。(正規の社(職)員)
- ・私は現在、介護施設で働いており、妊娠中です。8時間労働が難しく、上司に相談して勤務時間と日数を短くしてもらっています。職場自体のスタッフ数が十分とは言えず、同僚に更に負担がかかっていますが、皆大変協力的で、今のところ体の負担なく勤務出来ています。多忙な環境でも、妊娠・出産・育児・介護等が無理なく出来るのは、周囲の理解が本当に大切だと痛感し、制度があっても周囲の理解と協力がなければ働き続ける事は難しいと実感しました。また、職場の上司が女性だったという点も理解が得られやすかった事に繋がったのではないかと思います。妊娠・出産を経験する女性のみならず、育児や介護にあたる人が働きやすい制度がもっと整い、働きやすい事が当たり前になるような世の中になってほしいと思います。(正規の社(職)員)
- ・女性が働くことを推進しているのに、子供が生まれたり、なかなか復帰出来ない。少子化なのに、子ども生む環境も、育てる環境も女性には不利な事ばかり。働けないから経済的にも2人目が難しい。保育園に入れなかったり、1歳児を預けるのがかわいそう。もう少し、育児休暇が長ければ…。(正規の社(職)員)
- ・子育てをしながら就労していますが、なかなか職場の理解が得られません。さらに時間外業務短縮のため、だいたいサービス残業です。核家族のため子育てに限界があり数年の間には転職を避けられない状況です。「女性が働きやすい職場」の制度が充実され企業に対し必須とし今より良い環境になることを願っています。(正規の社(職)員)

- ・ 子育て中の同僚のフォローはほとんど同僚でカバーしており不公平感がある。会社や社会にも負担してほしい。（正規の社(職)員）
- ・ 家事労働や地域活動等、収入に直結しない活動も「働くこと」であると考えます。個人の資質によるので、必ずしも「外で働く」ことが良いことでもないと思います（男女共に）。家族、地域社会それぞれの単位で、「お金を稼ぐ人」「それを支える人」「保護や支援を受ける人」の役割分担がうまく行けば良いと思います。（正規の社(職)員）
- ・ 私自身、出産後に職場復帰した際、元いた部署には戻れず、また役職を降格させられた経験があり、出産・育児などを経ながら就業する事はまだまだ厳しい社会だな…と痛感しました。女性が活躍する場や機会を多く設けるには様々なサポートが必要だと思います。（正規の社(職)員）
- ・ 保育園のうちは、7時から20時まで、子どもを任せることができるが、小学生になると学童の時間は短く、通勤時間を考えると現在の職場での仕事を続けることが困難になる。千葉では都内まで通勤している人も多いと思うので、学童保育の時間拡大を望む人も多いのではないかと思う。女性が男性と同等に仕事を続けていくには、育児への支援が不可欠だと思う。（正規の社(職)員）
- ・ 保育所は充実してきたと思うが、その後小学校入学後の子供ルーム、PTA役員（強制）など、子供が大きくなってからも働き続けられる環境づくりが必要だと思います。（正規の社(職)員）
- ・ 子供がいると、働くことが自分の為でなく、家族のために変わる気がします。その時、子供とのキズナを保ちつつ、働ける環境って今は、残念ながら、少ないと思います。仕事を続けたいけど、保育園、小学校（放課後）のカベで退職せざるをえない人が多いのが、残念です。女性としてではなく、人として働く（社会と関わる）ことは大切だと思います。男女差別と言う方もいるかもしれませんが、女性（心、体）、母親、妻とたくさん兼務する女性は、もっとサポートが必要！（正規の社(職)員）
- ・ 母子家庭で、生活の為、子供という時間がないほど働いているのに、収入があるからと、控除が受けられないのは不公平だと思う。（正規の社(職)員）
- ・ 女性が子どもを持って働き続けるには、まだまだ職場の理解が進んでいないのが現状です。私も祖父母の助けなしには、仕事を続ける事は考えられなかったと思います。特に育児休暇あけの1年は特に子どもの病気で休む事や早退する事が多く、その事について周囲の理解と協力が得られるようになると思います。女性で仕事を続ける人が増え、男女ともにワークシェアして（企業の努力を願います。）お互い働きやすい世の中になるといいと思います。（正規の社(職)員）
- ・ 保育士として働き始めて十数年になります。勤め始めた頃は18時までお預かりする子は両手で数えられる程度の人数だったのに、今では20時までお預かりする子が両手で数えきれない人数になってしまいました。それだけ、女性の社会進出が進んだのだと思います。そんなお母さん方のサポートをしていくのは保育士としての大切な役目ですが、保育士としては、どうしても子ども達の立場で考えてしまいます。慌ただしい毎日の中で、「早く、早く」とせかされる場面も少なくないでしょうし、大人の顔色をうかがう子どもも増えているのではないのでしょうか…。母親自身の気持ちのゆとりが子ども達の豊かな心身の発達には不可欠です。子どもと話をしたり、スキンシップをとれる時間が5分でも多くなしてほしい。頑張るお母さん達が後ろめたい気持ちを持つ事がない様な懐の大きな社会になってほしいです。子ども達の未来の為に…。（正規の社(職)員）

- ・ 正社員であってもなかなか給与が上がらない中、夫婦（女性）が働く必要性は高いと感じる。しかし、出産・育児を経ると、身体が万全な状態に戻るとは言いきれず、負担ばかりが重くなってしまいう気がする。正社員だから、パートだから等立場に引け目を感じる必要はなくそれぞれの状況に適した働き方を選べば良いし、その違いに優劣をつける社会であってはいけないと思う。（正規の社(職)員）
- ・ 育児や介護の支援サービス、代行など、働く女性をサポートするシステムを整える必要があると思います。地域、市区町村レベルで、密着してやっていただけると良いと思います。（正規の社(職)員）
- ・ 中小企業での女性の子育てを応援するような制度をきちっと作ってほしい。産みたくても産みづらい状況を変えてほしい。（正規の社(職)員）
- ・ 育休明けの復帰で、短時間勤務制度を使う際、周囲の理解度、温度差など障害となるものが多いのが現実。どの企業でも使い易くなることを望みます。（正規の社(職)員）
- ・ 仕事と家事・育児の両立について、女性の社会進出をかなえる為には、家事・育児の負担を軽減させることが必要と感じます。男性が「手伝う」では足りない。自分の「仕事」と認識することが必要。（正規の社(職)員）
- ・ 11月に出産予定です。いろいろな方々からご意見いただくのですが、女は家事・育児という社会通念がまだまだ強いように感じられます（特に年配の方々の世代で）。その人それぞれの意志を尊重し、働ける環境をまわりでサポートしてあげることが、女性が働き続けられる条件ではないかと思います。特に夫のサポートはかせないことでしょう。（自由業）
- ・ 子育てしながら働いている人は、同じ立場で考えてもらえるが、子供がいなかったり、独身者には、仕事と育児の両立の大変さは、理解するのは難しいと思うが、独身者にも理解してもらえ、働きやすい職場づくりが必要。男性の方の理解も。（パート・アルバイト）
- ・ 女性が正職員として働けるのは、夫や祖父母の協力がある家庭だけです。協力が得られない家庭（夫が多忙や両親が遠方）のためにもベビーシッター制度（安全な）や病児保育制度を充実させてもらいたいです。よろしくお願いします。（パート・アルバイト）
- ・ 私の場合、どうしても扶養範囲内という事がひっかかります。もっと条件を色々選択できるといいと思います。たくさん働きたいけど、税金等考えるとどっちが得なのか…知識不足もありますが、主婦が活躍できる場が増えることを願います。（パート・アルバイト）
- ・ 出産・育児・介護はまず女性がやって当たり前、だから平等に仕事を得ることができないという現状があります。それらの経験によって得られることはかけがえがないし、人間をより成長させてくれます。男性も同じように育児、介護をし、成長していくこと、そして同じような待遇で仕事をすることが必要です。そうすることで次世代を担う大切な子供達をより産む機会が増えると思います。（パート・アルバイト）
- ・ 将来の我々をささえる子供達を必死に育てているが、職場の女性は、結婚もせず子供なしの人が多。その中で、会社が忙しい中、子供が体調不良で欠勤・早退をせざるをえないこのかたみのせま。パートなのに、子供、家庭優先しづらい環境。子供に手がからなくなってから仕事をしたいが、その時は、自分も年をとり、仕事を選べなくなる。子育てが、どれだけ社会貢献度が高いか、世間に、もっと、浸透させてほしい。（パート・アルバイト）

- ・ 家事・育児と仕事を両立して働けるところがもっとあるといいと思います。幼稚園に預けている時間だけでもパート大歓迎な職場がもっとあるといいなと思っています。
(パート・アルバイト)
- ・ 現在完治は難しいが、難病認定等は全くされていない病気にかかり、通院治療をしている。職を探したり、それを続けたりしていく上で、それによる不利益を考慮して公表していない。病気を持っていて、何の認定もされていない人でも働きやすい環境を整えてほしいと思います。働きづらさを覚えている人(女性に限らずですが)は、理由が育児、介護だけが注目されているが、それだけではないと思います。(パート・アルバイト)
- ・ 小学生を預かってもらえる短期の子どもルームの開設をお願いしたいと思います。1ヶ月単位では経済的負担が多いと思います。パートで働いている女性の声も聞いてほしいと思います。(パート・アルバイト)
- ・ 知識や経験を生かし仕事を続けたいと思う気持ちと、子や親を思い少しでも時間を共にしたいという気持ち、天秤にかける事は難しい。(その他)
- ・ 結婚を控えています。共働き必須の状況です。現在派遣なので、出産することになったら、出産後、仕事に就けるかどうか不安です。(契約社(職)員(臨時・派遣を含む))
- ・ 出産、子育て中もバリバリ働きたい人、家にいたい人、それは人それぞれ。それは男性も状況・立場が違うだけで同じだと思います。どちらを選んでも男性の理解が改善されないと、どんなにいろんな制度をつくっても女性が嫌な思いをしたり、パワハラにあったりするだけだと思います。制度をつくるのと同時に男性にもっと意識改革を求めます。(内職・在宅ワーク)
- ・ 私は子どもをもつことを望んでおり、不妊治療をしています。不妊治療をしながら働ける環境、妊娠を希望している女性ももっと積極的に採用してもらいたいです。(内職・在宅ワーク)
- ・ 子供の体調不良で仕事を休んだりしても、周りの人に嫌な顔されないような社会になってほしい。子供のために休むのはあたり前だよ！って言ってくれる職場じゃないと、やっていけない。(就労していない)
- ・ 私も働きたいです。しかし、アスペルガーの子供がいます。そのため、急に不登校になったり、パニックをおこしたりするので、自分の安定した時間がもてず、働いていません。主人も休日出勤や残業が多いので、やはり、主人のいる間の時間だけ働くというのも難しいです。女性が働いて、子供を育てる事は、とても大変であると思います。特に家事・育児・介護は、外注に出せば高額な料金が発生しますが主婦は無給です。主婦も立派な職業と認めてほしいです。(就労していない)
- ・ 日本は正社員、パートなど雇用形態に限らず、子どもが急に病気になったり、けがをして呼び出しがあった場合に迎えに行く為に早退したいと申し出にくい雰囲気。保育士をしていた時に電話した母親たちが困っている姿を何度も見かけた。子どもがいる人がそういう時に気兼ねなく早退できる雰囲気や制度があればもっと働く女性も増えるのではないかと思う。(就労していない)
- ・ 私は子供のいない専業主婦ですが、病気のため働くことができません。子供も産めません。「いつか働きたい」と答えましたが、その「いつか」がいつになるのか、もしかしたら一生働けないかもわかりません。私のような女性も存在することを理解していただきたい。(就労していない)

- ・ 女性の“働くこと”はとても大切だと思います。ただ、やはり、二人目、三人目も産みたいと思えるような状態になって欲しいです。仕事に復帰することで、二人目を作る機会をのがしてしまったことを少し後悔しています。「産み育て働く」がすんなりとできるような社会になると良いですね。（就労していない）

(3) 40代

- ・ 女性、男性の区別なく、全ての人は生涯働きつづけることを前提として、社会制度を考え、つくっていくべきだと思う。（正規の社(職)員）
- ・ 家事も労働です。男女問わず、誰かのために労力や時間を使うことが仕事だと思っています。（正規の社(職)員）
- ・ 女性の管理職の割合に数値目標を設定していくようですが、一般的に女性は管理職になりたいのではなく、仕事と家庭を無理なく両立し、安定して働くことの方を重視していると思います。短時間正社員の制度や、再雇用の制度に力を注いだ方が良いと思います。（正規の社(職)員）
- ・ 病後児保育の充実も必要だと思います。働きたい人が働くためには、子育て中の人は、保育所、学童保育の充実が必須になります。子供がいれば、病欠で休む事もあり、周りの理解、協力も必要になるので、子育てしながら、働ける環境づくりを、社会全体でする必要があります、お願いしたいです。（正規の社(職)員）
- ・ 育児と仕事の両立は難しいと思います。私の会社でも時間短縮制度はありますが周りの社員に負担がかかり残業になったりと…。ある程度の育児がおちついてから再就職出来る制度を作ってあげれば良いのではないのでしょうか？（正規の社(職)員）
- ・ 女性が離職して再就職を考える時、正社員は、年が上がるほど難しいと思っています。経験や知識も若い方よりあると思うのですが…。これから、子育てだけでなく介護の為に離職せざるをえない方も増えていくと思います。会社や企業や雇用する側の意識が変わる事を望みます。（正規の社(職)員）
- ・ 夜遅い時間（例えば、23時位）まであずかってくれる保育所が増えれば、子供を出産する女性が増えると思う。営業職の場合、20時帰宅は困難！！（正規の社(職)員）
- ・ 金融機関に勤務しています。男性優位の職場なので、女性の能力や実績はあまり評価される機会がありません。最近は女性の管理職を増やしていますが、能力とか実績ではなく、まにあわせて活用している感じがします。（正規の社(職)員）
- ・ 職場での女性職員に対する差別的意識が潜在的に高いように思います。妊娠した女性職員への差別的発言もまかり通っています。（正規の社(職)員）
- ・ 出産・育児をしながら仕事をしている人は多いが、今の制度があたり前だと思っている若い人が目立つ。以前から仕事をしている元子育て世代の負担をもう少し減らした方が、不公平感が減ると思う。今の人たちが楽に子育てできるようになる前の世代は、今介護で困っている。子育て休暇に対する、介護のための特別休暇の制定を望む。（正規の社(職)員）
- ・ ワーク・ライフ・バランスという言葉や考え方もなかなか知られていない現状があります。仕事量がどんどん増やされていく中で、家に仕事をもち帰り夜中にやっと仕上げつつじつまを合わせている女性がほとんどだと思います。今は今後の介護との両立が一番心配です。（正規の社(職)員）

- 女性には、結婚、出産、介護だけでなく、更年期障害があり、男性の上司には話しくく、理解を得ることが難しいこともある。（正規の社(職)員）
- 外に出てお金を稼ぐことだけが、「女性が輝ける社会」ではないと思う。「働く」というのも多様な捉え方があってよいと思う。（自営業・家族従業員）
- 出産後に女性が働く環境がまだまだ整っていない。保育所や学童などもう少し増やしてほしい。（自由業）
- 女性が出産を経て、職場復帰するならば、仕事では社会人として責任をもって仕事をすべきだと思います。残業ができない、子供のことで突発休をしたりすることはあります。助けてもらうことは当然ではありません。限られた時間で、より効率的に業務を遂行するに限ります。「甘え」が同性からも嫌われる原因のひとつです。（パート・アルバイト）
- 私の場合は、小さい会社で事務職なので、子供を生後3ヶ月から一緒に職場に連れて行き、机の横にベビーベッドを置かせてもらって、働かせてもらいました。仕事の忙しい時とそうでない時のムラがある会社なので、それに合わせて、自分の仕事が終わればOKというスタンスで、短時間労働から復帰しました。でも、子連れの仕事は、それ以前の仕事充実度を100%くらいとすると、30~40%しかはかどりませんでした。それでも、お給料をくれた会社と、保育所（生後8ヶ月〜）には、感謝しています。型にはまらないこのやり方は、どの会社でもできるものではないですが、こういうやり方も、事例としてはあるので、報告させてもらいます。（パート・アルバイト）
- 女性として生まれてきたからには、出産、育児はとても素晴らしい仕事だと思います。子供にとって家に母親がいることは成長の上で何にも変えられない大切なことだと思います。小学校高学年ぐらいになれば、パートに出て働くぐらいが、私にはあっていました。会社にはかわりになる人材はいくらでもいますが「母」は私一人ですので！（パート・アルバイト）
- 男女平等とは言っているが、あまり実感しない。女性が家事、男性が仕事、というのがあたりまえ。女性の社会進出をするには男性の働き方、働く時間を変えなければ、上手くいかない。残業が多くて女性が家事を多くするハメになる事が多いと思う。男性が育児を取りづらいうし、子供が病気の時は、早退する（休む）のは女性になってしまう。労働条件、賃金、すべて同じにする。女性を負担と考える前に、男性の意識改革がまず先にしたほうが良い。平等な働き方が出来れば、女性労働者が増え、残業を少なくして、プライベートの時間を充実させることができると思う。（パート・アルバイト）
- 女性が働くと、女性の経済力が向上します。働きながら女性が出産するには、男性の生活力（家事、育児）の向上が求められ、企業や行政のサポートが必要です。女性が働きながら安心して出産、育児に取り組むには、男性の生活そのものを見直さないと難しいと思います。女性も自立を目指して子どもの頃から“働くこと”を意識して過ごす必要があると思います（私自身も後悔している）。（パート・アルバイト）
- 病児保育を充実してほしい。各保育園に付設しても良い位。（パート・アルバイト）
- 結婚と同時に正社員を辞め、子供が小さいうちは預け先が見つからず働く事ができませんでした。子供がようやく一人で留守番できるようになった頃にはブランクがあき、社会復帰がどんどん難しくなっていってしまいます。雇用する側も即戦力が必要だし、雇用される側もブランクがあると、昔のように働ける自信が無くなります。子供が小さい頃に保育園に問い合わせましたが、空きが無く、空きがあってもパート就労では預かってもらえませんでした。母親が働く上でまず一番気がかりなのは子供の事です。その不安を無くすような政策が必要だと考えます。（パート・アルバイト）

- ・ 私自身は結婚で仕事をやめ、出産後は育児・家事に専念の約20年でした。外で仕事をしなくても、特に育児はちゃんと人を育てるとても大切な仕事と思い取り組んでいました。育児を通し、学校役員やボランティア等の参加も有意義だったので、外で働くだけが、社会貢献ではないと感じていますが、外で仕事していないと周りからはあまり評価されない気がして、残念に思うことが多くありました。こうあるべきと世間に決められるのではなく、自分がどう生きたいのかで、働き方などを選択しやすい世の中であってほしいです。子育てとフルで仕事することの両立は本当に大変だと思います。育児の期間は会社なども急にお休みをとれる様、配慮があつて当然かと思えます。また働く女性の側も、子供が幼い時や、また思春期の大変な時に、働く必要があるのか、時々でよく状況を見極めて仕事を続けてほしいと思います。（パート・アルバイト）
- ・ 「女性」といっても個人個人性格や考え方は全く異なるので、「働き方」もひとくくりにはできないと思います。例えば、正社員としてバリバリ働きながら子育てをしたい方もいるでしょうし、子どもが小さいうちは無理のない範囲でアルバイトをやりたいと考える方もいるでしょう。ただ、どういう働き方をするにせよ、「女性が働く」ためには、職場や家族の理解や協力が必須だと思います。子育てや介護で急に休みをとらなければいけない時、職場全体でカバーするとか夫が協力するのがあたり前の社会になってほしいです。公務員や一部大企業は多少そのような意識が高まっているように感じますが、中小企業や個人（特に男性）の意識はまだ低く、女性にとって働きやすい環境ではないと思います。個々にいろんな働き方が認められるように、日本人の意識が変わっていくとよいと思います。（パート・アルバイト）
- ・ 仕事そのものに関しての能力は、力仕事以外は男女同じだと思います。でも女性の能力は、活かされていません。1番の理由は、「男が仕事、女は家」という古い考え方がなかなか、無くならないことです。結果、働く女性のほとんどが（結婚していると）家事と仕事の両立で、大変な思いをしています。又、両立は辛いと思い、働くことをあきらめたり、自分の能力と関係のないパートで働いていたりします。先進国であるはずなのに、男女平等でないのが残念すぎる、日本の現況です。（パート・アルバイト）
- ・ 働きすぎて、家庭内がうまくいかなくなると悪循環なので…ほどほどにしておいた方がいいと痛感しました。子供のSOSを見逃さないように子供ルームや保育所に頼らず、いつでも子供の異変を受け止めてあげられるようにするべきです。小学校にあがったから…と、パートなどを始める方が多いですが小学生は、まだまだ、いろいろな面でみてあげないといけないと思う。他人任せ、地域任せにせずに責任をもって、子育てもしていきたい。（パート・アルバイト）
- ・ 今は、給料面で共働きが増えているが、子どもを出産すると正社員で働くのは、むずかしくなります。保育園や学童などをもっと増やして女性が正社員で働くための環境を整えてほしいです。（子どもの預け先がなくて、パートになってしまう女性がたくさんいると思うので…）（パート・アルバイト）
- ・ 現在、年収130万未満で働いています。扶養範囲を少しでも越えると、社会保険や税金の負担がかかるので、仕事をセーブしています。主婦のパート、アルバイトは、家計を助けるために…という方が多数です。働き過ぎて税金、特に社会保険料を収めることに納得がいきません。（パート・アルバイト）
- ・ 日本は、労働時間が長すぎるので、女性が働くことの選択肢が少ないように感じます（正社員かパートのどちらか…という印象）。社員でも週3、4日の勤務などができる社会であれば（ワークシェアリング）、様々な面でゆとりがもてるだろうと考えます。（正社員フルタイムの人であれば、時間のゆとりがもてるし、パートの人にとっては、金銭的なゆとりがもてる。）（契約社（職）員（臨時・派遣を含む））

- ・ 10年以上契約社員のままで、7年間時給は1円も上がらない。しかし、育児と両立する為に、近くの職場をかえる勇気もない。毎日そんなジレンマを感じています。行政の改革にすぎるしかないのでしょうか…。(契約社(職)員(臨時・派遣を含む))
- ・ 育児も大事な仕事。子どもは社会にとっても、将来を担う大事な人材であるから、特に幼少期に親が手をかけて育てるのは大事なことだと思う。仕事の忙しさから、時間的、精神的にも子育てに余裕がなくなることは、社会的にも損失だと思う。(契約社(職)員(臨時・派遣を含む))
- ・ 非正規雇用で、同じところで3年働くと常勤(正社員)にしなければならないという枠のため、短い期間で職場を変えなければいけないのは、かなりの負担になります。又、非正規雇用でも雇い主は、正規職員並の仕事を探していること。人を減らし非正規雇用を増やすということは、正規職員がしていた仕事を、非正規の人がやる。なにか違和感と不公平さを感じます。正規職員も仕事量が増えた分非正規雇用の人に仕事をまわしている…。そんな現況がおかしいと思います。非正規雇用であれば、休日出勤はしないことや時間内におわる仕事量の仕事を考えてほしいと思います。とても不満に思います。(契約社(職)員(臨時・派遣を含む))
- ・ シングル家庭では働かなくては生きていけません。(契約社(職)員(臨時・派遣を含む))
- ・ 育児休暇制度等の制度は整っていても、実際の職場では休暇はとれても、残った人への負担が大きい。休む人の制度の充実もそうだけど残った人への対応も多い。人員の補充等も行われず、その為1人1人の負担もふえてとても大変。(契約社(職)員(臨時・派遣を含む))
- ・ 本当は、正社員で働きたい、雇用があれば何より安定した収入と保障が必要です。臨時職員という扱いのフルタイムパートの契約で働いている私は、母子家庭です。ハローワークで正社員を探してもなかなかみつかりません。生活の為に働いています。働かなければ生きていけないので当然ですが、日々の生活も苦しく大変ですが、子供の教育費が恐ろしく高い時代です。格差社会が子供の教育、進学に直結しています。お金が無くて子供を進学させる事も出来ず困っています。(契約社(職)員(臨時・派遣を含む))
- ・ 女性の働き方だけではなく、男性を含めた、働き方全体を見直す事が大切だと思います。男性の働き方が変わる事により、女性の働き方にも変化がもたらされると思います。(契約社(職)員(臨時・派遣を含む))
- ・ 子供に障害が有って働けない。預かってくれる所が少ない。障害が有る子が普通の子供と一緒に放課後過ごすのは、難しいと思う。(就労していない)
- ・ 女性だけでなく、“働くこと”は生活の一部だと思います。しかしながら、母親となったからには、子供を一人前の社会人に育てるのが、一番の仕事であると考えています。(就労していない)
- ・ 女性が働くことに周囲の理解と意識が低いと思います。特に男性の家事・育児の参加、意識が低いです。子供を持ってつくづく感じました。家庭でも会社(社会)でも女性の力は男性に劣らないと思います。生活の為だけではなく、働く事自体が楽しいと思えるような環境が必要だと考えます。もっともっと女性が活躍出来る場をお願いします。(就労していない)
- ・ 専業主婦への間違ったイメージがあると思う。専業主婦イコール社会性がなく、時間を持って余している暇人と考えている人たちが少なからずいる。収入を得ることだけが「働くこと」ではないということを伝えたいが、今の世の中、それを理解してもらうのは難しいと思うし、かなり反発があると思う。専業主婦は肩身が狭い。(就労していない)

(4) 50代

- ・ 子供の成長と共に働き方を変えていく、それが子供にも自分自身にもプラスになるのでは。いくつになっても自分自身の意欲さえあれば職場復帰の道はあります。(正規の社(職)員)
- ・ 女性が結婚、出産後も働き続けられる社会であって欲しいと思います。様々な支援サービスの充実を図ると共に、男性側にも長時間労働を減らすなどの意識改革も必要だと思います。そして、若い夫婦が安心安全に子育てできるようなサービス等に税金を使って欲しいと思います。(正規の社(職)員)
- ・ 男女平等と言われていますが、なかなか難しく、女性も男性のように働ける人は、そんなに多くない様な気がします。働く仲間同士協力し思いやりのある職場であってほしいです。男性も女性もお互い理解があれば、働きつづけられるのではないのでしょうか。(正規の社(職)員)
- ・ 女性が平等な評価を希望するのなら(男性と同等に)、自分に対する甘えも職場では封印する覚悟が必要だと思う。与えられることばかり望む態度に疑問感がある。(正規の社(職)員)
- ・ 女性の社会進出なくして、今後の日本経済は立ちいかないことは明白。そのためにも出産、育児、転勤などについての社会的配慮は必須。しかし、母であること、女であることの権利を振りかざしすぎでは企業にとって迷惑。社会の理解と女性自身の意識改革が平行して必要だと考えます。(正規の社(職)員)
- ・ 男も女も、社会の一員として外での仕事と家事を双方で分担して任っていく時代になる必要がある。男性も家事ができないほど外で働き一家を養う稼ぎを得ねばならない状態は、不幸だと思う。出産と授乳だけは男性が任えない女の役目だが、それ以外は男女で助けあっていく社会にしたい。(正規の社(職)員)
- ・ 女性・男性に限らず、働くことは、自分自身のモチベーションの向上や社会への関心、能力の向上のため重要だと思います。(正規の社(職)員)
- ・ 病児保育室のスタッフです(保育士)。病気の子どもを預けてまで仕事に行かなくてはならない会社の制度に矛盾を感じます。病児保育室などなくてもよい社会になればよいと、願っています。(正規の社(職)員)
- ・ 家族の協力があって働けます。お互いに認め合いながら感謝の気持ちをもてるのが大切だと考えます。家庭にいる女性も家で働いているという認識をみなさんが持ってほしい。子どもにとって親は大切。(正規の社(職)員)
- ・ 人それぞれ立場、経験、能力が違うので、各々に合う働き方を生かせる事が大事だと思います。家族の理解と協力が必要ですね。(正規の社(職)員)
- ・ 子育てをしながらの女性の“働くこと”は本当に大変で一番は子供の体調の悪い時、そして夏休みや長期の休み、子育ての時誰か、少しでも手助けがほしいと思っていました。今、子育てが終り誰かの手助けを少しでもしてあげたいと思っています。(経営者・事業者)
- ・ 女性が社会に再度復帰するには、男性の理解と協力が不可欠です。育児、家事は、女性の仕事という概念は捨てて、もっと女性(働く女性)に理解をしめしてほしい。子供は、家庭の中だけで育てるものでなく、地域とかかわりをもって、育てていくほうが良い。女性が働きやすい環境をつくる事は、少子化にも影響を与えると思う。(自営業・家族従業員)

- ・ 女性が男性と同じように働くことへの取り組みも大切だが、子育てがある場合は、次世代を担う子どもの育成も大切。大人の働きやすきの陰に子どもが置き去りにされてはならない。子どもには責任をもった親が、むき合わなくてはならないし、それをサポートする、地域、学校などの環境が必要だと思う。子どもをきちんと社会におくり出すことが優先。または平行して考えられるべきではないだろうか。（自営業・家族従業員）
- ・ 母子家庭ゆえ仕事の種類等ある程度決まってしまうぬよう願っています。（パート・アルバイト）
- ・ 出産・育児・介護は手を抜けません。ひとりひとり状況が違うので、地域差なく、細やかな支援が広がってほしいと思います。（パート・アルバイト）
- ・ 家事、育児、介護、毎日、休みなく大変な重労働だと思います。が、ほとんどが自己満足で終わってしまっているように思います。短時間ですが、外で働き、それを評価され、収入を得られる事は、2重の喜びを得られると思います。外にでる事でリフレッシュもできます。繋りも広がります。ただし、1度家庭に入ると外にでる一歩はすごく勇気が必要です。（パート・アルバイト）
- ・ 出産後の復帰に関しては、保育所や子どもルーム等のサポートの充実（待機児童数0など）。企業側の女性サポート・働きやすい社会の確立。多形態の働き方（時短や育休制度、在宅での仕事）の提唱、推進。高齢者福祉ばかりでなく若年層への福祉の支援にもっとお金をまわすべきだ。（パート・アルバイト）
- ・ 同時期に就職した男性に比べ、女性は所得が少なく、経済的に自立できない（勤務内容が同じでも）と思うこと多い。また、年齢を理由に就職または、継続して働くことを断られることが多々ある。（パート・アルバイト）
- ・ 女性を対象にしたアンケートがあるというのは、男性を対象に同じ「女性の働くこと」を問うアンケートもあるのでしょうか。女性が働くと、いつも育児・介護の労働問題がいわれます。働く全ての若い人、経歴の長い人、外国籍の方等からもアンケートを取り総合的に問題にとりくむべきと考えます。男は仕事、女は家事・育児という社会的通念は、ある議員の発言でも問題になりました。普段、家庭でもこのような問題は話し合いません。又知り合いや仕事場でもこのような話をしたくても出来ない状態ではないでしょうか。（パート・アルバイト）
- ・ 私の場合、働く目的が時と共に変わってきた。働く目的や意味があったから、パートとはいえ働き続けることができた。社会とかかわっていく事は必要だと思う。いい事ばかりではないけれど、全て含めて、自分の肥しになっていると信じて。今は、病気と闘いながら、幸い環境にも恵まれて、働けることはありがたいと感謝しながら働けるまで働こうと思っています。（パート・アルバイト）
- ・ 女性が働く上で、家族内の理解が必要だと思います。特に、育児もそうですが、両親の介護は今後も増え続け、皆が直面する事となり得ます。子どもが成人して行くまで、社会人になるまで自分自身の生きがいを含めて、出来る限り働いていたいと思っています。（パート・アルバイト）
- ・ 現代の女性は、結婚より仕事をして自由に生活を楽しむ方が多い様に感じる。結婚をしない女性が増え、次世代を担う子供達が減り、今後の日本の行く末に不安を感じる。女性が働くことは、良い事だと思うが、女性にしか出来ない役割（出産）についても考える必要があると思う。結婚・出産後に仕事に就ける様な社会づくりをして、日本の未来に不安を感じない様になればいいと思う。現状では老後の不安を強く感じる。（パート・アルバイト）

- 私は結婚してからも出産後の3年間を除き、ずっと共働きをしてきました。私が働くためにはいろいろな方のサポートがありました。保育所、学童保育にはとてもお世話になりました。子供達も成人して社会人として働いていますが、二人の娘達からはお母さんが働いていてよかったと言ってもらえました。そして自分達も共働きをしたいと言っています。夫婦が共に働き、共に子育てをする社会になって欲しいと心から思います。
(契約社(職)員(臨時・派遣を含む))
- 女である、年がいつているだけで門前払い。非正規雇用すらむずかしい。子育て、親の介護…やはり女性がみるものという常識。本音はやはり小さい子供には母親がいた方がいいとも思うが。自分は年のいった親をみつつ長く非正規雇用でいきなりのクビキリなどにもあい破算寸前で生きている。医者にもいけずいっそ死んでしまえたらと日々思いつつ。何がどうなったら改善されていくのか意見もなく、ぐちになり申しわけないです。若い母親だけでなく年輩女性へも目を向けてほしい。次に父がたおれたらもうやっていけないと思う。(契約社(職)員(臨時・派遣を含む))
- 子どものあるなしにかかわらず、家庭にいたい人、社会にでて働きたい人それぞれが希望する生活をできるように選択肢がふえるといいと思う。男性も同様に会社で働くだけでなくもっと多様な生活形態が認められる社会になってほしい。(契約社(職)員(臨時・派遣を含む))
- 出産・育児、現在では不妊治療も女性が働いていく為には乗り越えなければいけない問題です。その先には少子化の問題も含まれてきます。出産や育児、親の介護など、たくさん経験を経んだ女性が“働く”という事は、企業にとっても、素晴らしい戦力になると思います。高齢化の社会に経験を経んだ気使いできる人間が働ける場所がたくさんあればと考えます。(契約社(職)員(臨時・派遣を含む))
- 男性に女性が働くことについてのアンケートも実施して下さい。(契約社(職)員(臨時・派遣を含む))
- 現在、フルタイムで働いているが、そのことにより、家族からの家事に関する協力はほとんど得られていない。やはり“母親が家事をやってあたりまえ”という考え方を変えるには、時間がかかる。(契約社(職)員(臨時・派遣を含む))
- 年金をもらえる年が近くなって、初めて老後のお金が心配になってきた。若いときから、正社員として働いてくれば厚生年金など、その時はたいへんだったろうけど、ある程度の安心はできるだろう。同じように働いてきたのに長年パートをしていたので第3号の年金しかない。早くから、意識していれば…と思うこのごろです。今働き、お金を得ることもたいせつだが、保障も頭にいれておくべき。(契約社(職)員(臨時・派遣を含む))
- 私自身は正社員の頃、保育園、夫、夫のお母さん、職場での時間的な配慮など本当に助けてもらいました。何よりも笑顔で話す子供に幸せを感じました。毎日のことから、時には怒ったり子供がぐずったり思い通りにいかないこともありましたが、それも含めてよい経験になったと思います。“働くこと”は生きることの一部、それぞれの人に合った方法で取り組むことができるよう、また家庭にいることも尊重されるような、心にゆとりのある社会でありたいと思います。(就労していない)
- 女性(独身者以外)が、働くことは、やはり何かを我慢しなければならない。仕事も家庭も100%やりこなすのは無理。どこで折り合いを付けるかに葛藤する。自分といかにか冷静に向き合えるかが課題。何の不安、心配もなく仕事に打ち込めたら、どんなに良いだろうと、何度も思ってきた。いくら支援があっても、それを利用しても、不安や迷い後悔が出る、自分が弱いのだと思うが。私の場合、転居が多いので専門性を深めることは難しい。それ以前に職に就くことが難しくなる。でも、今の自分の状況に合う職に就ける様、これからもがんばりたいと思っています。(就労していない)

Ⅲ 調査結果のまとめ

1 女性の就労意識

- ・ 仕事をする目的や意味は、前回調査同様、生活維持や家計補助のためが多い。
- ・ 望ましい就労形態は、正規の社（職）員が5割近くで最も多く、パート・アルバイトは4割近くである。年代が上がるとともに正規の社（職）員志望が減少し、パート・アルバイト志望が多くなる傾向がみられる。

- ・ **仕事をする目的や意味**は、「生活維持または家計補助のため」が7割近くで、全ての年代で最も多い。前回調査と比較すると大きな変化はない。【問1 P15～17参照】
- ・ **仕事を選ぶ際に重視すること、したいこと**は、「勤務時間が希望に合っている」が6割を超え、最も多い。
—年代別にみると、「20代」「30代」では「職場の雰囲気が良い」が最も多く、「40代」「50代」では「勤務時間が希望に合っている」が最も多い。
—就労形態別にみると、「正規の社（職）員」では「職場の雰囲気が良い」「性格・能力が適している」が多く、「契約社（職）員」では「勤務時間が希望に合っている」「職場の雰囲気が良い」が多い。「パート・アルバイト」では「勤務時間が希望に合っている」「通勤に便利など職場の立地条件が良い」が多い。【問2 P18～22 参照】
- ・ **望ましい就労形態**は、「正規の社（職）員」が5割近くで最も多く、「パート・アルバイト」は4割近い。前回調査と比較すると大きな変化はない。
—年代別にみると、「20代」では「正規の社（職）員」志望が約7割と最も多く、「50代」では「パート・アルバイト」志望が「正規の社（職）員」志望を上回っている。
—結婚の有無別にみると、「未婚」「離死別」では、「正規の社（職）員」が最も多い。「既婚」では「パート・アルバイト」が「正規の社（職）員」を13.8ポイント上回っている。
—現在の就労形態別にみると、「正規の社（職）員」は、望ましい就労形態を「正規の社（職）員」（90.8%）と回答しており、その他の就労形態においても、現在の就労形態と同じ就労形態を望む傾向がある。しかし、「契約社（職）員」で6割半、「パート・アルバイト」の2割以上が「正規の社（職）員」を望んでいる。【問3 P23～27 参照】
- ・ **望ましい就労形態を選んだ理由**は、「勤務時間・勤務日数・休日の自由がきくから」が5割近くで最も多く、「契約社（職）員」では7割近く、「パート・アルバイト」では8割以上である。また「正規の社（職）員」では、「収入が安定しているから」が7割半、「雇用が安定しているから」は7割近い。【問4 P28～31 参照】

2 就労していない方(無償労働者)の現状

- ・ 現在就労していない方のほとんどは就労経験があり、「出産」のために離職した人は、3割を超えている。前回調査と比較すると、「結婚のため」に離職した人が13.9ポイント減少した。
- ・ 「30代」では「育児がひと段落したら働きたい」が6割を超え、他の年代よりも多い。前回調査と比較すると、「20代」では「今すぐにでも働きたい」が13.5ポイント、「50代」では「働く意思はない」が19.8ポイント減少した。

- ・ ほとんどの回答者が、就労経験が「ある」。 【問5 P32 参照】
- ・ 前職の就労形態は、「正規の社(職)員」「パート・アルバイト」がそれぞれ4割を超える。 【問6 P33 参照】
- ・ 離職理由は、「出産のため」が3割以上で最も多く、「結婚のため」が2割以上、「育児のため」が2割である。
 - －前回調査と比較すると、「結婚のため」が13.9ポイント減少した。
 - －年代別にみると、「20代」「30代」「40代」では「出産のため」が最も多く、「50代」では「健康上の理由」が最も多い。 【問7 P34・35 参照】
- ・ 今後仕事に就く意思は、「育児がひと段落したら働きたい」が約3割で最も多く、「いつかは働きたい」が3割近く、「今すぐにでも働きたい」が2割近くである。前回調査と比較すると大きな変化はない。
 - －年代別にみると、「30代」では「育児がひと段落したら働きたい」が6割以上であり、他の年代と比べて多い。「50代」では「働く意思はない」が3割近くで、他の年代と比べて多い。
 - －前回調査と比較すると、「20代」では「今すぐにでも働きたい」が13.5ポイント減少、「50代」では「働く意思はない」が19.8ポイント減少している。 【問8 P36～38 参照】

3 就労している方(有償労働者)の現状

- ・ 現在就労している方は6割近くが仕事に対して“満足”している。満足の理由として「パート・アルバイト」では「勤務時間・勤務日数・休日の自由がきくから」が多く、「正規の社(職)員」では「収入が安定しているから」を理由として挙げている。
- ・ “満足していない”理由は就労形態に関わらず、「収入が少ないから」が最も多い。前回調査と比べて14.4ポイント減少している。また、全ての年代で「他の職員との賃金差が大きいため」「職場での人間関係が悪いから」が増加している。
- ・ 「昇進は望まない」が4割半で、前回調査同様に「ぜひ昇進したいと思う」を大きく上回り、「管理職になると、仕事が忙しくなり、家庭生活やプライベートと両立し難いから」などを理由に、昇進への意欲が高まらない。
- ・ 仕事を続ける、転職を考える上での不安や障害は、「勤務時間・勤務日数・休日で自由がきくか不安」が5割近くで最も多い。
- ・ 現在の仕事を8割近くが“続けたい”と回答している。一方で、「今より賃金や待遇が良い仕事に就きたいから」「体力的に、仕事がつきつから」などを理由に現在の仕事を“変えたい”と回答している人もいる。

- ・ **勤続年数**は「3年以上10年未満」が4割近く、「10年以上」が3割半。
 【問9 P39～41 参照】
- ・ **現在の仕事の満足度**は、“満足”（「非常に満足している」と「ほぼ満足している」の合算）が6割近く、“不満”（「やや不満である」「非常に不満である」の合算）は2割近くで、前回調査と比較すると、大きな変化はない。
 【問10 P42～44 参照】
- ・ **現在の仕事に「満足している」理由**は、「勤務時間・勤務日数・休日の自由がきくから」が5割を超え、特に「パート・アルバイト」では約8割と多い。また「正規の社（職）員」では、「収入が安定しているから」が7割半が多い。
 【問11 P45～48 参照】
- ・ **現在の仕事に「満足していない」理由**は、「収入が少ないから」が4割を超えるが、前回調査と比べて、14.4ポイント減少している。
 ー前回調査と比較すると、全ての年代で「他の職員との賃金差が大きいから」「職場での人間関係が悪いから」が増加し、「収入が少ないから」「福利厚生（待遇・保障）が良くないから」「自分の能力や資格を生かすことができないから」が減少している。
 【問12 P49～51 参照】
- ・ **管理職への登用希望**については、「昇進は望まない」が4割半で最も多く、「ぜひ昇進したいと思う」（4.6%）を大きく上回る。前回調査と比べて大きな変化はない。勤続年数にかかわらず「昇進は望まない」が最も多い。
 【問13 P52・53 参照】
- ・ **管理職への登用を「望まない」理由**は、「管理職になると、仕事が忙しくなり、家庭生活やプライベートと両立し難いから」が5割以上で最も多い。
 ー前回調査と比較すると、全ての年代で「管理職になると、責任が重いから」が増加しており、特に「20代」「40代」で10ポイント以上増加している。
 【問14 P56・57 参照】
- ・ **仕事を続ける上で、また転職を考える上での不安や障害**は、「勤務時間・勤務日数・休日で自由がきくか不安」が5割近く、「望む収入が得られるか不安」が4割以上、「望む就労形態が取れるか不安」が4割近い。
 ー前回調査と比較すると、全ての年代で「年齢などが求人条件とあわない」「求人自体が少ない」が減少し、「正規の社（職）員」で「勤務時間・勤務日数・休日で自由がきくか不安」が9.7ポイント増加している。「契約社（職）員」で「求人自体が少ない」が14.8ポイント減少し、「パート・アルバイト」で「年齢などが求人条件とあわない」が18.9ポイント減少している。
 【問15 P58～63 参照】
- ・ **現在の仕事の継続意向**としては、“続けたい”（「続けたい」と「どちらかと言えば続けたい」の合算）が8割近い。年代があがるほど「続けたい」が多い。
 【問16 P64・65 参照】
- ・ **現在の仕事を“変えたい”理由**は、「今より賃金や待遇が良い仕事に就きたいから」が4割以上で最も多く、「体力的に、仕事がきついから」が3割以上、「人間関係など、精神的に辛いから」が約3割である。
 【問17 P66 参照】

4 女性が仕事をする上で必要なこと

- ・ 女性が働き続けるために、「保育所や放課後児童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」が必要だと8割以上の方が回答している。
- ・ 出産などで離職した女性が、再び社会で活躍する仕方として、「仕事と家事・育児・介護の両立のしやすさなどを重視し、正社員として再就職する」ことが良いと7割以上の方が回答している。
- ・ 女性の昇進・昇格の障害となるものについては、前回調査同様、「女性には家事・育児・介護等の負担が課せられている」と8割近くの方が回答している。

- ・ **女性が働き続けるために必要なこと**として、「保育所や放課後児童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」が8割以上で最も多い。続いて「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」が6割半、「女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革」が5割半、「男性の家事参加への理解・意識改革」が5割以上である。 【問18 P67・68 参照】
- ・ **出産などで一度離職した女性が、再び社会で活動する仕方**として「仕事と家事・育児・介護の両立のしやすさなどを重視し、正社員として再就職する」が7割以上で最も多い。続いて「これまでの知識・経験を生かして働けることと、働く時間や場所の両方を重視して、パート・アルバイトなどで再就職する」が5割半である。 【問19 P69～71 参照】
- ・ **女性の昇進・昇格の障害となっているものは**、「女性には家事・育児・介護等の負担が課せられていること」が8割近くで最も多く、全ての年代で最も多い。
ー前回調査と比較すると、「男は仕事、女性は家事・育児というような伝統的社会通念」が7.4ポイント増加した。 【問20 P72・73 参照】
- ・ **女性の活躍推進の取組みに関する情報のうち、特に必要な情報は**、「保育所や幼稚園に関する情報（場所、保育料など）」は7割近くで最も多い。「仕事と育児・介護の両立支援制度に関する情報（内容、利用方法など）」は6割半、「放課後児童クラブ（子どもルーム）に関する情報（場所、利用料など）」が6割近くである。 【問21 P74～76 参照】

5 今後に向けて

(1) 固定的な性別役割分担意識の解消

女性の昇進・昇格の障害について、全ての年代で「女性には家事・育児・介護等の負担が課せられている」「男は仕事、女は家事・育児というような伝統的社会通念」が多いことから、依然として、家事・育児等の負担を女性が担っていることや固定的役割分担意識の根強さがわかった。

「男性は仕事、女性は家庭」というような例に代表される性別による固定的な役割分担意識は、社会における男女の活動の自由な選択を妨げる要因となっている。こうした性別による固定的役割分担意識に捉われず、男性も女性も個性や能力を十分発揮し、様々な活動に参画できるようにするためには、男女共同参画への理解の促進や意識の改革を図るための広報・啓発活動や学習機会の充実など、拠点施設である男女共同参画センターを中心として積極的に展開していくことが必要である。

(2) 女性活躍推進のための取組み

管理職への「昇進は望まない」が前回調査と変わらず多く、特に30代で5割を占める。管理職登用を望まない理由は、「管理職になると、仕事が忙しくなり、家庭生活やプライベートと両立し難いから」が最も多かった。「管理職としての能力に不安」「責任が重いから」は前回と比べて増加している。

この結果から、働く女性にとって仕事と家庭の両立が大きな課題となっていることがわかった。また、女性が就業を中断したり、あるいは離職してしまうことにより、昇進に必要な在職年数や経験、知識が得られないことが、管理職としての能力に不安を感じる要因になっていると考えられる。

企業には、女性の離職を防ぎ、出産・育児などの時期に応じた継続的なキャリア形成が実現できる制度の導入など、女性の活躍推進に関する効果的な取組みが期待される。

(3) 再就職を目指す女性に対する就労支援

依然として出産・育児を理由とした離職は多く、30代では「出産のため」が4割半、「育児のため」が3割近い。また、現在働いていない方のうち、30代では「育児がひと段落したら働きたい」が6割以上でほかの年代と比べて多いことがわかった。

出産等で離職した女性が再び社会で活躍するために、キャリア相談や職業紹介、求職活動に役立つ保育情報の提供や女性問題の相談に対応するなど、きめ細かい支援を提供する必要がある。

(4) 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進

女性が働き続けるために必要なことは、「子どもを預けられる環境の整備」や「職場の両立支援制度の充実」に続いて、「女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革」「男性の家事参加への理解・意識改革」が多かった。

また、女性の活躍推進の取組みに関する情報のうち特に必要な情報は「保育所や幼稚園に関する情報」「仕事と育児・介護との両立支援制度に関する情報」「放課後児童クラブ（子どもルーム）に関する情報（場所、利用料など）」が多かった。

このようなことから、男性も女性も仕事と生活のバランスの取れた多様な生き方が選択できるよう、子育てしやすい環境づくりを地域が一体となって進めていく必要がある。併せて職場全体の意識改革（雰囲気づくり）、男性の意識改革、両立支援制度を充実させるなど、女性が長く働ける職場づくりも求められる。

<調査票>

女性の“働くこと”についての調査 調査へのご協力とお願い

千葉市男女共同参画センターでは、男女共同参画社会の形成促進に向けて、さまざまな事業を展開しております。

今回、『女性の“働くこと”についての調査』として、千葉市にお住まいの女性の方を対象に、“働くこと”に対する意識や働き方の実態、働き続けるために必要なことなどについておたずねするものです。

本調査は、千葉市内にお住まいの20歳から60歳未満の女性3,000名の方を、くじ引きに似た方法で無作為に抽出し、アンケート調査票を郵送させていただきました。

皆様にご回答いただきました調査票及び集計結果につきましては、すべて統計的に処理いたしますので、ご回答いただいた方々にご迷惑をおかけすることはございません。

趣旨をご理解の上、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

なお、本調査は、千葉市からの委託を受け、千葉市男女共同参画センターが行うものです。

◆ご記入にあたってのお願い◆

1. ご記入は、宛名にあるご本人様にお願いいたします。
2. ご記入にあたっては、平成27年7月現在の状況でお答えください。
3. ご回答は、あてはまる選択肢の番号に○をつけてください。質問によって○が1つの場合と、複数の場合があります。
4. ご記入は、質問文の指示にそってお願いいたします。
5. ご記入後、同封の返信用封筒に入れて7月31日（金）までにご投函をお願いいたします。切手は不要です。

平成27年7月

ご不明な点や調査に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

《お問い合わせ先》

千葉市男女共同参画センター 担当：高頭^{たかとう}、儘田^{ままだ}

〒260-0844 千葉市中央区千葉寺町1208-2

千葉市ハーモニープラザ内

電話：043-209-8771

ご記入前にお読みください

本調査でいうところの「仕事（就労）」とは、労働によって収入を得る有償労働を指します。現在、複数の仕事に就いている方は、主な仕事を1つ選んで、それについてご回答ください。

あなたご自身のことについてお伺いします。

F1 あなたの年齢はおいくつですか。あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

1 24歳以下 【 5. 6%】	4 35～39歳 【14. 0%】	7 50～54歳 【15. 0%】
2 25～29歳 【 7. 7%】	5 40～44歳 【17. 3%】	8 55歳以上 【11. 9%】
3 30～34歳 【11. 8%】	6 45～49歳 【16. 6%】	

F2 あなたの就労形態について、あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

有償労働者＝現在、労働によって収入を得ている方。仕事に就いているが、現在は休職中の方も含まれます。
※学生や主婦などの方も労働によって収入を得ていれば「仕事に就いている方（有償労働者）」に含まれます。

無償労働者＝現在、家庭内での家事・育児、ボランティアなど無償の労働だけを行っている方。

1 正規の社（職）員 【32. 2%】	5 自由業 【 0. 6%】	9 就労していない 【22. 0%】
2 契約社（職）員 （臨時・派遣を含む） 【 9. 5%】	6 パート・アルバイト 【29. 8%】	
3 経営者・事業者 【 0. 7%】	7 内職・在宅ワーク 【 0. 8%】	
4 自営業・家族従業員 【 3. 2%】	8 その他 （具体的に） 【 1. 1%】	

F3 通勤時間は片道どのくらいかかりますか。あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

1 15分未満 【25. 9%】	
2 15～30分未満 【28. 4%】	
3 30～60分未満 【26. 0%】	
4 60分以上 【19. 2%】	

F4 あなたは結婚（事実婚を含む）されていますか。あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

1 未婚 【23. 1%】	2 既婚 【70. 1%】	3 離死別 【 6. 4%】
---------------	---------------	----------------

F5 あなたの同居する家族形態について、あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

1 ひとり暮らし	【 9. 5%】	4 3世代家族	【 7. 5%】
		(親と子と孫の3世代が同居)	
2 夫婦のみ	【16. 3%】	5 その他	【 2. 4%】
(事実婚を含む)		(具体的に:)	
3 2世代家族	【63. 5%】		
(親と子の2世代が同居)			

F6 あなたには、お子さんがいらっしゃいますか。いらっしゃる場合、お子さんの年代について、あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。
(複数のお子さんがいらっしゃる場合は、一番下のお子さんについて、お答えください。)

1 子どもはいない	【34. 3%】	4 中学生	【 6. 8%】
2 乳幼児	【18. 4%】	5 高校、大学、大学院生	【15. 5%】
(小学校就学前)		(高専、短大、専門学校を含む)	
3 小学生	【11. 7%】	6 学校は卒業した(中退を含む)	【12. 3%】

問1～4はすべての方にお伺いします。

問1 あなたは仕事をする目的や意味をどうお考えですか。次の中から近いものを3つまで選んで○をつけてください。

1 生活維持または家計補助のため	【66.8%】
2 生活にゆとりをもたらすため	【31.6%】
3 自分のこづかいを得るため	【18.6%】
4 子どもの教育、住宅、老後のため	【37.6%】
5 経済的に自立するため	【18.5%】
6 知識、技術、経験を社会で生かすため	【11.7%】
7 社会に貢献するため	【9.4%】
8 仕事が好きだから	【11.4%】
9 仕事を通じて仲間や友人を得るため	【8.6%】
10 仕事を通じて自分の能力を高め、視野を広げるため	【29.3%】
11 家に閉じこもってたくないから	【15.8%】
12 働くのは当然のことだから	【11.8%】
13 その他（具体的に：)	【2.0%】

問2 あなたが仕事を選ぶ際に、重視すること、またはしたいことは何ですか。あてはまるものをいくつでも選んで○をつけてください。

1 専門知識が生かせる	【25.8%】
2 性格・能力が適している	【54.1%】
3 仕事にやりがいがある	【47.5%】
4 能力本位で実績が評価される	【7.7%】
5 業種に将来性がある	【6.6%】
6 給与の条件が良い	【44.1%】
7 勤務時間が希望に合っている	【63.2%】
8 通勤に便利など職場の立地条件が良い	【54.3%】
9 職場の雰囲気が良い	【58.8%】
10 育児や介護への理解や制度が整っている	【31.4%】
11 その他（具体的に：)	【2.7%】

問3 あなたは、今の状況をふまえてどの就労形態が望ましいとお考えですか。あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

※ 現在、仕事に就いていない方はこの先仕事に就くと仮定してお答えください。

1 正規の社（職）員	【47.1%】	5 自由業	【2.2%】
2 契約社（職）員 （臨時・派遣を含む）	【4.5%】	6 パート・アルバイト	【38.5%】
3 経営者・事業者	【1.2%】	7 内職・在宅ワーク	【2.5%】
4 自営業・家族従業員	【3.3%】	8 その他 （具体的に：)	【0.4%】

問4 あなたが問3で望ましい就労形態を選んだ理由は何ですか。あてはまるものを3つまで選んで○をつけてください。

1 雇用が安定しているから	【 33.0%】
2 収入が安定しているから	【 37.5%】
3 収入が多いから	【 11.1%】
4 勤務時間・勤務日数・休日の自由がきくから	【 46.9%】
5 福利厚生（待遇・保障）が良いから	【 20.9%】
6 職場での人間関係が煩わしくないから	【 6.0%】
7 責任ややりがいを持って仕事ができるから	【 13.0%】
8 様々な経験ができるから	【 5.1%】
9 自分の能力や資格を生かせるから	【 9.7%】
10 自分の能力を向上させることができるから	【 5.3%】
11 税や社会保険などで、家族の扶養の範囲で働けるから	【 13.2%】
12 仕事に責任が出てくると負担になるから	【 6.3%】
13 家事・育児・介護との両立が可能だから	【 33.7%】
14 趣味や地域活動など仕事以外のことに時間が取れるから	【 11.0%】
15 その他（具体的に： _____）	【 1.9%】

就労していない方（無償労働者）
 <F2で選択肢9を選んだ方>

問5へ

就労している方（有償労働者）
 <F2で選択肢1~8を選んだ方>

6ページ問9へ

問5～8は現在、仕事に就いていない方にお伺いします。

問5 あなたは、これまでに仕事に就いたことがありますか。あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

1 ある	【 98.0%】
2 ない → 次ページ問8へ	【 2.0%】

問6 【問5で「1 ある」を選んだ方にお伺いします】

あなたの前職の就労形態は次のうちどれに当たりますか。あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

※ 複数の仕事に就いたことのある方は、一番最後に就いていた仕事の就労形態についてお答えください。

1 正規の社（職）員	【 42.7%】	5 自由業	【 0.4%】
2 契約社（職）員 （臨時・派遣を含む）	【 13.4%】	6 パート・アルバイト	【 41.0%】
3 経営者・事業者	【 0.4%】	7 内職・在宅ワーク	【 0.4%】
4 自営業・家族従業員	【 0.8%】	8 その他 （具体的に： _____）	【 0.4%】

問7【問5で「1 ある」を選んだ方にお伺いします】

離職した理由は何ですか。あてはまるものを3つまで選んで○をつけてください。

※ 複数の仕事に就いたことのある方は、一番最後に就いていた仕事の離職理由についてお答えください。

1	結婚のため	【22.2%】
2	出産のため	【32.2%】
3	育児のため	【20.1%】
4	介護・看護のため	【9.2%】
5	家事との両立が難しいため	【13.4%】
6	勤め先の都合（リストラ、倒産・廃業など）	【7.5%】
7	職場の将来性に不安があったため	【2.1%】
8	定年または契約期間満了のため	【2.9%】
9	収入が少なかったため	【3.8%】
10	勤務時間・勤務日数・休日に不満があったため	【9.6%】
11	福利厚生（待遇・保障）が良くなかったため	【2.5%】
12	職場の人間関係が悪化したため	【6.3%】
13	セクシャルハラスメント、パワーハラスメントを受けたため	【5.9%】
14	やりがいを感じられなかったため	【3.8%】
15	自分の能力や資格を生かせなかったため	【2.1%】
16	起業・独立するため	【0.0%】
17	健康上の理由	【15.5%】
18	その他（具体的に：)	【13.8%】

問8【現在、仕事に就いていない方全員にお伺いします】

あなたは今後、仕事に就く意思はありますか。あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

1	今すぐにも働きたい	【18.0%】
2	育児がひと段落したら働きたい	【29.5%】
3	介護時間が減ったら働きたい	【3.7%】
4	いつかは働きたい	【27.5%】
5	働く意思はない	【11.9%】
6	その他（具体的に：)	【5.3%】

⇒ 9ページ問18へお進みください。

問9～17は現在、仕事に就いている方にお伺いします。

問9 あなたは現在の仕事を何年続けていますか。あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

- | | | | |
|------------|---------|-------------|---------|
| 1 1年未満 | 【13.4%】 | 3 3年以上10年未満 | 【36.3%】 |
| 2 1年以上3年未満 | 【14.8%】 | 4 10年以上 | 【34.5%】 |

問10 あなたは現在の仕事に満足していますか。あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

- | | | |
|-------------|---------|------------|
| 1 非常に満足している | 【5.7%】 | |
| 2 ほぼ満足している | 【51.5%】 | |
| 3 どちらともいえない | 【23.2%】 | → 次ページ問13へ |
| 4 やや不満である | 【14.8%】 | } 次ページ問12へ |
| 5 非常に不満である | 【3.3%】 | |

→ 問11 【問10で「1 非常に満足している」か「2 ほぼ満足している」を選んだ方にお伺いします】その理由は何ですか。あてはまるものを3つまで選んで○をつけてください。

- | | |
|------------------------------|---------|
| 1 収入が安定しているから | 【41.4%】 |
| 2 収入が多いから | 【8.3%】 |
| 3 勤務時間・勤務日数・休日の自由がきくから | 【52.7%】 |
| 4 福利厚生（待遇・保障）が良いから | 【16.8%】 |
| 5 職場での人間関係が良いから | 【34.9%】 |
| 6 責任ややりがいを持って仕事ができるから | 【25.1%】 |
| 7 自分の能力や資格を生かすことができるから | 【22.0%】 |
| 8 自分の能力を向上させることができるから | 【11.1%】 |
| 9 職場の将来性に期待ができるから | 【0.2%】 |
| 10 通勤が負担にならないから | 【28.5%】 |
| 11 税や社会保険などで、家族の扶養の範囲で働けるから | 【5.3%】 |
| 12 責任や負担が少ないから | 【3.2%】 |
| 13 家事・育児・介護との両立が可能だから | 【23.4%】 |
| 14 趣味や地域活動など仕事以外のことに時間が取れるから | 【5.1%】 |
| 15 その他（具体的に： _____） | 【1.0%】 |

⇒ 次ページ問13へお進みください。

問12 【問10で「4 やや不満である」か「5 非常に不満である」を選んだ方にお伺いします】
その理由は何ですか。あてはまるものを3つまで選んで○をつけてください。

1 収入が不安定だから	【13.4%】
2 収入が少ないから	【41.4%】
3 勤務時間・勤務日数・休日の自由がきかないから	【27.4%】
4 福利厚生（待遇・保障）が良くないから	【11.5%】
5 他の職員との賃金差が大きいから	【19.1%】
6 職場での人間関係が悪いから	【18.5%】
7 セクシャルハラスメント、パワーハラスメントがあるから	【11.5%】
8 責任ややりがいを持って仕事ができないから	【8.3%】
9 自分の能力や資格を生かすことができないから	【4.5%】
10 自分の能力を向上させることができないから	【9.6%】
11 職場の将来性に期待ができないから	【21.7%】
12 通勤が負担になるから	【11.5%】
13 税や社会保険などで、家族の扶養の範囲で働けないから	【1.3%】
14 責任や負担が大きいから	【20.4%】
15 家事・育児・介護との両立ができないから	【8.9%】
16 趣味や地域活動など仕事以外のことに時間が取れないから	【7.6%】
17 その他（具体的に：)	【12.1%】

問13 【現在、仕事に就いている方全員にお伺いします】

あなたは、現在の職場で管理職への登用を望みますか。あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

※ 現在管理職の方は更に上の役職へ、管理職への登用制度のない方は、制度があると仮定してお答えください。

1 ぜひ昇進したいと思う	} 次ページ問15へ	【4.6%】
2 昇進したいと思うが、無理はしたくない		【19.9%】
3 特に昇進したいとも、したくないとも思わない		【26.6%】
4 昇進は望まない		【44.0%】
5 その他（具体的に：)	→ 次ページ問15へ	【3.3%】

問14 【問13で「4 昇進は望まない」を選んだ方にお伺いします】

管理職への登用を望まない主な理由は何ですか。あてはまるものを3つまで選んで○をつけてください。

1 管理職としての能力に不安があるから	【32.8%】
2 管理職になると、責任が重いから	【40.2%】
3 自分の価値観や人生観と合わないから	【11.8%】
4 現在の立場で働き続けたいから	【46.2%】
5 管理職になると、仕事が忙しくなり、 家庭生活やプライベートと両立し難いから	【51.4%】
6 管理職になると、人事管理が煩わしいから	【12.9%】
7 その他（具体的に：)	【8.9%】

問 15 【現在、仕事に就いている方全員にお伺いします】

あなたが仕事を続ける上で、また転職を考える上で、不安や障害はどのようなことだと思いますか。あてはまるものを3つまで選んで○をつけてください。

1	望む収入が得られるか不安	【 4 2 . 3 %】
2	望む就労形態が取れるか不安	【 3 7 . 8 %】
3	勤務時間・勤務日数・休日で自由がきくか不安	【 4 8 . 6 %】
4	通勤が負担になる	【 1 2 . 7 %】
5	家族の理解が得られない	【 1 . 8 %】
6	家事・育児の分担などの協力が得られない	【 9 . 5 %】
7	自分の能力や資格が生かせるか不安	【 1 1 . 2 %】
8	自分の体力が続くか不安	【 3 2 . 1 %】
9	年齢などが求人条件とあわない	【 2 3 . 6 %】
10	求人自体が少ない	【 1 0 . 0 %】
11	男性中心の組織運営に偏っている	【 3 . 0 %】
12	女性が仕事をしていることへの評価が低い	【 3 . 2 %】
13	その他（具体的に：)	【 4 . 4 %】
14	不安や障害はない	【 3 . 2 %】

問 16 あなたは、今後も、現在の仕事を続けたいと思いますか。あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

1	続けたい	} 次ページ問 18 へ	【 3 6 . 8 %】
2	どちらかと言えば続けたい		【 4 1 . 2 %】
3	どちらかと言えば変えたい	} 次ページ問 18 へ	【 1 2 . 6 %】
4	変えたい		【 4 . 8 %】
5	仕事を辞めたい	→	【 2 . 9 %】

問 17 【問 16 で「3 どちらかと言えば変えたい」「4 変えたい」を選んだ方にお伺いします】

仕事を変えたい理由は何ですか。最もあてはまるものを3つまで選んで○をつけてください。

1	家事・育児・介護等との両立が困難だから	【 1 4 . 6 %】
2	通勤が負担になるから	【 1 4 . 6 %】
3	夫・パートナーや家族の理解が得られないから	【 2 . 6 %】
4	体力的に、仕事がきついから	【 3 1 . 1 %】
5	人間関係など、精神的に辛いから	【 2 9 . 1 %】
6	今の職場が今後も存続するか心配だから	【 1 5 . 9 %】
7	今の職場は、妊娠・出産した人や介護を抱える人、一定年齢に達した人は辞めざるを得ない雰囲気だから	【 1 2 . 6 %】
8	今より賃金や待遇が良い仕事に就きたいから	【 4 2 . 4 %】
9	今の仕事にやりがいを感じられないから	【 2 5 . 8 %】
10	今の仕事以上にやりたいことがあるから	【 1 3 . 9 %】
11	その他（具体的に：)	【 1 2 . 6 %】

問 20 一般的に職場において女性の昇進・昇格の障害となっているものは何だと思えますか。
あてはまるものをすべて選んで○をつけてください。

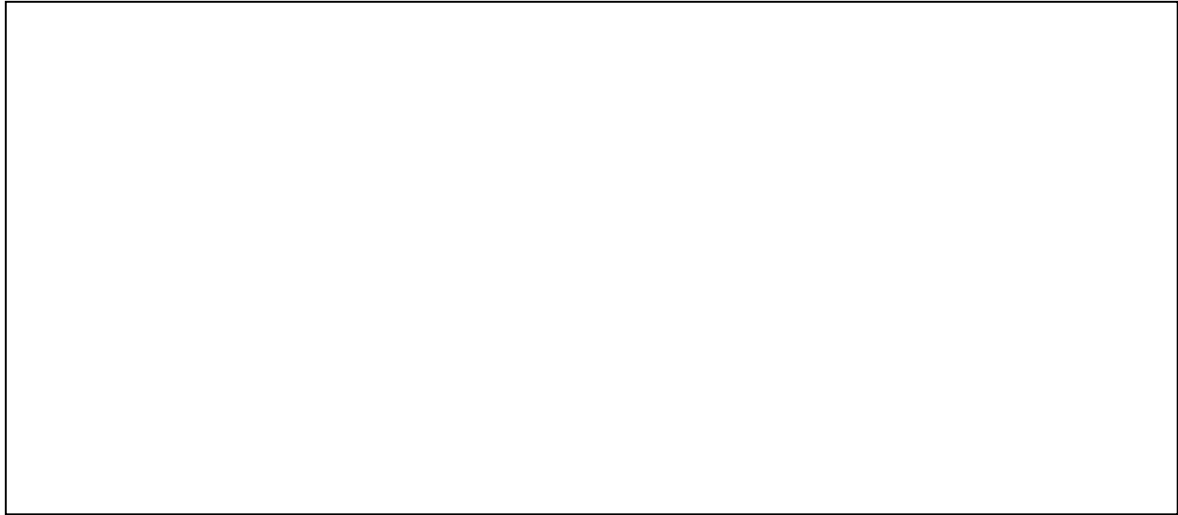
1	女性は能力や実績が評価される職種に就いていないこと	【19.4%】
2	女性は転勤・出張等の要求に応えられないこと	【42.6%】
3	研修・訓練などにおける男女間の機会の不均衡	【9.3%】
4	女性自身の昇進・昇格への意欲の欠如	【24.8%】
5	女性には家事・育児・介護等の負担が課せられていること	【76.6%】
6	女性ということで正当な評価が得られないことが多いこと	【28.8%】
7	男は仕事、女は家事・育児というような伝統的社会通念	【49.5%】
8	その他（具体的に：)	【3.6%】
9	特になし	【3.3%】

問 21 あなたは、女性の活躍推進の取組みに関する情報のうち、どの情報が特に必要になると思えますか。あてはまるものをすべて選んで○をつけてください。

1	保育所や幼稚園に関する情報（場所、保育料など）	【67.7%】
2	放課後児童クラブ（子どもルーム）に関する情報（場所、利用料など）	【58.3%】
3	介護・家事の支援サービスに関する情報（内容、利用方法など）	【50.5%】
4	就職・再就職のための職業訓練に関する情報（利用方法、相談先など）	【42.1%】
5	起業・NPO活動のための情報（支援内容、相談先など）	【8.9%】
6	仕事と育児・介護との両立支援制度に関する情報（内容、利用方法など）	【64.8%】
7	出産・育児などを経ながら就業を継続している女性のモデル事例に関する情報	【30.5%】
8	積極的に家事・育児に参加する男性のモデル事例に関する情報	【22.2%】
9	ワーク・ライフ・バランスの推進や、働き方の見直しの実践例に関する情報	【36.2%】
10	その他（具体的に：)	【2.0%】

女性の“働くこと”に関するご意見などがありましたら、

自由にお書きください。



ご協力ありがとうございました。

同封の封筒にて7月31日（金）までにご投函ください。

女性の“働くこと”についての調査

調査結果報告書

○平成 28 年 3 月 発行
○発 行 千葉市市民局生活文化スポーツ部男女共同参画課
〒260-8722
千葉市中央区千葉港 1 番 1 号
電 話 043-245-5060

千葉市男女共同参画センター
(指定管理者) 公益財団法人千葉市文化振興財団
〒260-0844
千葉市中央区千葉寺町 1208 番地 2
電 話 043-209-8771